不熟練	但シ食費 四志乃至六志	二拾志乃至二拾六志
農園勞働者		
半熟練		二拾四志乃至六拾志
不熟練		拾二志乃至二拾四志
	但シ食費 四志乃至六志	
家庭勞働者		
半熟練		三拾志乃至八拾志
不熟練		拾貳志乃至貳拾四志

第一三、歐洲人對土人問題

「ケニヤ」ニ於ケル歐洲人カ主トシテ英國人ナル事ハ前ニ述ヘタル通リナルカ、是等英國人ノ土人ニ對スル態度ハ之ヲ分ツテ二トナス、其ノ一ハ徹頭徹尾土人ノ利益ノ優越ナル事ヲ認メ、「ケニヤ」ノ政治ノ根本方針ハ「ケニヤ」ヲシテ土人ノ「ケニヤ」タラシムルニ在リトナシ、其ノ二ハ之ト反對ニ白人ノ利益ヲ優越ナリトシ、「ケニヤ」ハ之ヲ白人ノ「ヤニヤ」タラシメサルヘカラストナスモノニシテ、從來第一說ハ、英國政府ニ依リテ支持セラレ、第二說ハ「ケニヤ」在住ノ英國移民ニ依リテ主張セラルルモノナル處、近年ハ英國政府モ亦次第ニ强硬ナル移民ノ意見ニ引キ摺ラレ、漸次第一說ト第二說トノ中間說ニ傾キツツアルモノノ如シ

蓋シ英國カ東阿弗利加ヲ占領シタルハ、十九世紀ノ半以來歐洲列國ノ間ニ於テ最モ盛ナリシ帝國主義ノ結果ナル事ハ云フ迄モナシト雖モ、然カモ表面ノ動機ハ當時阿弗利加ノ各地ニ於テ最モ悲慘ヲ極メタル奴隷狩及其ノ賣買ニ對スル義憤ヨリ起リ、蒙昧ナル野蕃人ヲシテ其ノ不幸ヲ免レシメ、且ツ之ヲシテ文明ノ恩澤ニ浴セシメントスル事ヲ其ノ大ナル理由トナシタルモノナリトス、是レ英國ノ政治家カ仁者ノ態度ニ出テサリシ所以ニシテ、餘リ露骨ナル帝國主義的行動ヲ執ル事ハ世間ニ對シテ大ニ憚リタル所以ナリトス、況ヤ當時東阿弗利加ノ事情ハ未タ世間ノ知ル所トナラス、英國人ハ之ヲ以テ氣候ノ酷惡ニシテ移住ニ適セサル不健康地ナリト思惟シ、之ヲ英國ノ植民地トナスカ如キ事ハ其ノ思ヒモ寄ラサリシ所ナリトス、從ツテ英國政府トシテハ此ノ地方ヲ出來得ル限リ、土人ヲ訓練シ、英國ノ爲メ經濟的ニ價値アルモノト爲ス事ヲ以テ滿足スヘシトシ、少クトモ表面ノ政策トシテハ土人ヲ指導シ、土人ノ向上ヲ計ル事ヲ以テ其ノ方針トシ、所謂「ケニヤ」ヲシテ土人ノ「ケニヤ」タラシムル事ヲ其ノ政治看板ト定メタリ、是レ誠ニ理ノ當然ナルモノニシテ、之ニ對シテハ何人モ異議ヲ狹ミ得ヘキニアラス

然カルニ此ノ政策ハ「ケニヤ」ノ内地カ溫和ナル氣候ヲ有シ地味ノ豐ナル事ヲ知ラルルニ及ヒ大ニ其ノ可否ヲ疑ハルル事ト成リ、相當識者ノ間ニ於テモ之ニ對シ反對ノ聲ヲ聞クニ至リタルカ、一九〇二年ヨリ一九〇四年迄ノ此ノ地方ノ總督トシテ令名アリシ「サー・チャールス・エリオット」ハ一九〇五年出版ノ東阿弗利加ト題スル著書ニ於テ同地方カ歐洲人ノ植民地トシテ適當ナル事ヲ述ヘ、頻リニ白人優越論ヲ振廻ハシ以テ「ケニヤ」ヲ白人ノ植民地ト爲スヘキ事ヲ主張シ、「苟モ歐洲人ノ制度、理想及技量カ土人ノ夫ニ優ル事ヲ認ムル者ハ、阿弗利加ニ白人ノ植民地ヲ作ル事カ未開ノ蕃人ニ恩惠ヲ與ヘ、人間ノ歷史上ニ一ノ新紀元ヲ開クモノナル事ヲ拒ミ得サルヘシ、但シ歐洲人ノ利益ノ優越ナル事ヲ認ムル事ハ土人ニ對シテ暴力ヲ加フル事ヲ許スト云フ意ニアラス、吾人ハ宜シク歐洲人ヲシテ此ニ美田ヲ開カシムヘシ、土地ノ利用ヲ知ラサル遊牧人ヲシテ之ヲ自由ニセシムヘキニアラスト云フニアリ云々」ト論シ居レリ、是レ英國人ノ眞意ヲ最モ正直ニ且ツ露骨ニ述ヘタルモノニシテ、爾來英國政府ノ政策モ亦漸次此ノ方針ニ傾キ、一方ニ於テ土人ノ居住地ヲ整理シ、土地留保ノ制度ヲ設ケ、其ノ居住區域ヲ定ムルト共ニ、他方ニ於テ高原地中ノ優良地ヲ歐洲人ノ爲メニ開放シ、大ニ英國人ノ移住ヲ奬勵シ、以テ從來ノ土人本位ノ政策ヲ變更シタルノミナラス、右ノ高原地ニ對シテハ別項ニ說明セル通リ、一九〇六年ニ至リ印度人及其ノ他ノ亞細亞人排斥ヲ斷行シ、大ニ白人優越主義ヲ發揮セリ

然レトモ責任ヲ重スル英國政策トシテハ餘リ露骨ニ行動シ難カリシカ、又ハ他ニ何等理由アリヤハ暫ク之ヲ別トスルモ、同政府ハ其ノ後ニ於テモ屢々政府ノ土人ニ對スル根本政策ハ一ニ彼等ノ利益ヲ保護スル事ニアリト云ヒ、一九二三年印度人排斥問題解決ノ際、英國政府ハ土人ト移住者トノ關係ニ付其ノ根本方針ナルモノヲ發表シ、其ノ第一項ニ於テ「ケニヤ」ハ元來阿弗利加ノ一境土ナリ、從ツテ英國政府ハ阿弗利加土人ノ利益ヲ保護スル事ヲ以テ其ノ根本方針トスヘシ、故ニ若シ土人ノ利益ト移民ト牴觸スル時ハ、移民ノ利益ハ土人ノ利益ニ依リテ支配セラルヘシト爲ス、但シ歐洲人、印度人及「アラビア」人等ノ利益ハ之ヲ擁護スルヲ要スルモ、急激ナル變化ハ避ケサルヘカラス、「ウガンダ」、「タンガニカ」ニ於テモ亦然リ云々」トノ旨ヲ宣明シ、以テ從來ノ仁者ノ態度ヲ維持シタルカ、右ノ方針ハ啻ニ「ケニヤ」在住ノ英國人ノ多數ノ希望ト相容レサルノミナラス、政府ノ實際ノ政策トモ一致セス、例ヘハ二百六十萬人ノ「ケニヤ」ノ土人ノ留保人カ曩ニ拂下又ハ貸下ニ依リテ開放セラレタル歐洲人ノ移住地ニ比シ遙ニ狹隘ナルカ如キ、又土人ノ勞働ヲ奬勵ストノ理由ノ下ニ極メテ高率ノ人頭稅ヲ課スルカ如キ、是等ハ同地ノ特種ノ事情ニ鑑ミ、必スシモ非難スヘキニアラサルモ、看板ト實際ノ一致セサル事ハ掩ヒ難キ事實ナリト

ス

但シ民間側ニ於テ「土人ノ阿弗利加」主義ヲ主張スル者ハ主トシテ同地在住ノ宗教家ニシテ、彼等ハ多ク土人ノ土着主義ヲ主張シ、土人ノ出稼ハ土人ノ家庭生活竝ニ彼等ノ間ニ最モ必要ナル部落組織ヲ破壞スルモノナリトラ頻リニ土人ノ自作農業ヲ主張シ、之レカ爲メ歐洲人ノ移住者カ勞働者ノ供給ヲ失ヒ、事業ノ經營ニ困難スル事アリトモ、土人ノ利益保護ノ爲メナレハ已ムヲ得ストノ說ヲ爲シ、又「白人ノ阿弗利加」主義ヲ主張スル者ハ主トシテ「ケニヤ」ニ於テ農業ニ從事スル英國人ノ移民ニシテ、彼等ハ白人ノ優越權ヲ振リ廻ハシ、土人ノ自作農業ニ反對シ、土人ノ留保地ノ開放、土人ニ對スル勞働ノ强制等ノ如キ我田引水說ヲ主張シツツアリテ、其ノ最モ甚タシキモノハ政府ノ仁義主義ニ愛想ヲ盡クシ植民地ノ獨立ヲサエ唱ヘツツアリテ、極端ナル仁義說ヲ極端ナル利我說ト兩々相竝ンテ盛ニ議論ヲ鬪ハシツツアル次第ナルカ、英國政府ノ態度ハ漸次英國移民ノ意見ニ壓迫セラレ灰色的中間說ニ傾キ、出先ノ官憲ノ如キモ亦之ニ引摺ラレツツアルカ如キ觀ヲ爲セリ

果セル哉一九二六年「ケニヤ」ノ首府「ナイロビ」ニ於テ開カレタル植民地知事會議ハ此ノ問題ニ論及シ、左記ノ要領ノ決議ヲ通過セリ

若シ東阿弗利加ヲ土人本位ノ政策ニ委ネ、政府ハ單ニ土人ヲ指導スルノミトナシ、總テノ生產ヲ土人ノ手ニ放任セサルヘカラストセハ、其ノ結果ハ忽チ生產ノ杜絕トナリ、物資ヲ外國ニ仰カントスル世界ノ經濟的要求ニ背ク事トナルヘシ、故ニ阿弗利加ニ對シテハ須ラク二重政策ヲ採用シ、土人ト土人ニ非ル者トヲシテ兩々相並ンテ生產ニ從事セシムヘキ事ト爲スヘキナリ

（中略）、然レトモ二重政策ニハ免レ難キ幾多ノ困難ナル問題アリ、卽チ文明國ノ政府ハ一方ニ於テ其ノ人民ノ實質上ノ進步ヲ計ルト共ニ、其ノ國土ノ生產力ヲ極度ニ開發スヘキ義務ヲ負ハサルヘカラス、從ツテ政府ニ取リテ最モ必要トスル所ハ此ノ二ノ目的ヲ克ク調和シ、之ヲ達成スルニ最善ノ方法ヲ求ムル事ニアリ云々

是レ卽チ「土人本位ノ政策ニハ滿足シ難シ、政府ハ土人ノ利益ヲ保護スル義務ヲ有スルト同時ニ世界ノ爲メニ土地ヲ開發スル義務ヲ有ス、而シテ土地ノ開發ハ白人ノ手ニ依リテ之ヲ爲スヘク、其ノ爲メニハ或程度迄土人ノ利益ヲ犧牲トスル事ヲ忍ハサルヘカラス」ト云フ意ニシテ、之ヲ二重政策ト稱セリ、此ニ於テ政府モ亦深ク省ル所アリ、爾來研究中ノ處、一九二七年三月倫敦ニ於テ植民地會議開催ノ際東阿弗利加英領各地代表者ト植民大臣ト協議ノ結果、東阿弗利加聯邦問題ニ付調査スル事ト成リ、其ノ際該調査事項中ニ前記ノ二重政策ニ關シ、如何ニシテ之ヲ最モ進步

的ニ政治上竝ニ經濟上ノ問題ニ適用シ得ヘキヤトノ一項ヲ加フル事トナシ、目下其ノ研究中ナルカ、斯クシテ歐洲人對土人ノ問題ハ最早理屈ノ域ヲ脫シテ實際上ノ問題トナリ、例ヘハ土人ノ勞働、敎育、自作農業、留保地、歐洲移民ノ事業助成等ノ問題ニハ白人ノ阿弗利加主義ト土人ノ阿弗利加主義トヲ如何ニシテ最モ實際的ニ且ツ合理的ニ調和スヘキヤハ政治家ノ大ニ研究セサルヘカラサル所トナレリ、但シ東阿弗利加ニ於ケル土人ノ狀態ハ極メテ幼稚ニシテ未タ人種的自覺ノ域ニ達セス、從テ政權ニ對スル要求ノ如キハ彼等ノ未タ夢想セサル所ナリトス

第一四、歐洲人對印度人問題

東阿弗利加ニ於テ英國政府ノ最モ困難トスル問題ハ歐洲移民ノ印度人排斥問題ナリトス、蓋シ印度人ハ英國カ「ケニヤ」ヲ保護國トシ又ハ植民地トシテ領有シタル以前ヨリ早ク既ニ此ノ地方ニ入リ込ミ、最初ハ沿岸ニ於テ其ノ勢力ヲ扶殖シ、夫ヨリ漸次內地ニ侵入シ土人ノ部落ニ於テ物々交換ノ方法ニ依リテ商業ヲ營ミツツアリタル處、一八九五年英國カ之ヲ保護國ト爲スニ及ヒ、英國ハ此ノ狀態ヲ以テ未開ノ熱帶地ヲ開拓スルニ好都合ナリト認メタルノミナラス、彼等ヲ此ノ地方ニ誘導スル事ハ稠密ナル印度ノ人口ヲ調節スルニモ亦適當ナリト認メ、印度人ノ移住ニ對シテハ出來得ル限リ便宜ヲ與ヘ、印度銀行ヲ招イテ「ケニヤ」政府ノ預金銀行ト爲シ、同時ニ印度人ノ移民ノ爲ニ預金及送金等ノ事務ニ當ラシメ、「ケニヤ」ト印度トノ商業上ノ關係ヲ密接ナラシムル事トセリ、殊ニ英國政府ハ「ケニヤ」占領後直ニ「モムバサ」港ヨリ西方ノ奧地「ヴィクトリア」湖畔迄五百七十八哩ノ間ニ「ウガンダ」鐵道ヲ建設スル事トナシ、之ニ必要ナル多數ノ熟練及不熟練ノ勞働者ヲ印度ヨリ輸入シタル處、是等ノ印度人ノ多數ハ鐵道完成後モ留リテ各種ノ商業又ハ職業ニ從事スル事トナリ、「モムバサ」、「ナイロビ」、「キスム」等ノ要地ハ勿論、如何ナル僻遠ノ內地ニ迄テモ深ク喰ヒ入リ、上ハ堂々タル貿易商ヨリ中ハ官廳商社ノ事務員、下ハ下級ノ小商人職人家庭ノ使用人等ニ至ル迄、殆ト一切ノ事業及職業ヲ獨占シ、「ケニヤ」全體ニ亙リ牢乎トシテ拔クヘカラサル根底ヲ造リ、殊ニ商業ニ關シテハ棉花其ノ他ノ生產品ノ買入レ、綿布雜貨等ノ土人ノ需要品ノ賣込ニ付直接土人ト接觸シ之ト取引スル者ハ總テ印度人ナルニ依リ、如何ナル大商店ト雖モ聊モ東阿弗利加ニ於テ商業ヲ營マントスル以上ハ、取引ノ大小ニ拘ラス、是等ノ印度人ヲ相手ト爲ササルヘカラサルモノト成リ居レリ

然ルニ「ウガンダ」鐵道ノ工事ノ進捗スルト共ニ「ケニヤ」高原ノ氣候ノ好良ナル事ハ漸次英國人ノ知ル所トナリ、從ツテ「ケニヤ」ニ對スル同政府ノ政策モ亦次第ニ變更セラレタル事ハ前

ニ說明シタル通リナルカ、爾來英國移民ノ增加スルト共ニ彼等ハ印度人カ餘リニ深ク且ツ廣ク土人ノ間ニ侵入シ、殆ト「ケニヤ」ノ利益ヲ獨占スルカ如キ事ヲ不快トセリ、果セル哉印度人排斥ノ聲ハ漸次「ケニヤ」在住英國人ノ間ニ現ハレリ、尤モ印度人ニモ幾多ノ缺點ナキニアラス、第一彼等ハ不潔ニシテ衞生ノ何タルヲ解セス、隣人トシテ最モ好マシカラサル事ハ何人モ否ミ難シトスル所ナリ、第二彼等ノ生活程度ハ極メテ低級ニシテ普通ノ文明國人ハ到底之ト競爭スルニ堪ヘス、是レ印度人排斥ノ主タル理由ニシテ、其ノ間人種的偏見ノ大ニ存在スル事ハ云フ迄モナシ、今其ノ排斥事實ヲ擧クレハ大要左ノ四種トナル

(イ) 高原地ヲ歐洲人ノ爲ニ留保シ、印度人ヲシテ之ニ侵入セシメサルコト

蓋シ右ハ英國人ノ發展地トシテ最モ有望ナル「ケニヤ」ノ高原地ヲ白人ノ手ニ於テ獨占セントスルモノニシテ、一九〇八年當時ノ「ケニヤ」總督「サー・ゼー・ヘイス・サドラー」ヨリノ申立ニ依リ植民大臣「エルジン」卿ニ依リテ設定セラレ、爾來歷代ノ大臣ハ之ヲ「ケニヤ」政策ノ金科玉條トセリ、但シ法律上ノ規定トシテハ何等特殊ノ制限ヲ設ケス、單ニ行政上ノ手加減ニ依リ、印度人ニハ高原地ノ所有又ハ賃借ヲ許ササルモノニシテ、名ヲ避ケ實ヲ取ルノ策ヲ用ユル處ハ流石ニ英國人ノ遣口ニシテ、米國人ノ夫レニ比シ遙ニ賢且巧ナリト云フヘシ、因ニ印度人ノ排斥ハ其ノ實一般東洋人ノ排斥ナル事ハ云フ迄モナシ

(ロ) 印度ノ住居地商業地ヲ離隔スル事

右ハ一九一三年「ケニヤ」議會ニ於テ法律ヲ制定シタルモ印度ノ猛烈ナル反抗ニ遇ヒ實施スルニ至ラスシテ止ミタリ

(ハ) 印度人ノ入國ヲ禁止スル事

右ハ一九一八年「ケニヤ」ニ於ケル戰時經濟調査委員ノ報告書中ニ意見トシテ現ハレタルモノニシテ、印度人ノ反抗ニ依リ實現セサル事トナレリ

(ニ) 印度人ニ對シ選擧及被選擧權ヲ認メサル事

從來印度人ハ「ケニヤ」議會ニ於ケル代表權ヲ認メラレス、一九一九年ニ至リ政府ハ選擧法改正ノ際、同議員ノ數ヲ歐洲人十一印度人二名ト爲サン事ヲ企テタルモ、議會ノ反對ニ遇フテ果サス、印度人モ亦之ヲ以テ不滿足トセリ

右ニ對シ印度人ハ大ニ英國人ノ態度ヲ怒リ、檄ヲ飛ハシテ印度ノ輿論ヲ喚起シ其ノ反英的感情ヲ挑發スルト共ニ「ケニヤ」ニ於テモ之ト呼應シテ盛ナル反對運動ヲ起シ、印度人全體トシテ無差別平等ノ待遇ヲ要望シ、「ケニヤ」議會及市會ニ於ケル平等ノ選擧及被選擧權ヲ主張シテ却カ

ス、茲ニ於テ印度人排斥問題ハ大ニ英國朝野ノ注意ヲ喚起シ、或ハ英國議會ノ討議トナリ、或ハ英國政府及印度政府ノ協議トナリ、或ハ帝國議會ノ問題トナルニ至リタルカ、「ケニヤ」ニ於ケル英國移民ノ意見モ亦極メテ强硬ニシテ容易ニ讓歩セントセス、中ニハ米國獨立ノ先例ヲ引用シ、極メテ矯激ナル意見ヲ唱フル者アリ、形勢容易ナラサルニ至リタルニ依リ、英國政府ハ再三委員ヲ任命シ、其ノ解決ニ努メタルモ、其ノ目的ヲ達スル事能ハサリシカ、一九二三年ニ至リ同政府ハ遂ニ其ノ解決法ヲ決定シ左記要領ノ通リ發表セリ

(イ) 一般的政策

「ケニヤ」ハ元來阿弗利加ノ一境土ナリ、從ツテ英國政府ハ阿弗利加土人ノ利益ヲ保護スル事ヲ以テ其ノ根本方針トスヘシ、故ニ若シ土人ノ利益ト移民ノ利益ト牴觸スル時ハ移民ノ利益ハ土人ノ利益ニ依リテ支配セラルヘシト爲ス、但シ歐洲人、印度人及「アラビヤ」人等ノ利益ハ之ヲ擁護スルヲ要スルモ、急激ナル變化ハ之ヲ避ケサルヘカラス、「ウガンダ」、「タンガニカ」ニ於テモ亦然リ

(ロ) 將來ノ憲法的進化

從來「ケニヤ」ニ對シ自治制度ノ設立ヲ主張スル者尠カラサルモ、帝國政府ノ見ル所ニ依レハ、目下ノ處現住ノ制度ヲ以テ最モ適當ナリト認ム、尤モ同植民地ニ對シ將來自治制度ヲ施行スル事ニ就テハ、他ノ植民地ニ於テ成功セル英國傳來ノ主義ニ從ヒ、歲月ノ經過ト經驗トニ依リ最善ノ手段ヲ講スヘシ

(ハ) 實際上ノ問題

(甲) 議會議員・印度人ニ植民地議會ニ於ケル代表權ヲ與フル事ニ就テハ反對ナキモ、只問題トスル所ハ代表ノ方法如何ニ在リ、但シ選擧ノ方法ハ共通選擧制及階級別選擧制ノ孰レカノ方法ニ依ルヘキモノト決定ス、但シ此ノ方法ハ印度人ト歐洲人トヲ區別シ、各ヲ一ノ選擧區トシ、各區ニ於テ別々ニ議員ヲ選擧スルモノニシテ、選擧及被選擧資格ヲ同一トシ、議員ノ數ヲ歐洲人十一名、印度人五名、「アラビヤ」人一名トス、但シ官選議員ノ數ハ追ツテ之ヲ定メ、官職及官選議員ノ數ヲ過半數トスル現在ノ制度ハ之ヲ維持ス、因ニ右ノ階級別選擧制ハ他日土人ニ代表權ヲ與フル場合ニ其ノ基礎トナルヘシ

(乙) 參事會議員・總督ニ於テ本議員ヲ任命スル現在ノ制度ハ之ヲ維持スヘシ、但シ目下ノ處印度人一名指名セラレ居レリ

(丙) 市會議員・總督ニ於テ本議員ヲ任命スル現在ノ制度ハ之ヲ維持スヘシ、但シ目下ノ處市會

ハ首府「ナイロビ」ニノミ存在ス

(ニ) 市内ニ於ケル離隔問題

商業地ニ於ケル歐洲人非歐洲人ノ離隔ハ之ヲ實行セス

居住地ニ於ケル離隔ハ從來未決ノ儘ナリシ爲メ、市内ノ土地拂下ヲ中止シ居リタル處、右ハ警察、衛生、建築上ノ嚴重ナル取締ヲ勵行スル限リ、其ノ必要無キニ依リ、同制度ハ之ヲ廢止ス、但シ土人ニ對シテハ別ニ居住地ヲ設定シ、出來得ル限リ之ヲ離隔ス

(ホ) 高原地留保問題

高原地ヲ歐洲人ニ留保スル事ヲ法律ノ規定ニ依リテ定ムル事ハ帝國政府ノ主義ト一致セサルニ依リ、行政處分トシテ之ヲ亞細亞人ニ讓渡セサル從來ノ方針ハ引キ續キ之ヲ維持スヘシ、但シ右ハ拂下ノミナラス轉賣ニモ適用ス

(註、「ケニヤ」在住ノ印度人ハ目下ノ處餘リ農業ニ趣味ヲ有セサルノミナラス、高原地ハ大部分其ノ拂下ヲ終リ、殘有地少ナキニヨリ、本問題ハ實際上價値少ナシトノ事ナリ)

(ヘ) 移民問題

帝國ノ他ノ領土ヨリ來ル移民ニ對シテハ、非常ノ場合ノ外ハ其ノ入國禁止セス、但シ好マシカ

ラサル移民ハ人種國籍ノ如何ヲ問ハス之ヲ禁止スル必要アルモ、現在ノ「ケニヤ」移民法ハ其ノ目的ヲ達スルニ充分ナリ、然レトモ他日土人カ向上シ移民ノ入國ノ爲メニ職業ヲ得ルニ困難シ、其ノ利益ヲ奪ハルルカ如キ事アル場合ニハ、右利益保護ノ爲メ相當ノ措置ヲ取ルヘシ

斯クシテ英國政府ハ一時其ノ難關ヲ切リ拔ケ、表面丈ケハ暫ク小康ヲ呈スルニ至リタルモ、「ケニヤ」在住ノ歐洲人間ニハ印度人排斥協會ナルモノ存在シ、早晩白人ノ天下ヲ造ラン事ヲ計畫シ、同時ニ印度人側ニ於テモ深ク白人ノ横暴ヲ憤慨シ、母國印度ノ同胞ニ訴ヘテ反英ノ氣ヲ煽リ、英印間ノ政治問題トシテ之ニ對抗セントスル等、問題ノ前途甚タ危險ノ感ナキヲ得ス、惟フニ「ケニヤ」ニ於ケル印度人ノ問題ハ同一事情ノ下ニアル「ウガンダ」及「タンガニカ」ニ於テモ早晩逢着スヘキ問題ナルノミナラス、印度人ノ排斥ハ其ノ實印度人ヲ中心トスル東洋人ノ排斥ヲ意味スルモノナルニ依リ、東阿弗利加ニ於テ既ニ大ナル商業上ノ利害ヲ有スル我日本トシテハ、大ニ問題ノ成行ニ注意シ平素ノ警戒ヲ怠ルヘカラス

第一五、農　業

(一)一般狀況

「ケニヤ」ハ他ノ東阿諸國ト同シク純然タル農業國ニシテ、製造品ハ殆ト總テ外國ヨリノ輸入ニ仰ケリ、然カモ農產ノ種類ハ極メテ尠ク其ノ主要品ト稱スル者ハ僅ニ五指ヲ屈スルニ過キス、但シ其ノ耕作ハ土人及歐洲人ニ依リテ行ハルルモノナル所、土人ハ孰モ自已ノ境遇ニ滿足シ、自家用食料品ヲ生產スル外自ラ進シテ土地ヲ耕シ物資ヲ生產スルカ如キ事ヲ念トセス、而シテ偶々土地ヲ耕作スル場合ニ於テモ其ノ方法ハ極メテ原始的ナルノミナラス、種子ノ選擇等ニ就テモ注意ヲ拂ハサルニ依リ、品種ノ不良且不整ナルヲ免レス、但シ近年ハ政府ノ奬勵竝ニ指導ニ依リ漸次耕作ノ進步ヲ來シ、弗々歐洲ヨリ輸入ノ農具ヲ使用シ、又政府ヨリ供給スル種子ヲ蒔クニ至レルモ、是等ハ僅ニ一部ノ者ニ止リ、大體ニ於テハ今尙ホ舊體ヲ墨守スルニ止マレリ、然カノミナラス土人ハ概ネ怠情ニシテ他人ノ爲メニ勞働スル事ヲ好マス、歐洲人ノ農業家ハ容易ニ勞働者ヲ得ル事能ハサルニ依リ、其ノ耕作ハ成ルヘク勞力ヲ節約シ機械力ニ依ル事ヲ得ヘキ農作選フニ依リ、土人ノ農作トハ多クノ場合ニ於テ其ノ種類ヲ異ニセリ、但シ一九二六年ノ統計ニ依レハ歐洲人ノ所有又ハ支配ニ屬スル土地ノ總面積ハ四、五八八、〇〇〇英加ニシテ、其ノ內開墾地一八〇九ケ所此ノ總面積四六三、〇〇〇英加、一ケ所ノ平均面積二五六英加ニ當レリ、然レトモ此ノ外ニ牧場トシテ使用セラルモノ、牛一頭ニ付六英加、羊、山羊一頭ニ付三英加ノ割合ニテ、約百九十萬八千五百英加此ノ一農園當リ一〇五五英加ニ達スルニ依リ、現ニ歐洲人ニ依リテ利用セラルル總面積ハ二、三七〇、〇〇〇ノ英加此ノ一農園當リ一、三二英加ト成ル、尙歐洲人ノ農園ニ要スル勞働者ノ使用ニ付、政府カ如何ナル好意的態度ヲ執リツツアルヤハ「土人ノ勞働」ト題スル項ニ於テ說明シタルニ依リ略ス

(二)政府ノ施設

當植民地ノ農業ハ農務部長ノ監督ニ屬シ、其ノ下ニ次長、統計官、計算方、監督及十四人ノ書記ノ外ニ珈琲技師、檢徵鏡技師、氣象技師、植物技師、化學技師、「プランティション」巡檢、其ノ他ノ專門家、土人掛監督二名及技師六名ヲ置キ、農業ニ關シ研究ヲ爲スト共ニ歐洲人ノ農業家竝ニ土人ニ對シ必要ノ指導ヲ與フ、但シ其ノ方法トシテ別ニ農事試驗所ヲ置キ研究所ヲ設ケ、又土人ニ對シテハ農學校ヲ經營シ又ハ講演會ヲ開キ農業智識ノ普及ヲ計ルト共ニ農具ノ使用ヲ奬勵シ優良ナ種子ヲ配賦シ次ニ品種ノ改良ヲ計レリ、尙土人ノ指導ニ關シテハ湖畔地方ニハ英國人技

師二名及土人技手十六名、高原ノ「キクユ」地方ニハ英國人技師二名及土人技手十八名、沿岸地方ニハ英國人技師一名土人技手十人ヲシテ之ニ當ラシム、又學校ハ二ケ所アリテ各約四十名ノ生徒ヲ收容シ卒業生ハ之ヲ農業技手ニ採用ス

右ニ關シ茲ニ特筆スヘキ事ハ高原地ノ「カベテ」ニ於ケル家畜研究所ノ整頓セル事ニシテ同所ハ當ニ「ケニヤ」ノ研究所トシテノミナラス廣ク東阿ノ研究所トシテ夙ニ其ノ名ヲ知ラレ、「タンガニカ」ノ「アマニインスチチュート」ト相竝ヒ幾多ノ有益ナル研究ヲ爲シ斯道ノ爲メ盡ス所尠カラス

(三) 農產物ノ種類

今主要農作物ヲ耕作者ノ種類ニ依リテ分別スレハ左ノ如シ

歐洲人ノ農作・珈琲、「サイザル」麻、小麥、大麥、茶

歐洲人、印度人、土人ノ農作　玉蜀黍、甘蔗、馬鈴薯、「ココナッツ」

土人ノ農作・稷、「シムシム」胡麻、棉花、落花生、豆

一九二七年ニ於ケル歐洲人農作ノ概況ヲ示セハ左ノ如シ

品名	珈琲	「サイザル」麻	小麥	茶	玉蜀黍
耕作英反	七五、〇〇〇	七一、〇〇〇	六五、〇〇〇	三、一五六	一九三、〇〇〇
產額 cwt	一四七、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	二一五、〇〇〇	一、七〇〇封度	二、三四八、〇〇〇
輸出額 磅	一、一四〇、〇〇〇	四六九、〇〇〇	三、二四四(?)	—	五〇六、〇〇〇

(イ) 珈琲

本品ハ農產物ノ大宗ニシテ其ノ輸出額ハ農產物全輸出額ノ約三分ノ一ニ當リ、歐洲人農業家ノ三分ノ一卽チ七百十四人ハ珈琲生產者ナリト云フ、但シ品種ハ主トシテ「アラビカ」ニシテ「ケニヤ」ノ高地ニ於テ栽培セラレ、其ノ收獲高ハ一英加ニ付三分ノ一噸乃至四分ノ一噸ニ達ス、但シ品質ハ「タンガニカ」領「キリマンジャロ」地方ノ產ニ及ハスト云フ、尙近年政府ハ海岸地方ニ於テ「ロバスタ」及「リベリヤ」種ノ栽培ヲ奬勵シ居レリ

(ロ) 「サイザル」麻

本耕作ハ極メテ近年ノ發達ニ係リ栽培地ノ約二分ノ一ハ未タ三ケ年ニ滿タス、然カモ年々非常ナル速力ヲ以テ擴張セラレ、一九二五年ニハ約七千三百英加ナリシモ一九二六年ニハ約一萬一千英加ニ增加セリ

(ハ) 玉　蜀　黍

本品ハ廣ク各地ニ於テ栽培セラレ前途極メテ有望ナリト認メラル、但シ當領内ニ於ケル一英加ノ平均生産額ハ約六袋（一袋ハ二百封度）ニシテ南阿ノ八袋ニ比シ好良ナリト云フヘカラス、輸出額ハ一九二六年ノ二十八萬磅ニ對シ一九二七年ハ五十萬磅ニ增加シタルカ、其ノ内約二割半ハ土人ノ生産ニ係レリト云フ

(ニ) 小　麥

本品栽培モ亦年々長足ノ進歩ヲ爲シ、一九二五年ノ二萬四千英加、一九二六年ノ三萬英加ニ對シ、一九二七年ニハ六萬五千英加ニ增加セリ、今一息ニテ東阿英領内ノ自足ヲ保持スルニ足ルヘシ、目下當領内ニ製粉所八ケ所アリ一九二五年ノ製粉高約六萬四千袋ニ達シタリ

(ホ) 「コ　コ　ナッツ」

海岸地方ノ主要産物ニシテ栽培面積約九千英加輸出高一九二六年ニハ二十八萬磅、一九二七年ニハ五十一萬磅ニ達シタリ

(ヘ) 甘　蔗

栽培面積約七千英加ナルモ未タ自足ノ域ニ達セス、一九二六年ニハ約二萬一千磅ヲ輸入シ、一九二七年ニハ一萬一千磅ヲ輸入セリ

(ト) 綿　花

主トシテ「ヴィクトリア」湖畔「カピロンド」地方ニ栽培セラレ海岸地方ノ「マリンヂィ」及「タナ」河流域ニ於テモ多少ノ産出アルモ、一九二六年度ニ於テハ約五、一四九磅、更ニ又一九二七年度ニ於テハ不作ノ爲メ僅ニ一七三一磅ニ止マレリ、然カモ將來ノ産額ハ最高五萬俵ヲ越ユル事困難ナルヘシト云フ

第一六、牧　畜

高原地方ハ家畜ノ飼養盛ニシテ歐洲人ノ飼養數約四百十萬頭土人ノ飼養數約九百五十五萬頭、總計千三百六十六萬頭ニ達セリ、今之ヲ種類別ニシテ示セハ左ノ如シ

種　類	歐洲人飼養數	土人飼養數	合　計
牛	二一五、六〇〇	三、二六〇、〇〇〇	三、四七五、六〇〇
馬	二、一〇〇	二〇〇	二、三〇〇
騾	一、〇〇〇	三五、〇〇〇	三六、〇〇〇
驢	七〇〇	三〇〇	一、〇〇〇
馬			

羊	二四二、三〇〇	二、六〇九、〇〇〇	二、八五一、三〇〇
山羊	三、六〇〇、〇〇〇	三、五〇〇、〇〇〇	七、一〇〇、〇〇〇
豚	四四、〇〇〇	—	四四、〇〇〇
駱駝	—	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
合計	四、一〇五、七〇〇	九、五五四、五〇〇	一三、六六〇、二〇〇

以テ如何ニ牧畜カ盛ナルヤヲ察スルニ足ル

尙土人ノ出荷ニ係ル牛革並ニ羊及山羊ノ毛皮ノ輸出ハ左ノ如シ

年	(牛革) 數量(百封度)	價格(磅)	(羊及山羊皮) 數量(百封度)	價格(磅)
一九二五年	六二、一〇〇	二六〇、九〇〇	八二五、四〇〇	五四、六〇〇
一九二六年	五一、六〇〇	一八〇、四〇〇	九九〇、二〇〇	五五、五〇〇

第一七、林業

今日迄ニ留保地トシテ確定シタル森林ハ合計二、五〇三、〇〇〇英加ニシテ此ノ外ニ「マサイ」、「ナンヂー」、「マラケット」土人留保地ニ森林豫想地約五十萬英加アルヲ以テ總計約三百萬英加ニ達スルモ、其ノ内立木ノ豐富ナル處ハ約百八十五萬英加ニシテ他ハ巨巖絶壁ノ地又ハ荒蕪ノ原野ニシテ利用ノ見込尠シト云フ、但シ右ノ留保森林中木材トシテ價値アル立木ノ有ル處ハ約七十四萬英加ニシテ其ノ内ニハ交通不便ノ地多キニ付眞ニ商業上ノ價値アル森林ノミニ就テ云フ時ハ其ノ面積ハ左程廣大ノモノニハアラスト云フ、現ニ當植民地ヲ通シ伐切ヲ許可セラレタルモノハ漸ク十九萬八千英加ニシテ一九二六年出荷セル材木約一、三一七、〇〇〇立法呎ニ過キス、然カモ輸出品トシテハ僅ニ鉛筆ノ材料トシテノ縱及鞣皮用「マングローブ」樹皮、「ワットル」樹皮並ニ其ノ「エキストラクト」等アルノミニシテ、其ノ金額モ亦極メテ少額ニ過キス

第一八、鑛業

當地方ハ鑛產ノ資源ニ乏シキモ只一ノ例外トシテ「マガヂ」湖ヨリ多量ノ曹達ヲ產ス、但シ此ノ湖ハ「ウガンダ」鐵道線上ニ於テ「モムバサ」ヨリ二八六哩ノ「マガヂ」驛ヨリ九十一哩ノ西方「タンガニカ」トノ國境ニアリテ長サ十二哩幅三哩ニ亙リ、湖面全體曹達ヲ以テ掩ハレ採掘スルニ從ッテ逐次後ヨリ湧出ッルモノニシテ、其ノ埋藏量二億噸ニ達スト稱セラル、但シ同曹達ノ採掘ハ最初英國資本家ノ手ニ於テ「マガヂ」曹達會社ト稱スル會社ヲ組織シ「ケニヤ」殖民地政府ヨリ九十九ケ年間採掘ノ特許ヲ受ケ、右ノ「マガヂ」驛ヨリ湖畔迄九十一哩ノ間ニ鐵道ヲ敷設

シ、「キリンヂニ」港ニ專用ノ倉庫及機橋ヲ設ケ開始シタルモ意ノ如クナラス、財政困難ノ結果一九二六年社長「サー・アルフレド・モンド」其ノ地位ヲ去リ「サー・ジョン・ブラナー」其ノ後ヲ襲ヒ次テ「ブラナー・モンド」ナル新會社ノ經營ニ移シ、爾來內容ヲ改善シ設備ヲ整頓シタル結果大ニ其ノ面目ヲ一新シタルノミナラス、大阪商船會社ノ東阿航路開始ノ爲メ日本ヘノ輸出ヲ增加シ其ノ總輸出高一九二六年ノ一九、四二七噸此ノ金額八七、四二六磅ニ對シ一九二七年ニハ一躍五六、六七五噸此ノ價格二六三、一二九磅ニ增加セリ、聞ク所ニ依レハ目下ノ處曹達ノ「モムバサ」値段ハ六磅半位ヲ唱フルモ、其ノ生產費ハ噸當リ三磅半ニハ達セサルヘク、之ニ運賃諸掛ヲ込メ「モムバサ」値段四磅見當ト見レハ充分ナル由ナレハ、會社ノ利益ハ莫大ナルヘシト云ヘリ、最近本品ノ輸出先カ主トシテ日本ナル事實ニ鑑ミ、日本當業者ノ注意ヲ望ム因ニ日本ノ曹達需要額ハ一ケ年大凡十五萬噸內外ニシテ其ノ大部ハ英米兩國ヨリ輸入セリ

日本ニ於ケル「ブラナーモンド」會社ノ代理店ハ大陽曹達株式會社ナリ

第一九、工　業

工業ハ最モ幼稚ニシテ製造品ノ供給ハ殆ト總テ外國ヨリノ輸出ニ仰ケリ、只製糖及製粉業ノミハ近年急速ナル發達ヲナシツツアレハ遠カラス東阿一帶ノ地方ノ需要ニ應スル事ヲ得ルニ至ルヘシ、其ノ外煉瓦「ビール」等ノ製造業アルモ孰レモ皆地方的需要ニ應スルニ過キス

第二〇、交　通

(一) 鐵　道

從來鐵道ハ總督府ノ經營ニ屬スルモノナル所、貧弱ナル同府ノ財政ヲ以テシテハ到底必要ナル線路ノ延長又ハ架設ヲ爲ス事能ハス、是レ其ノ最モ苦痛トスル所ナリシモ、曩ニ英國議會ニ於テ「コロニアル・ストック・アクト」ノ制定アリ、其ノ爲メ殖民地ニ於テ鐵道及港灣ノ工事ノ爲メ起債スル場合ニハ本國政府ヨリ保證ヲ受クル事ヲ得ルニ至リシヲ以テ、總督府ハ右ノ種類ノ土木事業ヲ起スニ當リ、財政上大ニ便利ヲ得ル事ト成レリ

尙殖民地ニハ「モムバサ」ヨリ西方ノ奧地「ヴィクトリア」湖畔ノ「キスム」港トノ間ニ於ケル幹線ト、是レニ連ル幾多ノ支線アリ、孰モ軌間一「メートル」式ニシテ、列車ニハ寢臺ノ設備アルモ寢具ナキニ付旅客自ラ之ヲ携帶スルヲ要ス、今其ノ線路及哩數ヲ示セハ左ノ如シ

(イ) 「ウガンダ」鐵道本線　　延　長　五八七哩

本線ハ「モムバサ」港ト「ヴィクトリア」湖畔ノ「キスム」港トヲ連絡スル當領横斷ノ幹線ニシテ、「ヴォイ」、「マガヂ」、「ナイロビ」、「ナクル」ニ於テ夫々支線ニ接續ス、但シ一八九五年當領地カ英國政府ノ支配ニ屬スルト同時ニ其ノ起工ニ着手シ、一九〇二年ニ至リ完成シタルモノニシテ、當領內地ハ勿論奥地「ウガンダ」ノ發達ハ實ニ本鐵道ノ開通ニ依ル

客車郵便列車ハ「モンバサ」、「ナイロビ」間ハ一週四回、交互ニ發車シ、「ナイロビ」行上リ二十時間、「モムバサ」行下リ十七時間ヲ要ス、又「モムバサ」、「キスム」ハ一週二回交互ニ發車シ「キスム」行上リ四十二時間（「ナイロビ」停車四時間）「モンバサ」行下リ四十二時間（「ナイロビ」停車六時間）ヲ要ス

(ロ) 「ヴォイ」支線　延長　九二哩

本線ハ「ウガンダ」鐵道ノ「ヴォイ」驛ヨリ西ノ方「タンガニカ」領ニ入リ、「キリマンジャロ」山ノ南麓「カヘ」ニ至ルモノニシテ、夫ヨリ北ノ方「モシ」ヨリ南ノ方「タンガニカ」領內ノ「タンガ」港ニ通スル「タンガ」鐵道ニ接續ス

直通列車ハ「ヴォイ」、「モシ」兩端ヨリ一週一回交互ニ發車ス、往復各八時間半ヲ要ス

(ハ) 「マカヂ」線　延長　九一哩

本線ハ「ウガンダ」本線ノ「マガヂ」驛ヨリ西ニ向ヒ「マガヂ」湖ニ至ルモノニシテ、「マガヂ」曹達會社カ其ノ產品ヲ輸送スル爲メニ建設シタルモニシテ、其ノ運用ハ「ウガンダ」鐵道ニ依リテ司ラル

本線ハ「カヂアド」ニテ乘替ユルモノニシテ「モムバサ」、「カジアド」間十九時、「カジアド」、「マガヂ」間四時間ヲ要シ、「マガヂ」、「カジアド」間六時間、「カジアド」、「モムバサ」間十七時間ヲ要ス、但シ「カジアド」、「マガヂ」間ノ列車運轉ハ一週一回トス

(ニ) 「シカ」支線　延長　三二哩

「ウガンダ」本線ノ「ナイロビ」ヨリ北ニ向ヒ「シカ」ニ至ルモノニシテ更ニ五十八哩北方ノ「タナ」河迄延長工事中ナリ

(ホ) 「ウアシン・ギシユー」支線　延長　三二六哩半

從來「ウガンダ」本線ノ「ナクル」ヨリ北西方「ツルボ」迄一四二哩間ノ鐵道ナリシモノヲ、「ウガンダ」領內ニ延長シ一九二八年一月一八四哩半ノ工事ヲ完成シ、同領「プソガ」鐵道ノ中間驛「ムブラブチ」ニ連絡シ之ニ依リ始メテ「ウガンダ」國ノ「ジンジャ」ト「モムバサ」ト直通スルニ至リシモノニシテ、今迄湖上汽船ニ依リテ「キスム」ニ送ラレタル「ウガンダ」東部州ノ棉

花ハ今後本鐵道ニ依リテ「ナクル」交叉點ヲ經由シ、直接「モムバサ」ニ送ラルル事ト成ルヘク、「ウガンダ」ハ之ニ依リ始メテ印度洋沿岸ト直通鐵路ヲ得ルニ至リタルモノトス

(ヘ)「ムベール」、「ソライ」間支線　九八哩半

右ハ「ウアシン、ギシュー」支線ノ「ロンガイ」ヨリ「ソライ」盆地ニ至ルモノニシテ一九二七年二月起工遠カラス落成ノ筈

(ト)「ギルギル・トムソンフォール」間支線　四六哩半

右ハ一九二八年一月起工遠カラス落成ノ筈

(チ)「キタレ」支線　四一哩

右ハ「ウアシン・ギシュー」支線「ソイ」、「ロード」驛ヨリ北ノ方「キタレ」ニ達スルモノニシテ目下工事中遠カラス落成ノ筈

(二)鐵道運賃

普通運賃ハ品種ニ依リ一級ヨリ九級ニ分チ、其ノ等級ノ登ルニ從ヒ累進シ且ツ距離ノ增スト共ニ逓減ス、但シ一級乃至六級品ハ運送上ノ危險ハ荷主ノ負擔トシ、特ニ規定スル場合ノ外割增運賃一割ヲ仕拂フ時ハ鐵道ノ負擔トナス、其ノ他ハ特別ノ規定ナキ限リ鐵道ノ負擔トス、日本ヨリノ輸入品中綿及「メリヤス」ハ八級、硝子ハ七級、「エナメル」ハ五級トス、又日本ヘノ輸出品中曹達ハ二級ト成リ居レリ

又「ケニヤ」、「ウガンダ」、「ザンジバル」、「タンガニカ」ノ產品中「ココア」、「コーヒー」、棉、穀類、「サイザル」、「フラックス」、「ヘンプ」ハ輸出奬勵ノ爲メ特別運賃ヲ課シ、運送中ノ危險ハ荷主ノ負擔トス

(三)水運

當領內ニハ舟運ヲ通スヘキ河川ニ乏シキモ、「ヴィクトリア」湖ハ「ウガンダ」及「タンガニカ」トノ交通路トシテ極メテ重要ナル地位ヲ有ス、其ノ航路ニ左ノ數線アリ

(イ)横斷線

毎週一回「ウガンダ」鐵道直通旅客及郵便列車ト連絡シ、「キスム」ヲ起點トシテ對岸ノ「エンテベ」、「ボートベル」及「ジンジャ」ニ至リ停泊數時「キスム」ニ歸航ス、此ノ日數四日ヲ要ス、但シ使用船ハ「クレメント」、「ヒル」ト云ヒ排水一千噸ニシテ設備極メテ良シ、船賃ハ對岸迄片道二十志ニシテ食事ハ別トス

(ロ) 北廻線

二週一回「キスム」ヲ發シ、「ムジヤンジ」、「ジンジヤ」、「ポートベル」、「エンテベ」、「ブカカタ」、「サンゴ」、「ブコバ」、「ムワンザ」、「ムソマ」、「カルンガ」ヲ經テ「キスム」ニ歸航ス、此ノ日數九日ヲ要ス使用船排水噸數千二百噸、設備 (イ)ニ及ハス、且ツ定期航ナルモ信賴シ難シ

(ハ) 南廻線

二週一回「キスム」ヲ發シ (ロ)線ト同一港ヲ逆ニ巡廻ス、此ノ日數九日ヲ要ス

(ニ) 「ゼッシ」島線

二週一回「エンテベ」ヲ發シ前二線ト稍異ナル諸港ヲ巡航ス此ノ廻航日數十日ヲ要ス

(四) 道路

道路ハ延長約二千四百哩ニ達スルモ多クハ粗造ニシテ、雨期ニハ泥濘トナリ、車輛ノ交通極メテ困難ナリ、但シ乾燥期ニハ自由ニ自働車ヲ用ユル事ヲ得ヘシ

(五) 通信

郵便ハ可ナリ良ク普及シ、鐵道汽船ノ通セサル處ニハ自働車ヲ使用ス

電信ハ重要地間ニハ其ノ便アルモ遲速甚タシク、「モンバサ」及「ラム」ニハ無線電信局アルモ內地ニハ其ノ設備ナキニ依リ利用極メテ尠シ、當國奧地ト「タンガニカ」ノ奧地トノ間ノ如キハ電信ニテ普通三日以內ニ近信ヲ得ル事困難ナリト云フ、筆者ノ經驗モ亦然リ

電話ハ軍要地ニハ其ノ設備アリ、「モムバサ」、「ナイロビ」、「キスム」ヨリ「ウガンダ」ノ「エンテベ」、「カムパラ」、「ジンジヤ」ト通話スル事ヲ得ヘシ

(六) 海運

世界ノ主要商船國ハ總テ東阿沿岸ニ航路ヲ有セリ、當國稅關ノ報告ニ依レハ一九二七年中「モムバサ」港ニ入港セル汽船ハ五九三隻、此ノ噸數一、七〇三、八九六噸ニシテ、前年ニ比スレハ艘數ニ於テ七十二艘、噸數ニ於テ二五九、五七六噸ヲ增加セリ、之ヲ國籍ニ依リテ分テハ左ノ如シ

國籍	汽船艘數	登簿噸數
英國	三四〇	七七九、一七五
伊國	六三	二〇一、七六三
佛國	五二	二一五、九五二
和蘭	四六	一六八、八八七

日本	三八			一三七、三八一	
獨逸	三三			一四一、四四五	
白國	一四			四五、一四九	
其他	七			一六、一四四	
合計	五九三			一、七〇三、八九六	

更ニ一九二七年中各國主要汽船會社ノ「モムバサ」寄港船數及揚卸貨客數ヲ示セハ左ノ如シ

會社名	隻數	上陸客	乘船客	輸入貨物	輸出貨物
英印汽船會社孟買線	五八	一三、三一六	九、二九二	二四、三七五	三三、三八八
同 歐洲線	二六	一、五八七	一、三五三	四一、九七三	五四、四八五
「グラン、エラーマン」線	三二	三	一一	八五、一五七	五五、五三一
「ユニオン、カッスル」汽船會社	二四	一、三六九	一、三八三	三〇、七一二	二三、九九六
「エム、エム」汽船會社	五二	一、二三六	一、〇七〇	一、七九四	九二五
伊太利汽船會社	六三	六九〇	六一二	一三、五三九	八、三三三
和蘭「アフリカ」汽船會社	四六	六一八	四四一	二四、九三二	五二、六五五
獨逸「アフリカ」汽船會社	三一	二、二八二	一、七〇六	一一、〇〇一	一三、二一一
大阪商船會社	二五	七五	二四一	五、六九三	四九、二六八
日本郵船會社	一三	二三〇	二七	一、四六二	九、九三七
「エラーマン、バックノール」會社	一五	四	—	二一、一一七	一
合計	三八五	二一、四一〇	一六、一三六	二六一、七五五	三〇一、七三〇

（石炭船油船及沿海航路船ヲ除ク）

第二一、金融

(一) 通貨

元留比及磅ヲ法貨ト認メタルモ屢々改正ノ後一九二二年一月一日ヨリ留比ヲ廢シ英磅貨ノ二十分ノ一ヲ本位トシ之ヲ Shilling ト名ツケ其ノ百分ノ一ヲ Cent トシ之ヲ「ケニヤ」、「ヴガンダ」及「タンガニカ」ノ三國ニ適用ス

貨幣ノ種類ハ左ノ如シ

銀貨	一志		支拂高制限ナシ
同	五拾仙		支拂制限高二〇志
銅貨	拾仙	同	壹志
同	五仙	同	
同	壹仙	同	
紙幣	一〇〇〇志	支拂高制限ナシ	
同	二〇〇志	同	

同	一〇〇志	同	
同	二〇志	同	
同	一〇志	同	
同	五志	同	

一九二七年六月三十日ノ流通高ハ左ノ如シ(單位壹千磅)

志銀貨	二、三一〇	
五拾仙銀貨	五〇	
銅貨	一一一	
右ノ外舊貨幣同收未濟高九六	二、〇二五	
紙幣		

右ノ貨幣ハ在倫敦東阿通貨局 The East Africa Currency Board ニ依リテ發行セラルルモノニシテ、在「ナイロビ」ノ金庫ニ對シ其ノ請求ニ依リ送金シ、同金庫ヨリ「ジンジヤ」(「ウガンダ」)、「タンガ」(「タンガニカ」)、及「ダレサラム」(「タンガニカ」)支金庫ニ分配スルモノトス

倫敦ヨリ送金又ハ倫敦ヘ送金ノ場合ハ右金庫及支金庫共同一打歩ニシテ、前者ハ千分ノ五、後者ハ千分ノ十ヲ要ス、但シ内地ノ送金ハ全然銀行ノ取扱ニ至リ、政府ハ郵便扱ノ小額爲替ノ外取扱ハス、而シテ銀行爲替料ハ普通四分ノ一%乃至二分ノ一%ナルモ稀ニ八分ノ一%ノ事モアリト云フ

(二)銀行

當植民地ニ於ケル銀行ハ左ノ如シ

The National Bank of India, Ltd.

資本金	二、〇〇〇、〇〇〇磅	
本店	倫敦	
支店	「モムバサ」、「ナイロビ」、「ナクル」、「キスム」、「エルドレット」	

The Standard Bank of South Africa, Ltd.

資本金	二、二二九、一六五磅	
本店	倫敦	
支店	「モムバサ」、「ナイロビ」、「ナクル」、「キスム」、「エルドレット」、「キタレ」、「ニエリ」、「ナンユキ」	

Barklays Bank (The National Bank of South Africa, Ltd.)

資本金	四、九七五、〇〇〇磅	
本店	倫敦	
支店	「モムバサ」、「ナイロビ」、「エルドレッド」	

第二二、關稅制度

「ケニヤ」及「ウガンダ」ハ一九一七年以來關稅同盟ヲ組織シ「モムバサ」港ニ本部ヲ置キ其ノ事務ヲ統一セリ、尙「タンガニカ」ハ該同盟ニ加盟セサルモ、同一ノ關稅率ヲ用ヒ、事實上同盟ノ如キ關係ヲ維持シ、又一九二三年一月以來三國相互ニ內國產貨物ノ無稅輸入ヲ承認シ、更ニ一九二七年八月一日ヨリ此ノ主義ヲ輸入品ノ再輸出ニ及ボシ、茲ニ三國相互間ニ自由貿易主義ヲ實行スル事ト成レリ

目下ノ關稅率ハ一九二四年ニ制定シ、翌年之ニ小修正ヲ加ヘタル儘爾來引繼キ實施シ居ルモノニシテ、其ノ重要ナル規定ハ左ノ如シ

第一類　從量稅

本類ニ屬スルモノハ個數、容積又ハ重量ニ依リテ其ノ課稅率ヲ定ムルモノニシテ、之ヲ適用セラルル重要品及其ノ稅率左ノ如シ

「セメント」	四百封度ニ付	二志
綿布ノ內粗布(包裝ノ儘)	一封度ニ付	四十仙

註、「本邦ヨリ輸出ノ粗布ハ「ターポリン」、角木、帶鐵ヲ用ヒ、荷造堅固ニ過クル爲メ、過重ノ輸出ヲ負擔セシメラルル不利益アルモ、米國品ハ荷造手輕ナル爲、通關ニ際シ有利ナルノミナラス、鐵道ヲ離レ奧地ヘ輸送ノ際、人夫ノ運搬ニ適スル樣包裝替スルニ便利ナリト云フ、當業者ノ注意ヲ望ム」

魚(鹽魚乾魚、漬物)	百封度ニ付	四志
燐寸		
(A) 木製「マッチ」		
(1) 箱又ハ包入リ(「マッチ」百個以內ノモノ)	箱又ハ包一「グロス」ニ付	三志
(2) 同　上(「マッチ」百乃至二百個入ノモノ)	同	六志
(3) 同　上(「マッチ」百個ヲ加フル每ニ)	「マッチ」百個ヲ單位トシ一「グロス」ニ付	三志
(B) 其ノ他ノ「マッチ」		
(1) 箱又ハ包入リ(「マッチ」五十個以內入リ)	箱又ハ包一「グロス」ニ付	三志
(2) 同　上(「マッチ」五十乃至百個入リ)	同	六志
(3) 同　上(右ニ對シ「マッチ」五十個ヲ加フル每ニ)	「マッチ」五十個ヲ單位トシ一「グロス」ニ付	三志
針金	百封度ニ付	十志

眞鍮	同	二十四志
銅	百封度ニ付	三十二志
「アルミニューム」	同	十八志
石鹸	同	五志
砂糖	同	十二志
茶	一封ニ付	四十五仙

第二類　從價三割稅

本類ニ屬スルモノハ幻燈、活動寫眞版、古衣服、金銀細工物、寶石其ノ模造品、其ノ他ノ裝飾品、時計、祕藥、香水、香油、其ノ他ノ化粧品等ナリ

註、「原價ハ積出地ノ値段ニ運賃、陸揚費等ノ諸費ヲ加ヘ、之ニ「コムミッション」一割ヲ加ヘタルモノトス」

第三類　從價一割稅

本類ニ屬スルモノハ原料品、繪畫、小物金屬、「アスベスト」、消火器、便器、玩具、印刷用「インキ」、印刷紙、包紙等トス

第四類　從價二割稅

本類ニ屬スルモノハ他ノ何レニモ屬セサル物品トス

註、「加工綿布之ニ屬ス」

第五類　無稅品

本類ニ屬スルモノハ教育用品、旅客ノ旅行用品、教會用品、石炭、石油、藥品、治療及衞生用品、機械其他工業用品、商品ニアラサル見本等其ノ種類極メテ多シ

第二三、移民規則

當國ニ於ケル移民ノ入國取扱ハ極メテ簡單ナルモ左ノ規定ニ該當スル時ハ上陸ヲ禁セラル相當ノ所持金ヲ有セス公共ノ負擔トナル恐アル者

白痴及傳染病患者

重罪ノ刑ニ處セラレタル者

醜業婦及其ノ關係者

移民官ニ於テ好マシカラサル者ト認メラレタル者

目下「モンバサ」移民局ニテハ旅客ノ最低所持金ハ普通ノ船客ニ對シテハ三十七磅十志、甲板

客ニ對シテハ十磅トス

第二四、度量衡

度量衡ハ本國ト同樣ナルモ、土人ハ尙從來ノ度量衡ヲ使用ス、其ノ重ナルモノハ左ノ如シ

重量 Weigts	Wakiya		= 1 oz.
	Ratli Rotelli	= 16 Wakiya	= 1 lb.
	Ratli Kaswa		= 1 lb.
	Mani (or Mauni)		= 3 lb.
	Fransla	= 12 Mani	= 36 lb. or 35 lb.
	Gizla	= 10 Frasla of 36 lb.	= 360lb. or 285 lb. / 600 lb. (Salt)
Dry Weights (For Grain)	Kibaba		= 1½ lb.
	Kelas	= 4 Kibaba	= 6 lb.
	Pishi		= 6 lb.
	Frasla	= 6 Kela	= 36 lb. or 36 lb. (Ivory, Rubber)
	Gizla	= 10 Frasla	= 360lb. or 285 lb. (Sim Sim) / 600 lb. (Salt)
Measures	Ishi		= 1 inch
	Futi		= 1 foot
	Wanda		= 3½ inch
	Futuli	= Tip of Thumb to „ „ Forefinger	= Short Span
	Shubiri	= Tip of Thumb to „ „ Little Finger	= Full Span.
	Mkono (or Thira)		= 18 inch
	Wari		= 1 yard
	Doti	= "Americani" - 反 (30 yard) 11/8	= 4 yard app.

第二五、港灣事情

(一) 港ノ狀態及設備

「キリンジニ」港(普通「モムバサ」港トシテ知ラルルモ「モムバサ」港ハ約二哩ヲ距ツル獨港ナリ)ハ東北ハ「モンバサ」島、西南ハ大陸ニ圍マレ港口ヨリ約二哩ノ處ニアリ、水道ノ廣サハ最モ狹キ處四分ノ一哩、最モ廣キ處一哩半、水深ハ十一乃至二十尋ニシテ、大陸側ハ一帶ニ椰子

樹ヲ以テ掩ハレ何等ノ設備ナシ

「モンバサ」島側ニハ「ムバラキ」棧橋、及新舊「キリンジニ」岸壁アリ

「ムバラキ」棧橋ハ木造ノモノ三アリ各二噸「クレーン」ヲ有シ、陸上ニハ一萬噸ノ倉庫ヲ有ス、但シ艀船ノ繫留ニ使用スルモノニシテ大船ノ横付ニ適セス

「キリンジニ」舊岸壁ハ「コンクリート」造ナルモ、水深不足ノ爲メ大船ヲ横付スル事能ハス、岸上ニハ蒸氣「クレーン」二噸モノ五臺、五噸モノ壹臺及手卷「クレーン」二十噸モノ一臺アリ、輸入倉庫四棟容量各六千噸輸出倉庫三棟容量各八千噸アリ

「キリンジニ」新岸壁ハ延長一、一〇〇呎、水深三三呎、大船二艘ヲ繫留スルニ足リ、岸上ニ電氣裝置「クレーン」三噸モノ四臺、引込ミ鐵道三線ヲ備ヘ、外ニ五噸モノ一臺据付中、但シ倉庫二棟附屬ス、尚目下之ト同型ノ岸壁一個ヲ築造中ナルカ一九二八年末落成ノ筈

右ハ總テ政府ノ所有ニ屬スルモ、此ノ外ニ「マガヂー」曹達會社所有ノ「マガヂー」棧橋アリ、同社ノ輸出スル曹達積込專用ノモノニシテ陸上ニハ約二萬噸ノ倉庫アリ、棧橋ノ長サ二一二呎ニシテ陸岸ニ沿フテ作ラル其ノ兩端ニ「バンド」、「コンベヤー」ヲ備ヘ附ケ陸上ノ倉庫ニ連接シ之ニ依リテ積込ヲ行フ、但シ棧橋際ノ水深三〇呎ナルヲ以テ大型船舶ノ横付ニ便ナリ

(二) 荷役

荷役人夫ハ「スワヒリ」土人、「フォーマン」ハ歐洲人、「タリーマン」ハ印度人ナリ

勞働時間ハ午前七時ヨリ午後四時迄ニシテ其ノ能率ハ艀ニ依ル場合ハ荷揚ハ一日一艙一五〇噸、積取ハ一日一艙五〇〇噸見當ナリ

荷役費ハ左ノ如シ

但シ歐洲貨物ハ運賃中ニ含マレ出荷主ノ負擔ニ屬スル習慣ナルモ日本貨物ハ積出地ニテ運賃ノミ徴收スルニヨリ荷揚費ハ荷受主ノ負擔トナル

(イ) 揚荷

普通品	三噸迄	B/L 噸壹噸ニ付	二志
重量品	三—五噸	同	四志
	五—一〇噸	同	五志
	一〇噸以上	同	六志
		同	二志

(ロ) 積荷

「バラ」積石炭

但シ日本行ハ主トシテ綿花ニシテ同品ハ一俵四〇〇封五俵半ニテ一噸、容積ハ一俵一六立方呎二俵半ニテ一噸トナル

一般貨物　同　二志

(ハ) 荷　繰

同一艙内ニテ荷繰リノ場合　一志半

一ノ艙ヨリ他ノ艙ヘ荷繰ノ場合　三志

(ニ)「オーヴァータイム」

晝間	土人	六〇仙	「ヘッドマン」	二志	「フォーマン」 三志
休日及夜間	同	二志	同	一五志	同 三〇志

(ホ)「ウオーフエージ」及「クレーネージ」

揚荷	二志四〇仙
積荷	一志半

(三) 艀賃

(イ) 揚荷(「ワーフエージ」及「クレーネージ」ヲ含ム)

但シ出荷人ノ負擔トス

普通品	二噸迄	B/L噸壹噸ニ付	一二志半
	二—五噸	同	一六志
	五—一〇噸	同	二一志
	一〇噸以上	同	二五志

(ロ) 積荷(「ワーフエージ」及「クレーネージ」ヲ含ム)

但シ歐洲ヨリノ輸入品ハ運賃込ミ又日本ヨリノ輸入品ハ受荷人ノ負擔トナル

一級品	(珈琲、棉、皮革、箱物、雜貨品)	B/L噸壹噸ニ付	七志
二級品	(「コプラ」、落花生、胡麻、「サイサル」等)	同	六志
三級品	(豆、實棉、玉蜀黍、曹達、樹皮等)	同	五志

(四) 港　費

(イ) 港　税

登簿純噸數ニ甲板積載貨物噸數(一〇〇立方呎ヲ一噸トス)ヲ加ヘ碇泊十日迄一噸ニ付二〇仙、十日ヲ超ユル時ハ一日ニ付其十分ノ一ヲ增ス

(ロ) 燈臺税

登簿純噸數一〇〇〇噸迄	一回	六〇志
同　一〇〇〇噸以上	同	一〇〇志

(ハ) 水先案内

水先案内ハ强制ニシテ料金左ノ如シ

登簿純噸數二〇〇〇噸迄	一二〇志
登簿純噸數二〇〇〇噸以上ハ超過五〇〇噸ニ付	二〇志增
但シ棧橋岸壁又ハ他船ニ横付ノ場合ハ增金	六〇志
休日及夜間增金	五〇志

(五) 雜　項

(イ)「タリーマン」賃銀

晝間	六—七志	休日及夜間	八—九志

(ロ) 水一噸ニ付　　水壓供給　四志　「パイプ」供給　三志
(ハ) 石炭　供給設備ナシ、「ウガンダ」鐵道會社ニ分與ヲ依賴スルコトヲ得ルモ高價ナリト云フ

第二六、外國貿易

「ケニヤ」及「ウガンダ」ハ一九一七年關稅同盟ヲ締結シ、兩國間ノ輸出入ハ全然自由トナシ、其ノ關稅事務ハ兩國合同ノ稅關ニ於テ取扱ヒ、之ヲ不可分ノ一體トナスノミナラス、兩國ハ其ノ地理的並ニ政治的關係上一經濟單位トシテ取扱フ事ヲ便宜ト爲スニ依リ、左ニ兩國ノ貿易ヲ一括シ其ノ要領ヲ說明スヘシ

「ケニヤ」及「ウガンダ」稅關長ノ報告ニ依レハ、一九二七年ニ於ケル兩國ノ輸出入貿易額ハ一四、八〇四、三二九磅ニシテ、一九二五年ノ一八、二〇四、二八八磅、一九二六年ノ一五、五二五、二五八磅ニ比シ著シク不況ヲ呈セリ、蓋シ「ウガンダ」ニ於ケル棉花ノ不作ト及其ノ價格ノ下落トノ爲メニ輸出貿易ノ不振ヲ來シ、且ツ其ノ結果トシテ同地方ニ於ケル土人ノ購買力ヲ減シ、爲メニ輸入貿易モ亦不況トナリタルニ由ルモノニシテ、「ウガンダ」ノ棉花耕作カ如何ニ此ノ地方ノ經濟ニ重大ナル關係ヲ有スルヤヲ知ルニ足ルヘシ、然レ共左表ニ示ス如ク棉花以外ノ國產品ノ輸出ハ概シテ好況ヲ呈シ「ケニヤ」ニ於テハ一九二六年ノ二、四〇九、一六四磅ニ比シ六七六、〇二一磅ノ增加ヲ示シ、「ウガンダ」ニ於テハ一九二七年ノ輸出ハ四四九、一六〇磅ニシテ、一九二六年ノ三四九、三六七磅ニ比シ九九、七九三磅ノ增加ヲ示セリ、從テ輸入貿易ニ就テモ「ウガンダ」ハ一九二七年ハ一九二六年ニ比シ二九四、〇八三ヲ減シタルモ、「ケニヤ」ハ五五〇、六一四磅ノ增加ヲ示セリ

年	棉花及棉實輸出 「ケニヤ」	棉花及棉實輸出 「ウガンダ」	其他ノ輸出 「ケニヤ」	其他ノ輸出 「ウガンダ」	輸入 「ケニヤ」	輸入 「ウガンダ」
一九二六年	五、一七七	三、三四六、六七八	二、四〇九、一六四	三四九、三六七	五、三三六、六〇五	二、一一四、〇四四
一九二七年	一、七三一	一、八六一、一四〇	三、〇八五、一八五	四四九、一六〇	五、八七七、二一九	一、八一九、九六一

卽チ「ケニヤ」、「ウガンダ」カ極メテ堅實ナル發達ヲ爲シツツアル狀況ヲ知ルニ足ルヘシ、蓋シ是等ノ地方ニ於ケル最近ノ發達ハ農業ノ進步ノ結果ナル事ハ言フ迄モナシト雖モ、近時各方面ニ於ケル運輸及交通機關ノ進步竝ニ市場組織改善ノ結果、漸次取引ノ圓滑ヲ來シタル事モ亦與ツテ力アルモノニシテ、最近「ウガンダ」、「ケニヤ」、「タンガニカ」三國ノ間ニ通商自由ノ原則ヲ認メ相互ノ輸出入ヲ自由ト爲シタルカ如キハ以テ從來ノ滯在ノ弊ヲ救ヒ商取引上便宜ヲ與ヘタル事ナシト云フヘカラス、然カモ土地ノ開拓及交通機關ノ整備ハ今後モ依然持續セラレツツアレ

ハ、農作ノ異常ナル不況ニ陷ラサル限リ今後ノ貿易ノ發達ハ期シテ待ツ事ヲ得ヘシ

(一) 輸入

一九二五年ヨリ一九二七年ニ至ル三ケ年間ニ於ケル輸入貿易額ハ左ノ如シ

年	商業輸入	政府輸入	通過輸入	積替輸入	合計
一九二四年	六、二七七、九〇七	四、五四六、六二五	一二二、〇五八	一八、二四六〇	一一、一一九、〇五〇
一九二五年	八、〇六一、四四八	三、七九七、四五四	一四一、〇八一	一六五、七六七	一二、一六五、七五〇
一九二六年	七、四四〇、六四九	一、三九九、八四五	二二〇、八六一	一七一、六二四	九、一三二、九七九
一九二七年	七、六九七、一八〇	一、一八五、六〇四	一四三、五三八	二〇〇、七二三	九、二三七、〇四一

即チ一九二六年度ニ於テハ前年度ニ於ケル輸入滯貨ノ後ヲ受ケ一時輸入ヲ減退シタルモ、一九二七年度ニ入リ殆ト各品ニ亙リ反發的増進ヲ見タリ

右ノ内商業輸入ハ「ケニヤ」及「ウガンダ」ニ輸入セラレタル普通ノ商品ニシテ、此ノ地方ニ於ケル輸入貿易ノ本體ヲ爲シ、又政府輸入ハ「ケニヤ」政府ノ輸入シタル金銀貨及鐵道築港等ノ材料ヨリ成リ普通ノ商品ヲ包含セス

惟フニ英國カ當地域ヲ支配スルニ至リシハ、一八九五年之ヲ當時ノ特許會社タル英帝國東阿商會ヨリ移管シタルニ始リ、年ヲ經過スル事僅ニ三十二年ニ過キスト雖モ、其ノ間貿易ノ進歩ハ實ニ驚クヘキモノニシテ、當時ノ輸入高ハ漸ク十七萬七千磅ニ過キサリシモ、一九二七年ニハ七、六九七、一八〇磅ニ上リ、約四十五倍ノ盛況ヲ呈シタリ、今之ヲ表示スレハ左ノ如シ

一八九六年ヨリ一九〇〇年迄平均一ケ年ノ輸入高	三三一、〇五〇磅
一九〇一年ヨリ一九〇五年迄平均一ケ年ノ輸入高	四五三、八七七
一九〇六年ヨリ一九一〇年迄	七五九、八七七
一九一一年ヨリ一九一五年迄	一、五三四、一四七
一九一六年ヨリ一九二〇年迄	二、八一一、八九七
一九二一年ヨリ一九二五年迄	五、六八五、〇〇五
一九二六年	七、四四〇、六四九
一九二七年	七、六九七、一八〇

即チ如何ニ輸入貿易カ堅實ナル進歩ヲ爲シツツアルヤヲ知ルニ足ルヘシ

今商業輸入ニ付之ヲ商品ノ性質ニ依ツテ大別シ、一九二四年ヨリ一九二七年ニ至ル四ケ年ノ輸入高及其歩合ヲ左ニ示スヘシ

種別	一九二四年 価格(磅)	一九二四年 歩合	一九二五年 価格(磅)	一九二五年 歩合	一九二六年 価格(磅)	一九二六年 歩合	一九二七年 価格(磅)	一九二七年 歩合
飲食物	一、〇五八、九八〇	一六・八七	一、三八四、九八四	一七・一八	一、五三一、〇三八	二〇・五八	一、三六五、一八六	一七・七四
原料品	四八五、三二三	七・七三	六七五、六四六	八・三七	六九七、一六一	九・三七	五二一、〇九二	六・七七

製造品	四、三五八、九六六	六九・四三	五、四二〇、一九九	六、七二四	四、六五六、一一九	六二・五七	五、〇九四、三七〇	六六・一八
生動物	一一、五九二	〇・一九	一四、二二八	〇・一八	一〇、二二二	〇・一四	一六、四八一	〇・二一
小包	二六三、六八六	四・二〇	三四三、三五七	四・二六	三七二、四六〇	五・〇〇	四〇三、八六九	五・二五
正金	九九、三六〇	一・五八	二二三、〇三四	二・七五	一七三、六四九	二・二四	二九六、一八二	三・八五
合計	六、二七七、九〇七	一〇〇	八、〇六一、四四八	一〇〇	七、四四〇、六四九	一〇〇	七、六九七、一八〇	一〇〇

右ノ內製造品ハ約半額、其ノ他ハ八割以上英國ヨリ輸入セリ

商業輸入額ヲ其ノ仕出國ニ依リテ區別シ、且ツ其ノ比率ヲ表示スレハ左ノ如シ、但シ英屬領地ノ大部分ハ印度ニシテ、其ノ內ニハ孟買經由ノ日本商品尠カラス

仕出國	一九二五年 金額(磅)	一九二五年 百分率	一九二六年 金額(磅)	一九二六年 百分率	一九二七年 金額(磅)	一九二七年 百分率
英本國	三、〇六八、一九二	三八・〇六	二、七六二、一七八	三七・一二	二、九五一、一五九	三八・三四
英屬領地	二、四九三、三八〇	三〇・九三	二、二七七、四七七	三〇・六一	一、九六八、〇五一	二五・五七
米國	七二一、一四六	八・九五	五四八、六三六	一〇・〇六	八二六、九五〇	一〇・七四
和蘭	四三七、七四九	五・四三	三五四、二四九	四・七七	三七九、六〇五	四・九三
獨逸	四二〇、九二〇	五・二二	二七五、一二五	三・七〇	三五二、二八五	四・五八
日本	三一二、五三六	三・八八	二九〇、〇四八	三・九〇	三一九、六八〇	四・一五
佛蘭西	九〇、七五六	一・一三	一〇一、五八〇	一・三七	一〇八、八〇二	一・四一
他ノ諸國	五一六、七六九	六・四〇	六三一、二五六	八・四七	七九〇、六五八	一〇・二八
合計	八、〇六一、四四八	一〇〇	七、四四〇、六四九	一〇〇	七、六九七、一八〇	一〇〇

右ニ依レハ日本ヨリノ輸入ハ一九二七年ニ於テハ全輸入額ノ四分一匣五毛ニ當リ輸入國ノ第六位ヲ占メ、一九二五年以來進歩ノ跡歴然タルモノアリ、蓋シ大阪商船會社カ東阿弗利加ニ直航路ヲ開キタル爲メ、輸入ニ便宜トナリタルニ依ル、但シ右ノ表中英領地トハ主トシテ印度ヲ意味スルモノニシテ、其ノ輸入額中ニハ多少ノ日本商品ヲ含ム

今重要輸入品ニ付キ一九二六年及一九二七年ニ於ケル輸入狀況ヲ示セハ左ノ如シ

品名	單位	一九二六年 數量	一九二六年 價格(磅)	一九二七年 數量	一九二七年 價格(磅)
米	百封度	一四二、一五三	一四五、二四一	一五九、六八二	一五九、四九三
陶器類	—	—	二〇、四七九	—	三二、二二四
硝子類	—	—	二六、九〇一	—	二七、九六五
「セメント」	噸	一二、六〇〇	五五、三四六	二三、四五五	一〇一、二四五
「トタン」波形	同	五、八五三	一二〇、二五一	六、六四二	一二七、三七一
卷煙草	封度	四一九、二四五	九四、四三六	四六六、三二三	一〇一、九五四
農業機械	噸	九八二	八八、三七二	一、一九五	九八、六四五
木綿 生木綿	碼	一四、一九五、三一四	三二三、一二七	一六、九八七、〇四五	二九九、六〇三
木綿 晒木綿	同	二、七六七、四〇五	八六、五五五	三、一七五、〇六八	八〇、四三三
木綿 奈染木綿	同	二、五一九、一〇七	九二、三一〇	三、四〇〇、八六九	一〇五、二六八
木綿 反染木綿	同	三、七六九、三八五	一九三、七二二	五、二二一、一五三	二二六、七四三
木綿 糸染木綿	同	五、七五九、五六四	二一三、七九八	八、三〇五、八六五	二五〇、三九〇

綿毛布	枚	一、五四三、二八六	一七三、三六八	一、六六八、六八八	一六一、六七六
莫大小製品	—	—	三三、五一四	—	三七、六七〇
絹製品	—	—	三〇、〇八八	—	三六、八一三
燐寸	「グロッス」箱	六五、四三八	一一、三八三	八一、八二四	一三、七八九
燃料油	「ガロン」	五、七三一、四八三	七七、二八〇	八、八九九、〇六五	一二五、九五一
白働車	個	一、四〇三	二五〇、四五三	一、五八五	二七五、〇一〇
貨物自働車	同	一、一三五	二二四、九四九	一、二八二	二五六、六五五
砂糖	百封度	一九、五六七	二〇、八六五	九、七二四	一〇、七七三
「エメナル」容器類	噸	三九八	三二、〇七七		一八、九九二
麻袋	打	三八〇、七五七	二三三、〇五六	三〇一、九九三	一五九、八六六
自轉車	個	一一、六二九	九四、一〇〇	四、八五二	三三、八六五

右ノ内主要ノ商品ニ付情報スレハ左ノ如シ（單位ハ磅）

（イ）米

本品ハ「タンガニカ」及印度「ビルマ」ヨリ輸入セラルルモノニシテ近年「タンガニカ」ニ於ケル米作發達ノ結果、同國ヨリノ輸入米ハ漸次印度「ビルマ」米ヲ驅逐シ居リ、東阿ニ於テ自給自足ノ域ニ近寄リツツアル狀ヲ見ル事ヲ得ヘシ

（ロ）陶器

本品ハ器物及煉瓦竝ニ瓦類ヲ包含スルモノニシテ一九二七年ニ於ケル器物ノ輸入ハ二四、〇五七磅其ノ内一四、九四二磅ハ英國、五二、二三五磅ハ獨逸、二、三四〇磅ハ日本ヨリ輸入セラル、但シ土人カ其ノ使用ニ慣ルルニ從ヒ、漸次其ノ嗜好ヲ增加シツツアルモノニシテ、前途極メテ有望ナリ、然カモ本品ニ對シテハ未タ當地ニ日本輸入商ナク、其ノ輸入ハ一ニ印度商人ノ思惑ニ依ルノ外ナシ、是レ吾本品輸入ノ上ニ於テ甚タ不利トスル所ナリ

右ノ輸入額ヲ仕向地ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ

輸入地	一九二六年	一九二七年
「ケニヤ」	一五、四〇一	二三、二五三
「ウガンダ」	五、〇七八	四、七一二
合計	二〇、四七九	二七、九六五

（ハ）硝子類

本品ノ輸入國ハ英國ヲ第一トシ獨、白、日、米順次之ニ次キ、日本ハ一九二五年ノ七六三磅、一九二六年ノ八七一磅ニ對シ一九二七年ニハ一四七七磅ニ增加シタリ、但シ獨逸ハ器物ノ輸入ヲ主トシ白耳義ハ板硝子ヲ主トス、日本ハ宜シク瓶「コップ」等ノ如キモノニ對シ獨逸品ト競爭スルヲ要ス、開ク所ニ依レハ需要品ハ土人向下級品ナリ、吾製造品ヲ以テ歐洲品ニ競爭スル事ハ決

シテ難事ニアラス、本品ニ就テモ當地ニハ日本人ノ輸入商ナシ、是レ日本ノ不利益トスル所ナリ

右ノ輸入額ヲ仕向地ニ依ツテ區別スレハ左ノ如シ

	一九二六年	一九二七年
仕向地		
「ケニヤ」	二一、七三四	二四、三一二
「ウガンダ」	五、一六七	三、六五三
合計	二六、九〇一	二七、九六五

(ニ)「セメント」

本品ノ需要ノ增加ハ植民地ノ發達スルニ連レ土木工事ノ增加シタルニ依ル、但シ輸入ノ約八割ハ英國ニ於テ之ヲ占メ、其ノ他ハ獨、伊、白順次之ニ次ク、日本ヨリハ前年一磅ノ輸入アリ多分見本取引ナリシナランカ、一九二七年ニハ始メテ一二五磅ノ輸入ヲ見タリ、本品需要ノ盛ナルニ鑑ミ切ニ我當業者ノ活動ヲ望ム

右ノ輸入額ヲ仕向地ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ

	一九二六年	一九二七年
仕向地		
「ケニヤ」	四三、〇七〇	八九、一六九
「ウガンダ」	一二、二九六	一二、〇七六
合計	五五、三四六	一〇一、二四五

(ホ) 農業機械

本品ノ輸入ハ歐洲人經營ノ耕地ノ增加及發達シタルニ依ル、之ヲ仕向地ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ

	一九二六年	一九二七年
仕向地		
「ケニヤ」	八六、三一七	九八、〇四一
「ウガンダ」	二、〇五五	六〇四
合計	八八、三七二	九八、六四五

(ヘ) 莫大小

本品ハ靴下及其ノ他ノモノトノ二種ニ區別スル時ハ、靴下ノ輸入ハ一九二六年ニ於テハ九、八六三磅、內英國ヨリ六、九七八磅、日本ヨリ一、〇七六磅、一九二七年ニ於テハ七、四六六磅、內英國ヨリ三、七一二磅、日本ヨリ一、八〇三磅ニシテ、其ノ他ノ莫大小ハ一九二六年ニ於テハ二二、六五一、內日本ヨリ一八、九八七磅、英國ヨリ一、四二九磅、一九二七年ニ於テハ三〇、二〇六磅、內日本ヨリ二二、五一五磅、英國ヨリ二、五九六磅、支那ヨリ二、一六九磅ヲ輸入シタルモノニシテ、日本カ如何ニ優勢ノ地位ヲ有スルヤヲ察スルニ足ルヘシ

右ノ輸入額ヲ仕向地ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ

仕向地	一九二六年	一九二七年
「ケニヤ」	九、八三六	一四、六二三
「ウガンダ」	二三、六七八	二三、〇四七
合計	三三、五一四	三七、六七〇

即チ本品ノ需要地ハ主トシテ「ウガンダ」ニアル事ヲ知ルニ足ルヘシ

(ト) 絹製品

本品ハ支、英、日、ノ順位ニテ輸入セラレタルモ、一九二七年ハ支、日、英ノ順位トナリ日本一一、八二七磅ヲ輸入シ特ニ支那ノ壘ヲ摩サントスルニ至レリ

本品ノ輸入額ヲ仕向地ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ

仕向地	一九二六年	一九二七年
「ケニヤ」	一九、三四五	二七、〇一一
「ウガンダ」	一〇、七四三	九、八〇二
合計	三〇、〇八八	三六、八一三

(チ) 砂糖

本品ハ從來其ノ供給ヲ外國品ノ輸入ニ仰キタルモ、內地品ノ生產增加スルニ從ヒ漸次其ノ輸入ヲ減シ、自給自足ノ域ニ向ヒツツアルモノノ如シ

(リ) 「エナメル」容器

本品ハ主トシテ獨逸ヨリ輸入セラレ、英本國、「チエコ」、日本等順次之ニ次クモ、一九二七年度ハ前年ニ比シ各國孰モ其ノ輸入ヲ減シタルカ日本品ノ不況最モ著シ、今本品ノ輸入額ヲ仕向地ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ

仕向地	一九二六年	一九二七年
「ケニヤ」	一七、一一六	一一、二九七
「ウガンダ」	一四、九六一	七、六九五
合計	三二、〇七七	一八、九九二

(ヌ) 麻袋

本品ハ殆ト總テ印度ヨリ輸入セラルルモノニシテ、一九二七年ノ輸入ハ一九二六年ノ夫ニ比シ七三、一九〇ヲ減シタリ、今右ノ輸入額ヲ其ノ仕向地ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ

仕向地	一九二六年	一九二七年
「ケニヤ」	一八八、三三二	一三四、二九一
「ウガンダ」	四四、七二四	二五、五七五
合計	二三三、〇五六	一五九、八六六

(ル) 燐寸

本品ノ輸入ハ從來殆ト瑞典ノ獨占スル所ニシテ、他ハ僅少ナカラ英國、「チエコ」、伊國等ヨリ供給シタルモ、一九二七年ニ至リ漸ク日本ヨリ四四三磅ヲ輸入シ、英國ニ次キ第三位ヲ占ムルニ至レリ、今之ヲ仕向地ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ

仕向地	一九二六年	一九二七年
「ケニヤ」	五、二五〇	八、二七三
「ウガンダ」	六、一三三	五、五一六
合計	一一、三八三	一三、七八九

(ヲ) 自轉車

本品ノ輸入ハ殆ト英國ノ獨占スル所ニシテ佛蘭西、獨逸、和蘭ヨリ僅少ノ輸入ナキニアラサルモ云フニ足ラス、日本ヨリハ一九二七年ニ至リ始メテ七台、四十一磅ヲ輸入セリ、今之ヲ仕向地ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ

仕向地	一九二六年	一九二七年
「ケニヤ」	一〇、二八六	一一、三六八
「ウガンダ」	八三、八一四	二二、四九三
合計	九四、一〇〇	三三、八六五

即チ本品ハ大部分「ウガンダ」ニ於テ需要セラルルモノニシテ、一九二七年ニ於ケル輸入ノ減退ハ棉花ノ不作ニ基ク「ウガンダ」ノ不景氣ノ結果ナル事ヲ知ルニ足ルヘシ、然レトモ近來自轉車カ「ウガンタ」ノ土人ニ依リテ非常ニ好愛セラレ、同地方ニ於ケル必要ノ交通機關トナレル事ハ爭ヒ難キ所ナレハ、今後景氣回復次第引續キ相當ノ輸入ヲ見ルニ至ルヘキコトハ想像スルニ難カラス、敢ヘテ當業者ノ注意ヲ求ム

(ワ) 綿布類

綿布類ハ從來輸入品中ノ首位ヲ占ムルモ其ノ比率ハ年一年低下スル傾向ヲ示セリ、即チ一九二四年度ニハ二三%、一九二五年度ニハ一九、〇六%、一九二六年度ニハ一四、六%、一九二七年度ニハ一四、六%トナレリ、是レ他種商品殊ニ車輛、燃料油、農工用機械等ノ生產用物資ノ輸入ノ增加ノ急激ナルニ反シ、土人ノ消費スル綿布類ノ需要ノ增加カ之ニ伴ハサルニ依ルモノニシテ、東阿地方ノ需要カ土人ノ日用品ヨリモ寧ロ生產資料ノ方面ニ於テ迅速ナル增加ヲ爲シツツアル事ヲ知ルニ足ルヘシ

今一九二五年ヨリ一九二七年ニ至ル三ケ年ノ綿布輸入ヲ其ノ仕出國ニ分チ其ノ金額並ニ比率ヲ示セハ左ノ如シ

國名	一九二五年 價格(磅)	一九二五年 歩合	一九二六年 價格(磅)	一九二六年 歩合	一九二七年 價格(磅)	一九二七年 歩合
日本	三七四、五二五	一八	二四一、三六九	二三	二四五、八〇三	二二
英國	四七六、六七一	三一	三二六、五二六	三〇	三三三、五〇三	三〇
印度及「ビルマ」	二〇三、九三二	一三	一三九、三七九	一三	一三〇、二八二	一二
獨逸	八九、〇三七	六	三〇、八七六	三	二六、六七五	二
和蘭	三二二、六九〇	二一	二一一、四四三	一九	二四一、八七五	二一
米國	八六、一六〇	六	五二、九二三	五	七六、七四一	七
其他諸國	八五、一〇七	五	八〇、三六四	七	六九、二三四	六
合計	一、五三八、一二二	一〇〇	一、〇八二、八八〇	一〇〇	一、一二四、一一三	一〇〇

即チ綿布ノ主タル供給國ハ英國ヲ第一、日本ヲ第二トシ、和蘭、印度、獨逸等順次之ニ次ク、但シ英國ハ主トシテ上等ノ加工品、日本ハ生木綿和蘭ハ綿毛布ヲ供給ス

一九二五年ヨリ一九二七年ニ至ル三ケ年間ニ於ケル綿布六種ノ輸入額及其ノ比率ハ左ノ如シ

品名	一九二五年 價格(磅)	一九二五年 百分率	一九二六年 價格(磅)	一九二六年 百分率	一九二七年 價格(磅)	一九二七年 百分率
生木綿	四〇九、七〇〇	二七	三二三、一二七	三〇	二九九、六〇三	二七
糸染木綿	二六四、八四九	一七	二一三、七九八	二〇	二五〇、三九〇	二二
反染木綿	三〇四、七九八	二〇	一九三、七二二	一八	二二六、七四三	二〇
綿毛布	三一一、〇一五	二〇	一七三、三六八	一六	一六一、六七六	一五
奈染木綿	一三二、九一二	九	九二、三一〇	八	一〇五、二六八	九
晒木綿	一一四、八四八	七	八六、五五五	八	八〇、四三三	七
合計	一、五三八、一二二	一〇〇	一、〇八二、八八〇	一〇〇	一、一二四、一一三	一〇〇
總輸入ニ對スル歩合	一九・〇六		一四・六〇		一四・六〇	

即チ生木綿カ辛フシテ其ノ地位ヲ保チツツアルニ對シテ、高級ナル加工品カ漸次土人ノ嗜好ニ投合シツツアル事ヲ察スルニ足ルヘシ、但シ全體ニ於ケル輸入減退ハ「ウガンダ」ニ於ケル不景氣ノ結果ニシテ、「ケニヤ」ニ於テハ一九二六年ノ一六八、三七五磅ニ對シ一九二七年ハ一七九、〇四一磅ヲ輸入セリ、其ノ事情ハ各品種說明ノ項ニ讓ル

今前記六種綿製品ニ付仕出國別ニシテ表示スレハ左ノ如シ

(1) 生木綿

年	日本	英國	印度	英本國	其他	合計
一九二五年	二三五、二一五	八五、二六六	九一、四三四	六、一八九	一、五九六	四〇九、七〇〇
一九二六年	二〇二、七三九	五一、五二六	六二、七六五	一、三八五	四、七二一	三二三、一二七
一九二七年	一六〇、〇七五	七六、一七四	五四、九六〇	二、七三一	五、六六三	二九九、六〇三

生木綿ハ從來主トシテ日本ヨリ供給シ居リ、最近ニ於テモ日本ハ尙其ノ過半數ヲ供給シ、依然

優勢ヲ保持スルモ、近年ハ其ノ輸入總額ニ於テ年々減退ノ傾向ヲ示シ、一九二一年ノ三八九、二四五磅、一九二三年ノ四八二、七九九磅、一九二四年ノ四六七、九一六磅ヨリ、前表ノ如ク一九二五年ノ四〇九、〇〇〇磅ニ及ヒ、更ニ一九二六年ノ三二三、一二七磅ヨリ一九二七年ノ二九九、六〇三磅ニ減退セリ、蓋シ土人ノ嗜好カ漸次高級品ニ轉シツツアル爲ニシテ、此ノ傾向ハ特ニ「ウガンダ」ニ於テ顯著ナリトス、卽チ「ケニヤ」ハ一九二六年一六八、三七五磅ナリシニ對シ、一九二七年ハ一七九、〇四一磅ニ增加シ、「ウガンダ」ハ一九二六年ノ一五四、七五二磅ニ對シ一九二七年ハ一二〇、五六二磅ニ減少セリ、今之ヲ他ノ輸出國ニ就テ觀察スルニ、日本カ近來漸減ノ傾向アルニ反シ、米國及英國カ一九二七年ニ於テ著シク其ノ輸出ヲ增加シ、日本ハ是等兩國ノ爲ニ其ノ縄張ヲ侵サルル狀アリ、蓋シ土人ノ需要カ漸次輕目物ニ向ツテ轉化シツツアルニ由ルモノニシテ吾人ノ大ニ注意スヘキ所ナリトス

(2) 晒木綿

年	英本國	英領印度及「ビルマ」	和蘭	日本	其他	合計
一九二五年	七三、五六三	二、二五一	三、二四五	五、二三五	三、八四一	一一四、八四八
一九二六年	五二、八四二	二、三一六	二、四二〇	五、四二三	一、五九三	八六、五五五
一九二七年	四五、六四二	五九八	二、四二〇	八、六四八	一、二七二	八〇、四三三

晒木綿ノ輸入ノ減退シタルハ、「ウガンダ」ニ於ケル不景氣ノ結果ニシテ、「ケニヤ」ニ於テハ一九二六年ノ輸入カ二二、八四五磅ナリシニ對シ一九二七年ハ二九、八〇八磅ニ增加シ、「ウガンダ」ハ一九二六年六三、七一〇磅ナリシニ對シ、一九二七年ハ五〇、六二五磅ニ減退セリ

(3) 奈染木綿

年	英本國	和蘭	日本	英領印度「ビルマ」	伊太利	獨逸	其他	合計
一九二五年	一一、七五一	九、二〇三	一、〇〇九	七、五〇一	—	二、三八二	一、〇六六	一三二、九一二
一九二六年	七八、〇三七	七、九六〇	五二三	二、七六九	二、二四八	一、九二五	二、六六七	九二、三一〇
一九二七年	六六、一六一	一五、四七〇	一一、七九四	四、四五四	三、三〇八	二、四七四	一、六一〇	一〇五、二六八

一九二五年ノ好況ノ后ヲ受ケ一九二六年ハ不振ヲ示シタルモ一九二七年ハ復活然カモ日本カ一躍第三位ニ進ミ、和蘭ノ壘ヲ摩セントスルニ至リタルハ大ニ意ヲ强フスルニ足ル、蓋シ一九二七年ニ於ケル本品ノ盛況ハ「ケニヤ」ノ好況ナリシニ由ルモノニシテ、「ケニヤ」ハ一九二六年五七、一一六磅ナリシニ對シ、一九二七年ハ七七、七三〇磅ニ增加シ、「ウガンダ」ハ一九二六年六三、七一〇磅ナリシニ對シ、一九二七年ハ二七、五三八磅ニ減退セリ

(4) 反染木綿

年	英本國	和蘭	日本	英領印度「ビルマ」	伊太利	獨逸	其他	合計
一九二五年	三二、〇二五	三、四五〇	一二、九五六	一七、七三一	—	九、九九〇	一〇、六四六	三〇四、七九八

一九二六年	一五二、〇二〇	一九、六九五	四、三三三	七、五八八	二、二四八	四、七三七	三、一〇一	一九三、七二二
一九二七年	一七三、八〇五	二六、九三五	六、五七〇	五、一三八	四、四一一	三、八九八	二三六、七四三

本品モ亦一九二五年好況ノ后ヲ受ケ、一九二六年ハ不況ナリシモ一九二七年ハ復活、日本ハ輸入量大ナラサルモ累年前進セリ、今一段ノ努力ヲ要ス

(5) 糸染綿布 (單位磅)

年	和蘭	英領印度「ビルマ」	日本	英本國	白耳義	獨逸	其他	合計
一九二五年	六三、三二五	七二、七九七	三〇、二二〇	四七、六六七	二二、五二〇	一四、三七七	一四、〇六二	二六四、八四九
一九二六年	五一、四五五	五七、六八五	二八、三五二	三四、八八三	二八、四四五	六、四三三	六、五四四	二二三、七九八
一九二七年	六三、八二七	五九、六一〇	五八、六九六	三八、二六九	一八、二七一	五、三一六	六、四〇一	二五〇、三九〇

本品モ亦一九二五年ノ好況ノ後ヲ受ケ、一九二六年ハ不況ナリシモ、一九二七年ハ復活、日本ハ英白兩國ヲ凌イテ第三位ニ進ミ、第一位ノ和蘭第二位ノ印度ニ對シ尙一籌ヲ輸スト雖モ、殆ト其ノ壘ヲ摩スルニ足ル

(6) 綿毛布

年	和蘭	白耳義	獨逸	英本國	英領印度「ビルマ」	日本	其他	合計
一九二五年	一八、六四六七	二五、二四九	六一、六七七	一五、四七六	一二、二一八	—	九、九三一	三一、〇一五
一九二六年	一〇七、八二七	二五、五五九	一六、九六九	七、三五九	六、二五八	—	九、三九八	一七三、三六八
一九二七年	一一〇、六七三	一八、九二五	一四、〇三〇	六、八九五	四、六七四	一、四七三	五、〇〇六	一六一、六七六

本品ノ輸入ヲ減退シタルハ「ウガンダ」ニ於ケル不景氣ノ結果ニシテ、「ケニヤ」ニ於テハ一九二六年ノ一〇五、三四五磅ニ對シ一九二七年ハ一一、二九七〇磅ニ增加シタルモ、「ウガンダ」ハ一九二六年ノ六八、〇二三磅ニ對シ一九二七年ハ四八、七〇六磅ニ減退セリ、但シ本品ハ主トシテ和蘭ヨリ輸入セラルルモノニシテ、他ノ諸國ハ遠ク之ニ及ハス、殊ニ日本ハ最モ無勢力ニシテ、一九二四年以前ニハ僅少ノ輸入ヲ爲シタル事アルモ、爾來絕無ニ陷リタルモノナル所、一九二七年ニ至リ漸ク右ノ地位ニ達シタリ、本品ノ前途極メテ有望ナルニ鑑ミ、切ニ當業者ノ努力ヲ望ム

右ノ諸表ニ現ハルルカ如ク輸入綿布ハ其ノ種類ニ就テ云フ時ハ第一生木綿最モ優勢ニシテ、糸染木綿、反染木綿、綿毛布、奈染木綿、晒木綿順次之ニ次クモ、當國ノ需要カ漸次高級品ニ向ヒツツアル事ハ爭ヒ難キ事ニシテ、生木綿中ニテモ一般ノ嗜好カ重目物ヨリ次第ニ輕目物ニ向ヒ、又生木綿ヨリ他ノ加工品ニ變リツツアル事ハ大ニ注意セサルヘカラス、更ニ輸入國ニ就テ云フ時ハ生木綿ハ日本品最モ優勢ナルモ、米國及英國カ急ニ進出シツツアル事ハ、輕目物ノ輸入ニ於テ成功セルカ爲ニシテ、大ニ注意ニ價スヘシ、第二晒木綿ハ其ノ半額以上ヲ英國ヨリ供給シ、他ノ諸

國ハ遙ニ及ハス、但シ日本ハ僅ナカラ進歩ノ跡見ルヘキモノアリ、第三奈染木綿ハ英國其ノ半額以上ヲ占メ、和蘭、日本之ニ次ク、但シ日本ノ進歩最モ著シク、將ニ和蘭ヲ凌駕セントスルノ慨アリ、第四反染木綿モ亦英國其ノ半額以上ヲ輸入シ、和蘭、日本順次之ニ次ク、第五糸染木綿ハ和蘭、第一位ニ居リ印度、日本順次之ニ次クモ、日本ノ進歩著シク和蘭印度ノ壘ニ迫リ、前途極メテ有望ナルモノアリ、第六綿毛布ノ輸入ハ前途極メテ有望ナリ、然カモ本品ハ殆ト和蘭ノ爲ニ獨占セラル、蓋シ和蘭毛布ノ特色ハ他國品ニ比シ品質遙ニ優良ニシテ然カモ價格ノ極メテ低廉ナルニ在リ我製造業者ニ對シ切ニ研究ヲ望ム

(二) 輸出

「ケニヤ」及「ウガンダ」生産品ニ付一九〇八年ヨリ一九二七年迄二十年間ノ輸出額ヲ左ニ示スベシ（單位磅）

年	「ケニヤ」	「ウガンダ」	合計
一九〇八年	一五七、〇九七	一四〇、二七七	二九七、三七四
一九〇九年	一四〇、四一八	一四〇、三七〇	二八〇、七八八
一九一〇年	一九〇、六六八	二一一、七九六	四〇二、四六四
一九一一年	二七六、四八〇	三七一、五一三	六四七、九九三
一九一二年	三三三、六七〇	三七七、〇七四	七一〇、七四四
一九一三年	四二一、〇八四	四二七、二二八	八四八、三一二
一九一四年	四四三、六二四	五六四、二四四	一、〇〇七、八六八
一九一五年	三一四、八〇四	五〇六、八七八	八二一、六八二
一九一六年	三二九、五一九	三五六、六四二	六八六、一六一
一九一七年	五八七、〇四四	六九九、八二四	一、二八六、八六八
一九一八年	七五八、四一一	七八四、六九三	一、五四三、一〇四
一九一九年	九八四、三七〇	一、二四七、四五七	二、二三一、八二七
一九二〇年	一、一七八、四六〇	一、八二八、五三七	三、〇〇六、九九七
一九二一年	一、八三二、八〇五	二、八六六、六九三	四、六九九、四九八
一九二二年	一、〇八四、五九〇	一、六九六、四〇八	二、七八〇、九九八
一九二三年	一、五六四、九五五	二、四三一、四七七	三、九九六、四三二
一九二四年	二、二三九、六一四	三、八九七、三九五	六、一三七、〇〇九
一九二五年	二、七二四、六二九	五、〇九七、二一五	七、八二一、八四四
一九二六年	二、四一四、三四一	三、五九六、〇四五	六、〇一〇、三八六
一九二七年	三、〇八六、九一六	二、三一〇、三〇〇	五、三九七、二一七

即チ今ヨリ二十年前ノ一九〇八年ニ於ケル「ケニヤ」及「ウガンダ」兩國ノ輸出額ハ合計二九七、三七四磅ナリシモ、一九二七年ニハ其ノ約十八倍トナレリ、以テ此ノ地方ノ産業カ如何ニ迅速

ナル進歩ヲ爲シツツアルヤヲ知ルニ足ルヘシ、但シ最近ニ至リ引續キ輸出ノ減退セルハ「ウガンダ」ニ於ケル棉花ノ不作ニ依ルコトハ前ニ説明セル通リナリ

今國產輸出ヲ仕向國ニ分チ一九二五年ヨリ一九二七年迄三ケ年間ノ輸出額及其ノ歩合ヲ示セハ左ノ如シ

仕向國	一九二五年 金額	一九二五年 百分率	一九二六年 金額	一九二六年 百分率	一九二七年 金額	一九二七年 百分率
英本國	四、四一〇、五四四	五六・四	二、九七六、二九〇	四九・五	二、五五七、〇六七	四七・四
印度其他英屬領地	二、一七六、四八三	二七・八	一、五七二、六二〇	二六・二	一、二五三、〇八六	二三・二
日本	一六七、八九三	二・一	四六五、二一五	七・八	六〇六、九九〇	一一・二
白耳義	二七五、一一三	三・五	三二六、七一七	五・四	三二一、六八一	五・九
獨逸	一九五、九一五	二・五	七三、五〇七	一・二	一六一、〇一〇	三
和蘭	一二二、八五一	一・六	一〇四、一三八	一・七	九五、四二〇	一・八
佛蘭西	一〇二、三〇二	一・三	一五三、四一七	二・五	八五、一四六	一・六
米國	一〇五、一三七	一・三	九七、四七〇	一・六	七三、五九九	一・四
其他	二六五、六〇六	三・五	二三九、三一二	四・一	二四三、二一七	四・五
合計	七、八二一、八四四	一〇〇	六、〇一〇、三八六	一〇〇	五、三九七、二一六	一〇〇

卽チ各國孰モ輸出ノ減退モルニ反シ、日本ハ獨乙ト共ニ增加ヲ示シ英國及印度ニ次テ第三位ヲ占ム蓋シ日本ヘノ輸出ノ增加ハ主トシテ曹達ノ輸出ノ激增シタルニ依ルモノニシテ、一ハ曹達會社ノ內容改善ノ結果產出力ヲ增加シタルト、他ハ大阪商船會社ノ直航路開通ノ結果、日本ニ對シ直接輸送ノ便ヲ生シタルニ由ル

更ニ輸出ヲ商品ノ種類ニ依リテ大別シ、一九二五年ヨリ一九二七年迄三ケ年間ノ輸出額及其ノ歩合ヲ左ニ示スヘシ

種別	一九二五年 價格(磅)	一九二五年 歩合	一九二六年 價格(磅)	一九二六年 歩合	一九二七年 價格(磅)	一九二七年 歩合
(イ) 飲食物及煙草	一、四八〇、一五六	一八・九三	一、三一五、六二二	二一・八九	一、九七九、六〇七	三六・六八
(ロ) 原料品	六、三二二、七五六	八〇・八四	四、六六二、五八二	七七・五八	三、三七八、八八二	六二・六〇
(ハ) 製造品	一四、四八八	〇・一八	二五、五二七	〇・四二	三三、五二九	〇・六二
(ニ) 生動物	四、四四四	〇・〇五	二、九五五	〇・〇五	二、七五四	〇・〇五
(ヘ) 正金	—	—	三、七〇〇	〇・〇六	二、四四四	〇・〇五
合計	七、八二一、八四四	一〇〇	六、〇一〇、三八六	一〇〇	五、三九七、二一六	一〇〇

卽チ右ニ依レハ輸出品ハ殆ト總テ飲食物及原料品ニシテ、他ハ殆ト算フルニ足ラス、但シ飲食物ハ主トシテ玉蜀黍及珈琲等ノ農產物ニシテ、原料品ハ棉花、「サイザル」、落花生等ノ農產物、曹達、革皮、象牙、鞣皮用樹皮等ナリトス

今是等重要輸出品ニ付一九二六年及一九二七年ニ於ケル輸出數量金額ヲ左ニ示スヘシ（單位磅）

品名	數量單位	一九二六年 數量	一九二六年 價格	一九二七年 數量	一九二七年 價格
勿琳	百封度	一七四、一三一	八九五、〇八〇	二五三、三一九	一、三一〇、七〇一
棉花	「センタル」	七二四、六九九	三、〇五六、九四〇	五二七、四八一	一、六九二、五六八
玉蜀黍	同	九二九、一七八	二八〇、五九六	一、七八七、六六五	五〇五、八九三
「サイザル」	噸	一四、九二八	五七九、四九九	一五、八三九	四六八、九七四
曹達	同	一九、四二七	八七、四二六	五六、六七五	二六三、一二九
革	百封度	五九、二七〇	二〇七、七八一	七七、四五三	二六二、六三七
棉實	噸	三五、三六五	一九四、九一五	二九、五〇二	一七〇、三〇三
「ゴム」	「センタル」	一三、九一三	一三八、二六一	一四、六二〇	八二、四六八
象牙	百封度	四七四	四一、三九六	九四九	六五、九八五
樺皮用樹皮	同	五四、一六二	二五、九二一	六八、四六八	三七、四一〇
落花生	噸	二、二三三	三六、九六六	一、二四八	二二、五六四
毛皮	枚	三、七九〇	三、八九二	三五、五五四	二一、五二四

（イ）棉花

一九二七年ニ於ケル棉花ノ輸出ノ減少ハ「ウガンダ」ニ於ケル各地ノ降雨ノ不足ナリシ爲メ收獲ノ不良ナリシト、及價格ノ低落シタルトニ依ル、蓋シ棉花百封度ノ價ハ一九二六年ニハ四磅四志五片ナリシモ、一九二七年ニハ三磅四志二片ニ下落セリ、一九二六年及一九二七年ニ於ケル本品ノ主ナル仕向國ハ左ノ如シ

仕向國	一九二六年 數量（センタール）	一九二六年 價格（磅）	一九二七年 數量（センタール）	一九二七年 價格（磅）
印度及「ビルマ」	三〇〇、一三七	一、二五八、三六八	二六三、七三四	八四八、七四九
英本國	三一五、六八〇	一、三四三、一五六	一四〇、七一五	四四八、七六九
日本	九四、七九五	三九六、四五一	一一八、七八九	三八〇、〇五八
其他	一四、〇八七	五八、九六五	四、二四三	一四、九九二
合計	七二四、六九九	三、〇五六、九四〇	五二七、四八一	一、六九二、五六八

即チ一九二七年ニ於ケル棉花ノ輸出カ前年ニ比シテ殆ト半減シ、其ノ二大輸入國タル英印兩國ノ輸入カ相揃フテ激減シタルニ反シ獨リ日本ノ輸入カ數量ニ於テ增加シ、價格ニ於テ僅少ナル減額ヲ見タルニ過キス、以テ日本棉花輸入商ノ活動ノ狀ヲ察スルニ足ルヘシ、但シ本品ノ輸出ヲ產地ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ（單位磅）

產地	一九二六年	一九二七年
「ケニヤ」	五、一四九	一、七三一
「ウガンダ」	三、〇五一、七九一	一、六九〇、八三七
合計	三、〇五六、九四〇	一、六九二、五六八

(ロ) 珈琲

本品ハ棉花ニ次クヘキ輸出品ノ大宗ナリ、一九二六年及一九二七年ニ於ケル重ナル仕向國ハ左ノ如シ

仕向國	一九二六年 數量(百封度)	一九二六年 價格(磅)	一九二七年 數量(百封度)	一九二七年 價格(磅)
英本國	一三七、五一七	七二八、七九七	二〇七、一七七	一、一一五、四八二
南阿	八、一九七	四四、八九二	九、五七二	五四、四七〇
埃及	五、〇一二	二四、〇七二	六、〇四三	二四、六五四
伊國	八、六六五	四五、二五四	四、一八六	二一、八八四
其他	一四、七四〇	五二、〇六七	二六、三四一	九四、二一一
合計	一七四、一三一	八九五、〇八〇	二五三、三一九	一、三一〇、七〇一

更ニ右ノ輸出額ヲ產地ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ(單位磅)

產地	一九二六年	一九二七年
「ケニヤ」	七四七、一九五	一、一四〇、二九三
「ウガンダ」	一四七、八八五	一七〇、四〇八
合計	八九五、〇八〇	一、三一〇、七〇一

(ハ) 玉蜀黍

本品ハ其ノ殆ト半額ハ英國ニ、他ハ白耳義、獨逸、及佛蘭西ニ輸出セラル、但シ日本ヘモ僅少ノ輸出アリ、一九二六年及一九二七年ニ於ケル國別輸出額ハ左ノ如シ

仕向國	一九二六年 數量(百封度)	一九二六年 價格「磅」	一九二七年 數量(百封度)	一九二七年 價格「磅」
英國	三六七、〇二二	一一〇、三四二	九二八、九二五	二六二、二七七
白耳義	二四〇、四七〇	七二、六六八	二九〇、〇八四	八〇、一二三
獨逸	一四、九三七	四、四六七	二四四、八五〇	六八、六五二
佛國	二二、六七九	六、五四五	八四、四一三	二四、三四四
日本	一八〇	五四	六〇二	一六五
其他	二八三、八九〇	八六、五二〇	二三八、七九一	七〇、三三二
合計	九二九、一七八	二八〇、五九六	一、七八七、六六五	五〇五、八九三

但シ本品ハ全部「ケニヤ」ヨリ產出ス

(二)「サイザル」

本品ハ玉蜀黍ト比敵スヘキ輸出品ノ大宗ニシテ、主トシテ英國及白耳義ニ輸出セラレ、他ハ獨逸、佛蘭西等ニ輸出セラル、日本ヘノ輸出ハ云フニ足ラス、一九二六年及一九二七年ニ於ケル國別輸出ハ左ノ如シ

仕向國	一九二六年 數量(噸)	一九二六年 價格(磅)	一九二七年 數量(噸)	一九二七年 價格(磅)
英本國	五、五二〇	二〇八、一九六	六、六五六	一九二、四三八
白耳義	五、七六一	二二七、七九四	五、八五四	一七三、四四九
獨逸	六八六	二六、〇九〇	一、〇六二	三四、七〇六
和蘭	四七七	一九、〇一八	九一一	二八、五七四
米國	一、四九六	五九、四三五	九〇〇	二五、四六九
日本	—	—	—	—
其他	九八八	三八、九六六	四五六	一四、三三一
合計	一四、九二八	五七九、四九九	一五、八三九	四六八、九七四

但シ本品ハ全部「ケニヤ」ヨリ產出ス

(ホ) 曹達

本品ハ過去數年間採掘量減退ノ爲メ輸出捌々シカラサリシモ、最近ニ至リ會社ノ組織ヲ改造シ、設備ヲ整備ヲ整頓シタル爲メ、大ニ生產ヲ增加シ、大阪商船會社ノ本邦ヨリ直航路開始ト相待チ、一躍輸出ヲ三倍ニ增加セリ、但シ仕向國トシテハ日本其ノ八割以上ヲ占ム、一九二六年及一九二七年ニ於ケル國別輸出額ハ左ノ如シ

仕向國	一九二六年 數量(噸)	一九二六年 金額(磅)	一九二七年 數量(噸)	一九二七年 金額(磅)
日本	一四、六五一	六五、九二八	四六、四九九	二一五、九七二
印度	二、七五九	一二、四一五	四、六二五	二一、二七五
支那	—	—	六八〇	三、〇五八
南阿	七二一	三、二四七	五八七	二、七八〇
其他	一、二九六	五、八三六	四、二八四	二〇、〇四四
合計	一九、四二七	八七、四二六	五六、六七五	二六三、一二九

但シ本品ハ全部「ケニヤ」ヨリ產出ス

(ヘ) 革

本品ハ其ノ約半額ヲ英國ニ、其ノ他白耳義、和蘭、獨逸、印度、伊太利ニ輸出シ、日本ヘモ僅少ノ輸出アリ、一九二六年及一九二七年ニ於ケル國別輸出額ハ左ノ如シ

仕向國名	一九二六年 數量(百封度)	一九二六年 金額(磅)	一九二七年 數量(百封度)	一九二七年 金額(磅)
英國	三二、七七三	一一四、八〇九	三五、二五六	一一九、一四六
白耳義	三、五五五	一二、六一二	一七、四六八	六〇、七五九
和蘭	三三六	一、一二八	六、六三三	二一、四六七

獨逸	二、六九七	九、一三二	五、二七五	一八、三二三
日本	三	一一	一四五	五三五
其他	一九、九〇六	七〇、〇八九	一二、六七六	四二、四〇七
合計	五九、二七〇	二〇七、七八一	七七、四五三	二六二、六三七

更ニ之ヲ產地ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ（單位瓩）

產地	一九二六年	一九二七年
「ケニヤ」	一八〇、四二三	六三、〇九五
「ウガンダ」	二七、三五八	九九、五四二
合計	二〇七、七八一	二六二、六三七

(三) 日本トノ貿易

(イ) 日本ヨリ輸入

日本ヨリノ輸入品ハ孟買亞丁方面ヨリ轉入スルモノ尠カラサルモ、其ノ內容ヲ知ル事困難ナルニ付、當國稅關報告ニ記載セラレタル一九二五年ヨリ一九二七年ニ至ル三ケ年間ノ直輸入額ヲ左ニ示スヘシ（單位瓩）

品名	一九二五年	一九二六年	一九二七年
米	—	—	三二
鑵詰肉	—	—	一
清涼飲料	—	—	—
參酒	—	—	—
乾魚鹽魚	—	—	—
魚鑵詰	二四	二三	一六〇
食料品	—	—	五八
香料	—	—	二五
種子類	—	—	四
「タール」及「ピッチ」	七六〇	一、二九七	二、三四〇
陶器	一一一	四一	七八
硝子器	一四	一七	二八七
硝子壜	六一〇	七一六	四九七
家庭用硝子器	—	—	三二〇
鏡	三八	九七	二九五
其他硝子製品	—	一	一二五
「セメント」	—	—	二
石材	—	—	七
亞鉛引瀉板	—	—	—

亞鉛引平板	—	—	—
「エナメル」容器	七、七二二	四、一四四	二、一一一
其他各種容器	—	—	—
釘、鑷蕨、「リベット」「ボールト」、「ヒンジ」	一九	六	—
鐵鋼製品	一八〇	五八	一二四
「アルミニューム」容器	七八	二〇	—
眞鑄製品	三四	九三	八三
錫製品	—	—	六
其他金屬製品	二七	二六	一八
大工道具	二二	七一	四八
時計	一一	—	一五
刄物	—	—	一
容器以外ノ金屬器	九五	二五	五九
鎖及戸錠前	一二	—	五
各種道具及部分品	四六	二六	二八
「ナイフ」	—	—	二
剃刀	二六	一	一
	四	一	二

科學機械	七七	四	七六
電氣燈「バルブ」	—	一	一〇
木製家具	一一	一二三	一六
其他木製品	三五	五〇五	六、四七四
生綿布	二二五、二一五	二〇二、七三九	一六〇、〇七五
晒綿布	五、一二五	五、四二三	八、六四八
奈染綿布	一、〇〇九	五二二	一一、七九四
反染綿布	一二、九五六	四、三三三	六、五七〇
糸染綿布	三〇、一二〇	二八、三五二	五八、六九六
綿毛布	六〇九	—	二〇
綿糸	一〇八	五二	二三
其他綿製品	一、〇一九	一、七八〇	三、七四四
毛布	—	八	—
「カーペット」	—	—	一七
毛織物	四一	四七	—
其他羊毛製品	三	九六	二六
絹織物	三七一	二、五五八	八、三一二
絹糸	—	一一	—

其他絹製品	一、二三二	二七七	三、五一五
「マット」及「マッチング」	四	—	八
麻綱	—	—	一一
麻糸	—	—	一一
麻製品	一二	一〇	一七
「カンバス」	—	五	—
其他織物	—	—	三六
靴	三五	一七	九二
小間物	一六	三四一	一、〇六八
帽子	三三	一一六	四一
莫大小靴下	一、七四五	一、〇七六	一、八〇三
其他莫大小製品	一四、六二一	一八、九八七	二二、五一五
衣服類	一、三一四	三、七四九	四、六七〇
消毒劑	—	—	一四
化學製品	六	一	—
藥劑	一一一	二四	六九
繃帶	二四	一〇五	五七
染料	二六	一一	—

顔料	—	四	—
石鹸	一一	二	—
化粧用油類	—	—	八二
革製品	一四九	四〇	五三
卷煙草用紙	一一	六四	六七
其他用紙類	—	七	—
「カード」	—	二	—
文房具	二〇七	六三	二五九
其他紙製品	一四	一四	六〇
自轉車	—	—	四一
自轉車部分品	—	—	一九
其他車輛及部分品	—	—	二二
「ゴム」製品	一三	一七	二六
南京玉	七一	一二七	一〇三
靴墨	—	—	四五
印刷物	—	—	四三
筆及刷子	四〇一	八九	一一五
寶石及模造寶石	一、〇七七	一、二三九	一、〇一四

洋燈及提灯	一七五	三	一〇一六	
燐寸	三五	一二	四四三	
樂器	一六	一	一	
香水化粧品	一五	六	三〇二	
繪畫及彫刻	—	一〇	四	
花火	—	八二	五四	
裁縫機械	—	—	四	
玩具及運動具	二一七	二〇〇	二六六	
傘	四五	一九一	六三五	
家財及身廻品	—	—	三	
其他雜品	一、〇二二	一、〇〇五	一、〇六四	
小包郵便物	三、二六八	九、〇三一	九、六九四	
合計	三一二、五三六	二九、〇四八	三一九、六八〇	

卽チ日本ヨリノ輸入ハ一九二五年ノ六十二種三一二、五三六磅ニ對シ一九二六年ニハ六十七種二九、〇四八磅トナリタルモ、一九二七年ニハ八十九種三一九、六八〇磅ニ增加セリ、但シ一九二七年ニ於ケル重要輸入品中取引高一萬磅以上ノモノハ生綿布、糸染綿布、莫大小、奈染綿布、五千磅乃至一萬磅ノモノハ絹織物、晒綿布、反染綿布、木製晒、一千磅乃至五千磅ノモノハ衣服類、其ノ他ノ綿製品、絹製品、陶器、「エナメル」器、小間物類ニシテ他ノ諸輸入國ニ對シテ第一位乃至第三位ノ優勢ヲ保持ス、然レトモ本邦ニ於テ或程度ノ供給能力ヲ有スル商品ニシテ、未タ多ク當國市場ニ上ラサルモノモ亦尠カラス、例ヘハ玩具、洋提灯、「ブラッシュ」、南京玉、土人向洋傘燐寸ノ如キハ當國ニ於テ相當需要セラルルニ拘ハラス、本邦ヨリノ輸入ハ極メテ輕少ナルモノニシテ、玩具ハ主トシテ英國及獨逸ヨリ、土人向洋傘ハ英國、印度、和蘭ヨリ、洋提燈ハ獨逸及英國ヨリ、燐寸ハ瑞西ヨリ、「ブラッシュ」ハ英國ヨリ、南京玉ハ獨逸、伊太利、「チエコ」ヨリ輸入セリ又「エナメル」容器ノ如キハ日本ヨリ一九二四年中約一萬三千磅ノ輸入ヲ見タルモ、爾來年々歐洲品ノ爲メニ擊退セラレ一九二七年ニハ僅ニ二千百十一磅トナリ、又「アルミニューム」容器ノ如キハ僅少ナカラ過去數年間其ノ輸入ヲ續ケタルモ、一九二七年ニハ全然輸入ヲ見サルニ至リ、獨逸品其ノ全盛ヲ極メ居レリ、當業者ノ奮勵ヲ望ム

(ロ) 日本ヘ輸出

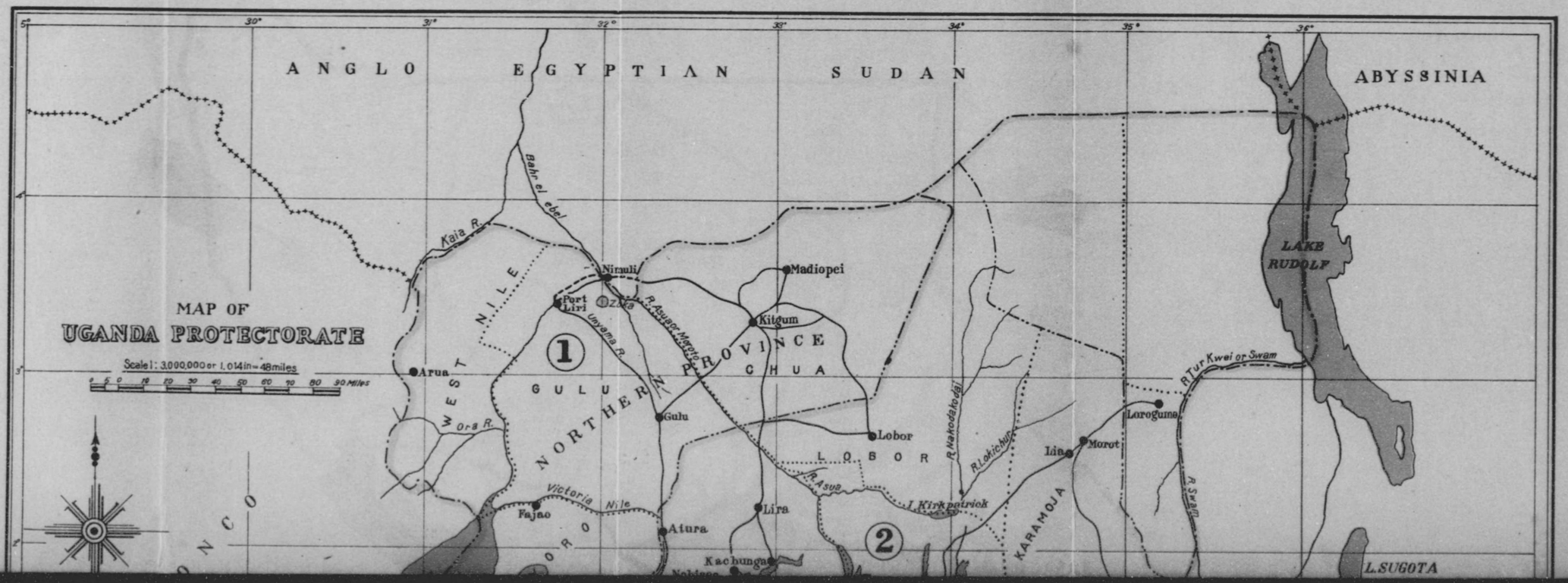
稅關報告ニ依レハ一九二六年及一九二七年中日本ヘ輸出セラレタルモノ左ノ如シ（單位磅）

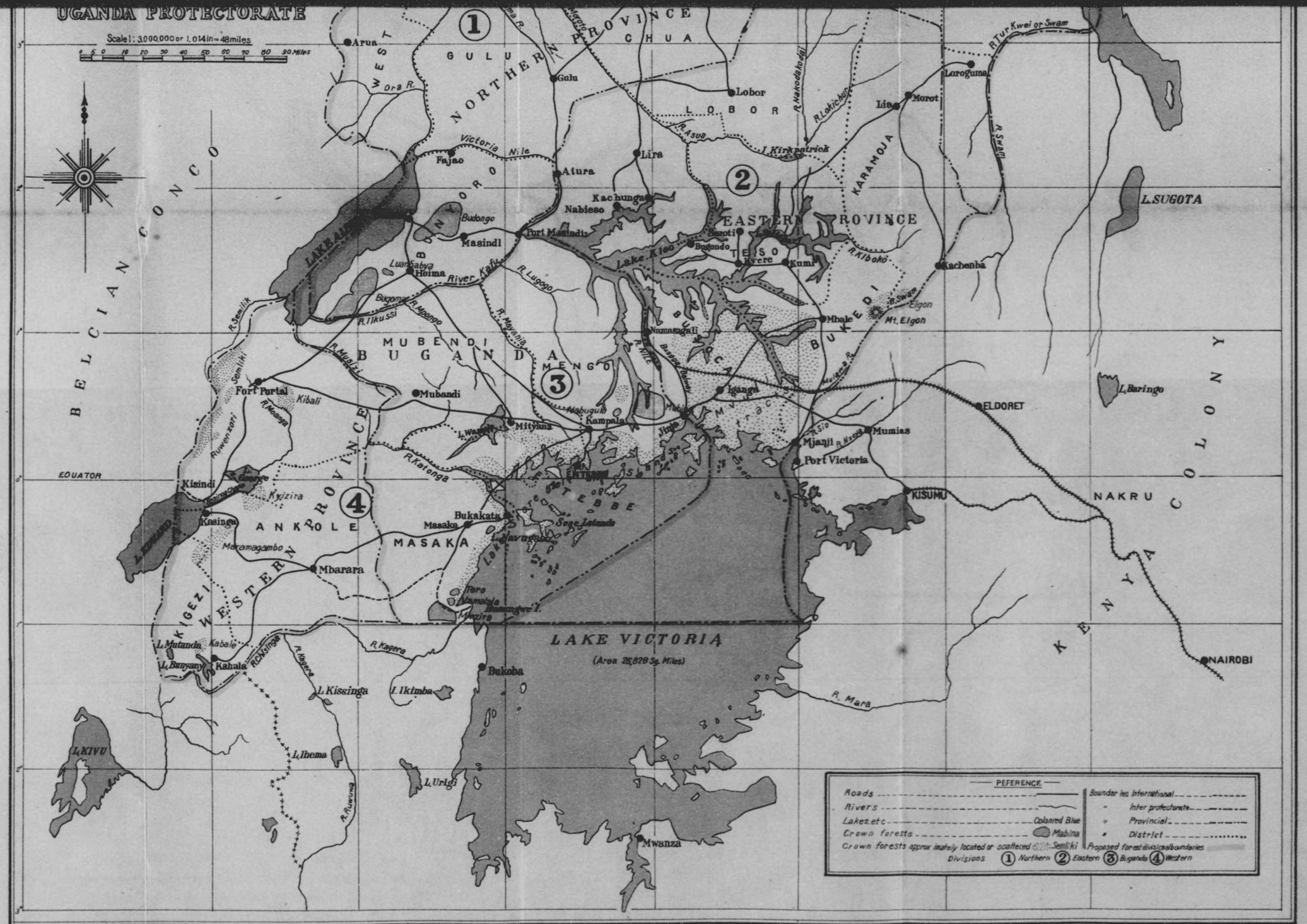
品名	一九二六年	一九二七年
玉蜀黍	五四	一六五

油	一			一
鉛				
砂糖	一			五
珈琲	二一八		（再輸出品）	五九四
「ウイスキー」	一		（再輸出品）	一〇
曹達	六五、九二八			二一五、九七二
棉花	三九六、四五一	内一、七三〇ハ「タンガニカ」産再輸出		三八一、七八八
棉實	四五二			四、八六五
「サイザル」	一			七
落花生	一三			二
「ココナッツ」油	一			一
革	三六一			五三五
毛皮	一			二
「ワットル・バーク」	三、〇六八			二、六三五
「ワットル・エキストラクト」	一			二、〇七〇
犀角	七			八四
亞鉛引鐵板	一		（再輸出）	一
生木綿	一		同	五
反染木綿	一		（再輸出）	二
糸染木綿	一		同	四
其他綿製品	一		同	二〇
自轉車	一		同	一二
玩具	一			六
家財	一			一五
合計	四六六、五五三			六〇八、八〇〇

即チ一九二六年ノ日本向輸出品九種四六六、五五三磅ニ對シ、一九二七年ハ二三種六〇八、八〇〇磅ニ達シタリ、然レトモ各品ニ就テ之ヲ見ルニ、右ノ内ニハ見本又ハ返送品ト認ムヘキモノ尠カラス、眞ノ輸出品ト認ムヘキモノハ玉蜀黍、珈琲、曹達、棉花、棉實、革皮、「ワットル バーク」、「ワットル エキストラクト」ノ九品ニシテ、優勢ナリトハ稱シ難キモ、日本カ當地方商品ノ仕向國トシテ次第ニ其ノ重要性ヲ增シツツアル事ハ、大ニ意ヲ强フスルニ足ル

「ウガンダ」保護領事情


MAP OF
UGANDA PROTECTORATE
Scale 1: 3,000,000 or 1.014 in = 48 miles
0 5 10 20 30 40 50 60 70 80 90 Miles
ANGLO EGYPTIAN SUDAN
ABYSSINIA
LAKE RUDOLF
L. SUGOTA
WEST NILE
NORTHERN PROVINCE
GULU
CHUA
LOBOR
KARAMOJA
1
2
Nimuli
Port Liri
Madiopei
Kitgum
Arua
Gulu
Lobor
Lira
Atura
Fajao
Kachunga
Loroguma
Lia
Morot
Kaia R.
Bahr el Abiad
Ora R.
Victoria Nile
R. Asua
R. Kakodatodai
R. Lokichuri
R. Turkwei or Swam
R. Swam
J. Kirkpatrick
30°
31°
32°
33°
34°
35°
36°
5°
4°
3°
2°

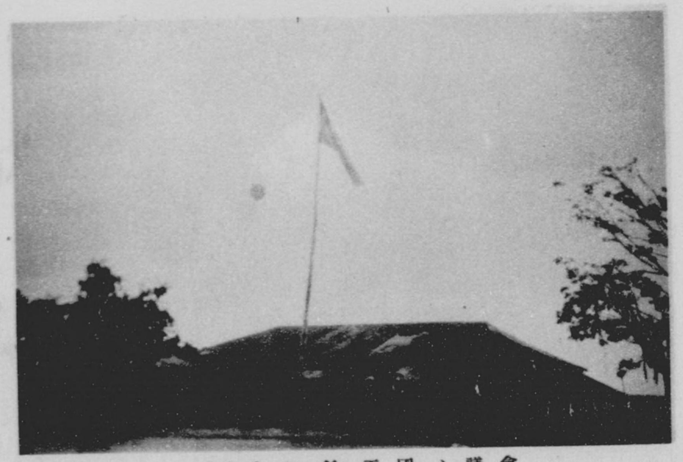

UGANDA PROTECTORATE
Scale 1: 3,000,000 or 1.014 in = 48 miles
0 5 10 20 30 40 50 60 70 80 90 Miles
BELGIAN CONGO
WEST NILE
GULU
NORTHERN PROVINCE
CHUA
LOBOR
KARAMOJA
EASTERN PROVINCE
TESO
BUKEDI
BUGANDA
MUBENDI
MENGO
WESTERN PROVINCE
ANKOLE
MASAKA
KIGEZI
KENYA COLONY
NAKRU
LAKE VICTORIA
(Area 26,828 Sq. Miles)
LAKE ALBERT
Lake Kioga
Victoria Nile
River Kafu
EQUATOR
Arua
Gulu
Lobor
Lira
Atura
Fajao
Kachunga
Nabieso
Budongo
Masindi
Port Masindi
Hoima
Luanjabya
Soroti
Bugondo
Mbale
Kumi
Kachenba
Loroguma
Lira
Morot
Namasagali
Iganga
Mubandi
Fort Portal
Kibali
Kampala
Mityana
Mabuguli
Mjanji
Port Victoria
Mumias
KISUMU
ELDORET
NAIROBI
Kisindi
Kyizira
Kasinga
Bukakata
Masaka
Mbarara
Mwanza
Bukoba
Kahala
Kabale
L. SUGOTA
L. Baringo
L. KIVU
L. Edward
L. Mutanda
L. Bunyanyi
L. Kissinga
I. Ikimba
L. Ibema
L. Urigi
Sese Islands
Mt. Elgon
R. Tur Kwei or Swam
R. Swam
R. Kibokó
R. Nakodatodgi
R. Lokichuto
R. Asua
R. Victoria
R. Lugogo
R. Mpango
R. Mayanja
R. Mubiri
R. Katonga
R. Semliki
R. Kagera
R. Kisinga
R. Mara
R. Nzoia
REFERENCE
Roads
Rivers
Lakes etc — Coloured Blue
Crown forests — Mabira
Crown forests approximately located or scattered — Semliki
Boundaries International
Inter protectorate
Provincial
District
Proposed forest division boundaries
Divisions (1) Northern (2) Eastern (3) Buganda (4) Western

「ウガンダ」國首府「エンテベ」ノ總督府
建物ハ圍ラスニ廣大ナル庭園ヲ以テス　人ハ右ヨリ飯田書記生筆者梅本醫學博士

總督府各部廳舍
前ハ「ヴイクトリア」湖後ハ鬱叢タル綠林其間ヨリ歐風ノ「バンガロー」ヲ隱見シ風景佳絶畫ノ如シ

左端ハ「ブガンダ」王「ダウ、チワ」殿下

「ウガンダ」ノ一王國「ブガンダ」ノ首府「カムパラ」ニ於ケル國王(カバカト云フ)ト總理大臣其ノ他ノ大官



「ブカンダ」王國ノ議會

「ウカンダ」ニ四王國アリ「ブガンダ」ハ其一　議會ヲ土語ニテ「ルキコ」ト云フ　議長ハ總理大臣

「ブガンダ」王宮ノ樂師

樂師等吾團員歡迎ノ爲吹奏中　今用ユル樂器ハ角制ノ笛　平生用ユル彼等ノ樂器ニハ笛ノ外ニ太鼓蛇味線等種々アリ

「ガムバラ」ニ於ケル英國地方廳

總督府ノ宏壯ナルニ比シ地方廳ハ極メテ貧弱ナル木造家屋ニテ恰モ物置ノ如キ觀チナス

「ブガンダ」ノ首府「カムパラ」ノ旅館

是ハ「イムペリアル・ホテル」ト云ヒ當國第一ノ旅館ナリ　設備不充分ナルモ數日ノ安眠ヲ貪ニ足ル

「カムパラ」ノ郊外

圖ニ見ユル人物ハ土人ノ水汲ニシテ水桶ニハ石油罐ヲ用ユ　但シ運搬ニハ總テ頭ヲ用ユ

「カムバラ」ノ商店街
多クハ印度人ノ經營スルモノニシテ　中ニハ賃貸ナル土人ノ店輔アリ

「ジンジヤ」港埠頭ノ光景
「ヴイクトリア」湖畔ニ於テ「カムバラ」ト相並ビ商業ノ最モ盛ナル處
圖ニ見ル右方ノ家ハ稅關

「ジンジヤ」ヨリ棉花輸出ノ光景

「ウガンダ」東部ヨリ輸出ノ棉花ハ「ジンジヤ」ニ集マル　圖ハ其光景ヲ示スモノナリ

「ジンジヤ」ノ遠望

汽船「クレメント」號ヨリ「ジンジヤ」ヲ見タル處　反對ノ方面ハ一望洋々際涯ナシ

「ウガンダ」ニ於ケル土人ノ青年英國教會ニ屬スル土人信者ノ「フートボール・チーム」ニシテ之チ阿弗利加奥地ノ「モダンボーイ」トス

平和ナ土人部落

「ブガンダ」王國ノ土人ノ常食ハ「バナナ」ニシテ各戸皆其周圍ニ「バナナ」チ植ユ　但シ此外政府ノ命令ニテ棉チ栽培ス

「ナイル」河ノ水源「リツポンフオールス」是レ「ヴイクトリア」湖水ノ奔流スル所　巖頭ニ紀念碑アリ　「スピーク」一八六二年七月二八日「ナイル」河ノ水源ヲ發見スト刻シ其名ヲ不巧トス

「ヴイクトリア・ナイル」
「ヴイクトリア」湖ハ落チテ「リツポンフオールス」ト成リ流レテ「ナイル」河トナル　圖ハ即チ夫レナリ

「ウガンダ」保護領事情

第一、位置及面積

「ウガンダ」ハ南緯十四度半ヨリ北緯四度半、東經約二十九度半ヨリ同三十六度迄ノ間ニ在リ、テ、北ハ埃及蘇丹、西ハ白領「コンゴー」、東ハ「ケニヤ」、南ハ「タンガニカ」ト境ヲ交ヘ、印度洋沿岸迄ノ最短距離約五百哩、首都「エンテベ」ヨリ「モムバサ」港迄約八百哩ヲ距タレリ、

但シ當領ノ面積ハ陸地九四、二〇四平方哩、湖水一六、〇九六平方哩（湖水ノ他ノ部分ハ「ケニヤ」及「タンガニカ」ニ屬ス）合計一一〇、三〇〇平方哩ニシテ、日本領土ノ約二分ノ一弱ニ當リ、陸地ハ其ノ約三割七分ニ當レリ、今之ヲ地方別ニシテ示セハ左ノ如シ（單位平方哩）

「ブガンダ」州	五、八五一
「メンゴー」地方	六、二九四
「エンテベ」地方	四、六〇二
「マサカ」地方	五、六二三
「ムベンデ」地方	二二、三七〇
合計	

東部州		
「ブソガ」地方	一〇、四四五	
「ブダマ」地方	九四七	
「ブギシュ」地方	一、三九三	
「ブゲウェレ」地方	一、一八六	
「テソ」地方	三、九九〇	
「ランゴ」地方	五、四〇九	
「カラモウヤ」地方	一一、八八八	
合計	三五、二五八	
西部州		
「トロ」地方	五、五七九	
「アンコレ」地方	六、一三一	
「キゲウ」地方	二、〇五六	
合計	一三、七六六	
北部州		
「アンヨロ」地方	五、六一九	
「ゲル」	六、九九五	
「チュア」	六、〇八三	
「ウエスト・ナイル」	四、一一三	
合計	二二、八一〇	
以上總計	九四、二〇四	

第二、地勢

「ウガンダ」ハ海拔一五〇〇呎乃至四五〇〇呎ノ高原地ナルモ、各地ニ湖沼多ク、南ニ「ヴィクトリア」湖ト北ニ「ルードルフ」湖トヲ控ヘ、又西ノ方白領「コンゴー」トノ界ニハ「エドワード」湖及「アルバート」湖ヲ擁シ、中央部ニハ恰モ百足ノ如キ形ノ「キオガ」湖及其ノ他ノ湖沼アリ、然カモ「エドワード」湖ノ南ニハ「ムフムビロ」山又其ノ北ニハ「ルウェンゾリ」山（海拔一六七九〇呎）アリテ其ノ地方ノ脊梁トナリ、孰モ東北ニ向ツテ漸次低下シ、「キヲガ」湖附近ニ至リテ平原トナル、又東北ノ地方ニ於テハ「ケニヤ」ノ國境ニ「エルゴン」山（海拔一四、一四〇〇呎）アリ、夫ヨリ西北ニ向ツテ一連ノ大山脈ヲ派出シ、「ルードルフ」湖盆地ト「キヲガ」湖盆地トヲ兩分シ、以テ蘇丹ノ諸山ト聯繫ス、但シ地高ハ「ヴィクトリア」湖畔ニ於テハ海拔三七五〇呎ナルモ、「アルバート」湖ノ北方ニ於テハ二、〇二八呎ト成リ、夫ヨリ北ニ向ツテ次第ニ低下ス

「ヴィクトリア」湖ハ「ケニヤ」、「ウガンダ」、「タンガニカ」ノ三國ノ間ニ在リテ東西一五五哩、南北二五五哩ニ亙リ、水面ノ廣サ二六、八二八平方哩ニシテ其ノ大サ我九州ト四國トヲ併セタルモノヨリモ更ニ大ナリ、是レ卽チ「ナイル」河ノ水源ニシテ、其ノ流出口ハ「ジンジャ」附近ノ「ナポレオン」灣頭ニ在リ、之ヲ「リッポン・フォール」ト云ヒ、一八六二年探險家「スピークス」ノ發見スル所ナリ、但シ奔流ハ北ニ向ヒ一射シテ「キオガ」湖ニ入リ、夫ヨリ再ヒ出テテ「アルバート」湖ト成リ更ニ北ニ流レテ蘇丹ニ入ルモノニシテ孰モ皆舟運ノ便アリ

「ヴィクトリア」湖ト「キオガ」湖トノ間ハ大盆地ヲナシ、地味肥沃ナル事ニ於テ當國第一ノ稱アリ、是レ卽チ棉栽培ノ中心地ナリ

第三、氣候

(一) 概況

氣候ハ概シテ熱帶的ナルモ土地高キ爲海岸地方ニ比スレハ稍ゝ凌キ易シ、殊ニ東部州ノ東部ニ於テ「ケニヤ」ニ近キ「エルゴン」山（海拔一四、一九七呎）附近ノ「ブケヂ」高原、西部州ノ西部「ルエンゾリ」山（海拔一六、七九四呎）附近ノ「トロ」高原、並ニ其ノ南ノ「カバレ」高原ハ概シテ海拔四千呎乃至七千呎ノ地高ヲ有シ、氣候極メテ溫和ナルノミナラス、四季ヲ通シ其ノ變化大ナラス、但シ降雨ハ三月乃至六月ノ間ニ多ク、九月乃至十一月ノ交ニ小雨アリ、今此ノ間ニ於ケル代表的地方ニ付溫度竝ニ雨量ヲ示スヘシ

(二) 重ナル地方ノ氣溫及雨量表

「マサカ」ノ氣溫及雨量表

月	溫度最低平均	溫度最高平均	雨量	雨天ノ日數
一月	六〇・六	八〇・七	四・三七	八
二月	五九・六	八〇・五	四・三四	一〇
三月	六〇・五	八〇・〇	七・二九	一八
四月	五八・五	七八・四	一〇・九八	一九
五月	五七・九	七七・〇	四・九二	一七
六月	五五・一	七七・三	一・〇六	三
七月	五八・〇	七六・〇	四・二四	八
八月	五九・三	七七・三	〇・六五	四
九月	五八・九	七七・五	五・一六	一三
十月	六一・〇	七九・五	五・〇九	九
十一月	六二・三	八〇・八	六・八三	一一

月	温度最低平均	温度最高平均	雨量	雨天ノ日數
十二月	六三・〇	八一・七	〇・七六	五
一ヶ年	五九・五	七八・九	五五・六九	一二五

「エンラベ」ノ氣溫及雨量表

月	温度最低平均	温度最高平均	雨量	雨天ノ日數
一月	六〇・二	八〇・五	五・二〇	一三
二月	六四・一	八〇・四	六・六五	一二
三月	六五・三	八〇・〇	六・八九	二三
四月	六四・三	七八・四	一七・五四	二五
五月	六三・七	七七・七	六・六二	一九
六月	六三・七	七八・二	四・四六	一八
七月	六一・六	七九・八	六・七五	一〇
八月	六二・一	七七・七	三・八六	九
九月	六一・九	七八・四	三・八〇	一二
十月	六三・三	八〇・五	七・二五	一五
十一月	六三・四	八〇・九	四・六四	一四
十二月	六四・〇	八一・〇	一・六二	六
一ヶ年	六三・一	七九・六	七五・二八	一七六

「カムバラ」氣溫及雨量表

月	温度最低平均	温度最高平均	雨量	雨天ノ日數
一月	六二・一	八二・二	一・四五	九
二月	六一・六	八一・八	四・〇四	一四
三月	六五・一	八一・四	六・五六	三〇
四月	六四・二	七九・三	一四・〇九	二七
五月	六四・七	七九・二	四・五九	二三
六月	六四・二	八〇・二	一・二九	一六
七月	六二・六	七八・六	五・八二	二〇
八月	六四・七	八〇・二	三・〇一	二一
九月	六二・七	八一・三	三・〇五	二〇
十月	六二・三	八一・八	五・二五	二四
十一月	六一・五	八一・五	七・四七	一六
十二月	五九・九	八二・六	二・一〇	九
一ヶ年	六二・九	八〇・八	五八・七二	二二九

「ジンジヤ」ノ氣溫及雨量表

月	温度最低平均	温度最高平均	雨量	雨天ノ日數
一月	五三・六	八五・七	一・〇三	八

「フォートポータル」氣溫及雨量表

月	溫度最低平均	溫度最高平均	雨量	雨天ノ日數
二月	五三・四	八六・〇	六・四二	一一
三月	五四・二	八七・九	五・五二	一七
四月	五三・〇	八四・七	一〇・一六	一九
五月	五四・九	八六・九	四・四一	二〇
六月	六一・七	八八・四	一・八七	一〇
七月	六〇・八	八四・三	〇・八八	七
八月	六一・六	八四・九	三・八四	九
九月	—	—	五・一八	一八
十月	—	—	四・五二	一四
十一月	—	—	五・九六	一八
十二月	—	—	一・二〇	二
一ヶ年	五・七〇	八六・一	五〇・九九	一五三
一月	五七・四	七八・八	〇・五七	一四
二月	五八・八	八一・〇	二・四八	七
三月	六〇・〇	八一・一	三・一七	八
四月	六〇・五	七八・七	九・五二	一四
五月	五九・四	七七・一	三・四四	九
六月	五七・五	七六・七	三・一九	七
七月	五五・〇	七五・五	四・五〇	八
八月	五八・五	七六・一	三・七九	一一
九月	五七・七	七六・一	五・九二	一二
十月	五九・〇	七六・二	一四・五九	一七
十一月	五九・二	七五・二	六・二三	一三
十二月	五八・一	七八・一	〇・七〇	三
一ヶ年	五八・四	七七・五	五八・一〇	一三三

第四、衞生

(一) 一般狀況

「ウガンダ」ハ惡性ノ風土病至ル處ニ於テ流行シ、英領東阿ニ於テ最モ健康不良ノ地ト目セラル、現ニ一九二四年及一九二五年ノ統計ニ依レハ、英國人官吏ノ駐在者約四百五十人ニ對シ病者ノ數約八百五十人ニ達シ居リ一人ニ付一年二回患フ割合ニ成リ居レリ、然ルニ白人ハ孰モ高燥ナル地方ニ家屋ヲ構ヘ、生活狀態竝ニ榮養物ノ攝取等ハ申分ナカルヘク、衞生上ノ注意モ相當行キ屆

キ居レル筈ナルニ拘ラス、其ノ成績ノ斯ノ如クナルコトハ主トシテ風土ノ不良ナルニ原因スヘク、土人ノ狀態ニ就テハ之ヲ案スルニ難カラス、蓋シ當地方ハ沼湖河川ニ富ミ濕潤ノ地多ク病毒ノ發生ニ適スルノミナラス、其ノ隣接地ニハ病毒ノ叢原タル白領「コンゴー」、英領「スーダン」ノ如キ暗黑地アリ、加フルニ土人ハ全然衞生ヲ解セス、極メテ不潔ナル生活ニ甘ンスルモノナレハ疾病ノ多キハ當然ナリト云フ外ナシ、右ニ對シ政府ハ鋭意病根ノ撲滅ニ努力シツツアルモ、財政貧弱ナル爲メ容易ニ理想的計畫ヲ實行スルコト能ハス、問題ノ前途極メテ遼遠ナリト云ハサルヘカラス、但シ最近數年間ハ惡性ノ流行病無ク、死亡數著シク低下シ出生增加ノ模樣アリテ稍〻樂觀的現象ヲ示シツツアルモ、惡疫ノ流行ハ多ク周期的ニ來襲スルカ如キニ依リ、根本的ニ衞生狀態ノ改善セサル限リ、今後モ屢々過去ノ歷史ヲ繰リ返ヘスヘク、斷シテ樂觀シ難シト察セラル

(二) 政府ノ施設

政府ノ一九二六年ノ衞生費ハ約十三萬二千磅ニシテ、其ノ半額ハ醫員ノ給料ナリトス

病院ノ數ハ「エンテベ」、「カムバラ」、「ジンジヤ」及「ムベール」ニ各一ケ所、地方ニ病院二ケ所、診療所十二ケ所、外ニ印度人經營ノ病院一其ノ他重要ナル地方ニ敎會經營ノ病院又ハ診療所アリ、以上ハ孰モ皆土人ニ對シ無料施療ス

右ノ外首府「エンテベ」ニハ睡眠病研究所アリ、國際聯盟ヨリ醫員ヲ派遣シ英國醫員ト協力シテ該病撲滅ノ爲メニ盡力シ居レリ

(三) 重ナル疾病

(イ) 「マラリヤ」

「マラリヤ」ハ當領ニ於テ最モ普通ナル流行病ナルカ、領內ニ湖沼河川多ク隨所ニ蚊ノ發生地存在スルニ依リ、大規模ノ設備ヲ爲ササル限リ之ヲ撲滅スルコトハ不可能ナルカ、當領ハ有名ナル睡眠病及「ペスト」ノ巢窟ニシテ、政府ハ其ノ撲滅ニ全力ヲ盡シ居リ、「マラリヤ」其ノ他ノ疾病ニ對シテハ殆ント手ノ廻ラサルカ如キ有樣ナルカ、一九二五年政府ノ病院ニテ取扱ヒタル「マラリヤ」患者ノ數ハ約二萬人ナリト報セラル

(ロ) 睡眠病

「ウガンダ」ハ睡眠病ノ巢窟ニシテ今世紀ノ始メニ於テ大流行アリ、「ヴィクトリア」湖畔ノ「ブガンダ」一州ニ於テ死者二十萬人ヲ出タシ「ウガンダ」全國ニ於テ約三十萬人卽チ人口ノ一割ヲ失ヒ、路傍ノ斃死者計リ知ルヲ得サリシト云フ、以テ當時ノ慘狀ヲ察スルニ足ルヘシ、然カモ其ノ後モ年々多數ノ患者ヲ出シ、政府ニ知ラレタル患者ノ數略〻一九〇五年ニ八千人、一九〇六年ニ

六千五百人、一九〇七年ニ四千二百人、一九〇八年ニ三千七百人ニ達シ、爾來年々減少シ最近ハ數百人トナリタルモ、奥地ノ死者ニ就テハ報告セラレサル者少カラストノコトナレハ、其ノ實數ハ右ヨリモ遙ニ大ナルモノナルヘシト云フ、蓋シ當領内ニハ多數ノ沼湖河川アリ其ノ附近ノ地ハ多ク濕潤ナルニ依リ、「チエー・チエー」蠅ノ發生ニ好適ナルノミナラス、白領「コンゴー」トノ間ニ在ル「エドワード」湖並ニ「ジージ」湖附近ノ地ノ如キハ孰モ本病ノ巣窟ナレハ、是等ノ地方ノ病源カ一掃セラレ、清淨地トナルニアラサレハ到底其ノ萬全ヲ保シ難ク前途遼遠ノ感ナキ能ハス

(ハ) 黴　毒

當領ニ於テハ黴毒ノ蔓延最モ甚タシク、一九二五年各地病院及診療所ニ於テ取扱ヒタル病者九萬二千人ノ内三萬七千人ハ黴毒保存者ナリシト云フ、以テ其ノ一般ヲ察スルニ足ルヘシ

(ニ) 「ヨ　ー　ス」

本病ハ土人ノ間ニ於テ盛ニ流行スル皮膚病ニシテ、一九二五年各病院及診療所ニテ取扱ヒタル患者九萬二千人中約六千人ハ本病保有者ナリト云フ、右ニ對シ政府ハ極力撲滅ニ努メ、「サルバルサン」ノ注射ヲ施シツツアルモ、土人ハ無智ニシテ之ヲ嫌惡シ第一回注射後施療ヲ受ケル者尠キ爲メ奏功著シカラスト云フ

(ホ) 回　歸　熱

本病モ亦可ナリ廣ク流行ス、然レトモ死亡率ハ餘リ高カラサルカ如シ

(ヘ) 天　然　痘

嘗テ盛ニ流行シ一九一九年以前ハ年々一千人以上ノ死者ヲ出シタルモ、政府ニ於テ種痘强制ノ結果近年ハ著シク減退セリ

(ト) 「ペ　ス　ト」

本病ハ當領ニ於テ睡眠病ト共ニ最モ慘害ヲ與フルモノニシテ、患者ノ數ハ明カナラサルモ一九二一年ノ約六千人ヲ最高トシ、毎年三千乃至四千人ノ死者ヲ出シ居リ、最近數年間ハ約一千人ニ減シ稍〻小康ヲ呈スルモ、流行病ハ普通數年ヲ一期トシ消長スル如キニ依リ、未タ容易ニ樂觀スルヲ許サス、但シ從來流行ノ最モ激シキ地方ハ「バガンダ」王國ノ「メンゴー」及「ブダマ」兩地方、並ニ東部州ノ「ブソガ」地方ナルモ、本病ハ廣ク内地一般ニ流行スルカ如シ、右ニ對シ政府ハ極力豫防注射ヲ施シ居リ、一九二五年中注射數約六萬七千人ニ達シタリト云フ、然レトモ當領ハ湖沼河州多ク病毒ノ發生ニ好適スルノミナラス、奥地ハ白領「コンゴー」及英領「スーダン」

ノ暗黒地ニ接スルニ依リ病源ノ絶滅ハ極メテ困難ノ事業ト認メラル

(チ) 呼吸器病

朝夕氣溫ノ高低甚タシキハ熱帶地ノ特徴ニシテ、「ウガンダ」モ亦其ノ例ニ漏レス、其ノ結果トシテ呼吸器病非常ニ多ク一九二五年ニ於テハ氣管支炎患者三萬七千餘人ノ多キニ達シタリトノコトナルカ、右ノ患者ハ雨季ニ於テ最モ甚タシト云フ

第五、人口及人種

一九二六年ノ「ウガンダ」政府發行ノ靑書ニ依レハ人種別人口ハ左ノ如シ

人種/州別	「ブガンダ」州	東部州	西部州	北部州	合計
土人	七八九、二二五	一、三二〇、七九九	五八〇、〇一五	四三三、五四二	三、一二三、五八一
歐人	一、〇九六	六、〇一〇	四一七	一一九	一、七五二
亞細亞人	四、九二一	一、三二七、二二六	二六八	一二〇	一一、六一三
合計	七九五、二四二	五八〇、四〇二	四三四、〇七六	四一一	三、一三六、九四六
一平方哩ノ平均人口	三五・六	三七・七	四二・二		三三・三

(一) 土人

土人ハ「バンツー」及「ニロチック」ノ二種族ニ大別セラル

(イ) 「バンツー」

「バンツー」ハ阿弗利加ニ於ケル土人ノ大種族ニシテ、多數ノ小種族ニ分カレ、當國ニ於ケル重ナル人種卽チ「バカンダ」、「バンヨロ」、「バトロ」、「バイロー」等ノ土人ハ皆此ノ種族ニ屬シ、多クハ「ブガンダ」州西部州及東部前ノ一部ニ住ス、其ノ內「バガンダ」族ハ「ブガンダ」王國ヲ形成セル最モ進歩セル種族ニシテ阿弗利加土人中ニ於テ最モ優且怜悧ナリ、英國人ハ此ノ種族ノ土人ヲ名ケテ阿弗利加ニ於ケル日本人ト云ヘリ、蓋シ進歩主義ノ阿弗利加人ト云フ意ナリ、彼等ハ近年英國人ノ指導ニ依リ盛ニ棉花ヲ栽培ス從ッテ收入ノ豐富ナルニ從ヒ、其ノ生活モ亦次第ニ向上シ、酋長其ノ他有力ナル土人ノ衣食住ノ如キハ沿岸ノ「スワヒリ」ニ比スルモ遙ニ勝ル所アリ

茲ニ此ノ人種ニ就テ特筆スヘキ事ハ彼等ガ好ンテ下級ノ店員又ハ吏員ノ職ニ從事スル事ニシテ、英國人ハ斯ル方面ニ土人ヲ使用スル方針ヲ取リ、有爲ノ靑年ニ對シ必要ノ敎育ヲ與ヘ居レリ、余カ視察シタル政府ノ印刷局及各種ノ製作場等ニ於テハ英國人ノ監督者ノ外ハ總テ土人ノ技手ヲ使用シ、又諸官廳ニ於テモ「タイプライター」扣キ、文書ノ整理、受付役等ノ如キ吏員ハ總テ土人ヲ使用シ居リ、監督者ノ談ニ依レハ其ノ成績極メテ良好ナリトノ事ナリ

此ノ種族ノ者ハ「バナナ」ヲ常食トナス

(ロ)「ニロチック」

「ニロチック」ハ東部州「キオガ」湖以北就中「ナイル」溪北地方ニ住スル種族ニシテ、「アチョワ」、「マヂ」、「バリ」等ノ諸族之ニ屬シ「ケニヤ」國殖民地ノ「マサイ」族ト系統ヲ同フス、此ノ種族ノ者ハ文化ノ程度ハ「ブガンダ」人ニ比シ遙ニ劣ルモ農事ニハ極メテ勤勉ナリ、「クマン」及「テソ」等ノ諸族ニ分カレ文化ノ程度最モ幼稚ナリ

此ノ種族ノ者ハ黍ヲ常食トナス

(二) 歐洲人

「ウガンダ」ニ於ケル歐洲人ノ草分ハ總テ宗教家ニシテ一八七四年探險家「スタンレー」ガ「ブガンダ」王國ニ滯在中本國ノ宗教家ニ與ヘタル檄文ノ刺撃ニ依リ翌年六名ヲ一隊トスル英國教會派ノ牧師及宗教熱心家ノ渡來シタルヲ始メトシ、爾來其ノ他ノ新教竝ニ舊教ノ牧師等續イテ侵入シ、彼等ノ決死的活動ニ依リ漸次白人ノ勢力ヲ扶殖スルニ至リタルモノニシテ、今日ノ英國ノ勢力ハ云フ迄モナク英國ノ政權ノ力ニ據ルモノナリト雖モ、其ノ潛勢力ハ實ニ是等ノ宗教家ノ力ニ依ルモノナリト云ハサルヘカラス

目下在留ノ歐洲人ハ主トシテ英國人ニシテ其ノ多クハ官吏、商社ノ店員及傳道事業ニ從事スル者ナリトス、但シ農業ニ從事スル者ナキニアラサルモ其ノ數極メテ尠シ

(三) 印度人其他

他ノ在住者ハ殆ト總テ印度人ニシテ、彼等ハ深ク土人ノ間ニ喰ヒ入リ上ハ堂々タル貿易商ヨリ下ハ瑣々タル一文賣ノ小賣業ニ至ル迄、苟モ土人相手ノ商業ハ殆ト之ヲ獨占スル事「ケニヤ」ニ於ケルト異ナル所ナシ、但シ「ウガンダ」ニ於テハ土人ニ怜悧ナルモノ多キニ依リ、下級員ノ店員又ハ吏員ニハ印度人ヲ使用セス、努メテ土人ヲ採用セリ

日本人居住者トシテハ東京市人山邊義昭氏「カムバラ」市郊外ニ於テ煙草其ノ他ノ栽培ニ從事スルト、及毎年十一月ヨリ翌年四月迄棉花收獲及買入ノ時期ニ日本棉花會社、江商會社、東洋棉花會社員等臨時出張スルアルノミニテ、右以外ニハ日本人中當方面ニ入リ込ム者殆トナシト云フ

第六、主要都市

(イ)「エンテベ」

「エンテベ」ハ「ウガンダ」政府ノ首府ニシテ總督府ノ在ル所ナリ、地高三、八六三呎「ヴィクトリア」湖ノ北岸ニ在リテ風光明眉、「ブガンダ」ノ首都「カムバラ」迄自動車道二十四哩、風光恰

モ畫ノ如キ觀ヲ爲ス、但シ當地ニハ一軒ノ商店モ又旅館モナク、當國ノ商業トハ沒交渉ナリ

(ロ)「カムバラ」

「カムバラ」ハ「ブガンダ」王國ノ首府ニシテ海拔三、九〇五呎ノ處ニ在リ、但シ全市ハ分立スル五個ノ丘陵ト之ヲ點綴スル窪地トヨリ成リ、其ノ第一丘ヲ「カムバラ」、第二丘ヲ「メンゴー」、第三丘ヲ「ナクシラ」、第四丘ヲ「ナミレムベ」、第五丘ヲ「ルバガ」ト云フ但シ「カムバラ」丘ニハ英國地方廳及英國人商社、「メンゴー」丘ニハ「ブガンダ」王宮、「ナクシラ」丘ニハ兵營「ナミレムベ」丘ニハ英吉利敎會、「ルバガ」丘ニハ佛蘭西敎會アリテ孰モ形勝ノ位置ヲ占メ、互ニ雄ヲ競フカ如キ觀ヲ爲ス而シテ全市ニハ特別ノ名稱モナク從來第一丘ノ名ヲ取リテ「カムバラ」ト云ヒ、或ハ第二丘ノ名ニ依リテ「メンゴー」ト呼ヒタルモ、「カムバラ」丘カ英國地方廳ノ所在地ナルニ依リ今ハ專ラ「カムバラ」ノ名ヲ用ユルニ至レリ

當地ハ當國商業ノ中心地ニシテ、輸入綿布及雜貨ノ集散地タルト同時ニ輸出棉花ノ中心市場ナリ、東洋棉花會社ハ當地ニ地所家屋ヲ所有シ出張所ヲ置ク、但シ社員ハ常住セス棉花買入季節ニ孟買ヨリ出張スルノミ又郊外ニハ東京府人山邊義昭氏在留農業ニ從事ス

(ハ)「ボートベル」

「ボートベル」ハ「ヴィクトリア」湖上汽船ノ寄港地ニシテ「カムバラ」ノ東南六哩ノ處ニ在リ、當市ト「カムバラ」トノ間ニ鐵道アリ、當國交通ノ要路ニ當ル

(ニ)「ジンジヤ」

「ジンジヤ」ハ「ヴィクトリア」湖ノ北岸ニ在リテ湖上汽船ノ寄港地ナリ、「カムバラ」ヨリ約五十哩ヲ距リ自動車ニテ約二時間ヲ要ス、惟フニ當地ハ「ブソガ」鐵道ノ終點トシテ極メテ重要ナル地位ヲ占メ、「カムバラ」ニ次クヘキ繁華ノ地ナル所、一九二八年一月「ウガンダ」鐵道ノ支線「ウァシンギシウ」線落成ノ結果「ブソガ」鐵道ノ中間驛「ムブルムチ」ニ於テ之ト連絡シ「モムバサ」迄鐵道ニ依リテ直通スル事トナリタレハ、今後ハ當國輸出入貨物集散ノ中心トナルヘク、其ノ將來ノ發達ハ之ヲ想像スルニ難カラス

(ホ)「ナマサガリ」

「ナマサガリ」ハ「キヲガ」湖ノ南岸ニ在リテ海拔三四一七呎ノ地高ヲ有シ、同湖上汽船ノ發着地トシテ又「ブソガ」鐵道ノ終驛地トシテ極メテ重要ナル位置ヲ占ム、但シ從來ハ「モムバサ」トノ交通ハ「ジンジヤ」經由「ヴィクトリア」湖上汽船ニ依リテ「キスム」ニ迂回スルノ外ナカリシモ、「ウァシンギシウ」鐵道落成ノ結果同鐵道ニ依リ「ウガンダ」鐵道本線ニ連絡シ、「モムバサ」

ニ直通スル事ヲ得ルニ至レリ、將來ノ繁盛察スルニ難カラス

第七、政　治

(一)　一般狀況

「ウガンダ」保護國ハ「ブガンダ」、「トロ」、「ウンヨロ」、「アンコレ」ノ諸王國ヨリ成立シ、英國政府ノ保護ノ下ニ統治セラルルモノニシテ、一八九〇年英獨協約ノ結果、此ノ地方カ英國ノ勢力範圍ニ屬スル事ト成ルヤ英國ハ直ニ英帝國東阿商會ヲシテ其ノ經營ニ當ラシメタリ、然ルニ佛國ハ豫テヨリ「ウガンダ」ニ於テ英國ト覇ヲ爭ヒ、英國ガ新教ノ力ニ依リ其ノ勢力ヲ扶殖セントスルニ對シ佛國ハ舊教ヲ宣傳シ之ニ依リテ英國ヲ排斥セントシ其ノ形勢甚ダ容易ナラザルモノアリ、依ツテ英國ハ一八九二年新教保護ヲ名トシ「ルガード」大尉（後ノ「サー・フレデリック」）ヲシテ會社ノ兵力ヲ使用シテ土人ヲ煽動セシメ、口實ヲ設ケテ佛國宣教師ヲ逐ヒ不順ノ土人ヲ鏖殺シ之ニ依リテ英國ノ權力ヲ確立シ、翌年之ヲ會社ヨリ英國政府ノ手ニ移シテ英國ノ保護國トナシ、一九〇〇年ニ至リ改メテ「ブガンダ」、「トロ」、「アンコレ」王國ト條約ヲ締結シ保護ノ事實ヲ明ニセリ但シ「ブンヨロ」王國トノ間ニハ條約無キモ右三王國トノ條約ニ準シテ之ヲ支配セリ

英國政府ハ右條約ノ結果「ウガンダ」ニ總督ヲ派遣シ「ブガンダ」國「エンテベ」ニ駐在シ保

護政治ノ任ニ當ラシム、但シ總督ノ下ニ行政會議及立法會議ヲ置キ之ヲ其ノ補佐機關トナス

行政會議ハ總務、法務、財務、醫務、農務、教育ノ各部長ヲ以テ組織シ、立法會議ハ右六部長及總督指名ノ非官吏三名（現在ハ歐洲人二名、印度人一名トス）ニ依リテ組織セラルルモノニシテ、其ノ目的ハ總督ノ專斷ヲ避クルニアルモ、右ハ單ニ總督ノ補佐機關タルニ止リ、何等總督ノ行爲ヲ束縛スヘキ權限ヲ有スルモノニ非ス、但シ總督ノ政治ハ一般的施政ニ關シ之ヲ行フモノニシテ、土人ノ生活ニ關スル日常ノ事項又ハ彼等自身ノ內部ノ事項ニ就テハ成ルヘク從來ノ組織ヲ重ンジ之ヲ土人ノ自治ニ任セリ

(二)　諸王國ノ政治組織

各王國ハ一九〇〇年ノ條約ノ規定ニ依リ英國ノ保護ノ下ニ議會其ノ他ノ機關ヲ通シ英國政府ノ承認スル方法ニ於テ其ノ管轄內ノ土人ヲ直接ニ支配スル事ヲ許サル

各王國中最モ政治組織ノ整備セルモノハ「ブガンダ」國ニシテ其ノ王ヲ「カバカ」ト稱シ其ノ下ニ總理、司法長官、財務長官ヲ置キ以テ一般行政ノ任ニ當ラシメ、又別ニ「ルキコ」ト稱スル議會ヲ設ケ右ノ各官、各郡長及王ノ任命セル者ヲ議員トシ、總理ヲ議長トシ司法長官ヲ副議長トス、但シ決議ハ王ノ裁可並ニ英國總督ノ承認ヲ經ルニアラサレハ效力ヲ有セス

國內ヲ分ツテ二十郡ニ分チ各郡ニ土人ノ郡長ヲ置ク、但シ郡長ハ英國總督ノ承認ヲ經テ「ウガンダ」王之ヲ任命ス

郡長ハ土人ニ對シ裁判權、課稅權ヲ有シ、道路ノ維持及土人ノ事件處理ノ任ニ當ル

他ノ諸王國ノ政治組織ハ大體ニ於テ之ニ類スルニ依リ略ス、但シ「トロ」國王ハ「ムカマ」、「アンコレ」國王ハ「ムカベ」、「ウンヨロ」國王ハ「カバレカ」ト呼ヒ、何レモ議會ノ制度ヲ有シ之ヲ「ルキコ」ト稱ス

土人王國ニ於ケル政治ノ組織ハ大體右ノ通リナルモ、歐洲戰爭ノ際多數ノ青年等英國政府ノ徵發ニ遇ヒ渡歐ノ結果、彼地ノ文物ニ觸レ民族自決其ノ他當時流行ノ民主的票語ニ感染シ、英國ノ政治ニ反感ヲ抱ク者ヲ生シ、且ツ彼等ハ土人議會ノ組織カ全然貴族的ニシテ議員カ王ノ任命ニ依ルモノナル事ヲ難シ、之ヲ民衆的ニ改メ選擧制度ヲ採用セン事ヲ主張シツツアルモ英國政府ハ之ニ耳ヲ藉サスト云フ

(三) 一九〇〇年ノ「ウガンダ」條約

茲ニ云フ一九〇〇年ノ「ウガンダ」條約トハ一九〇〇年英國政府ト「ウガンダ」ニ於テ最モ有力ナル「ブガンダ」王國トノ間ニ締結セラレタル政治規約ニシテ、同王國ニ對スル英國ノ保護政治ノ基礎トナルモノナルノミナラス、同時ニ同王國ノ憲法トモ見做スヘキ極メテ重要ナルモノナルニ依リ其ノ要領ヲ左ニ譯出スヘシ、但シ本文中「ウガンダ」トアルハ「ブガンダ」王國ノ意ナリ

一、英國政府カ「ウガンダ」ノ一般政治ノ爲ニ制定スル法律ハ本條約ニ違反セサル限リ有效ナリトス

一、「ウガンダ」國「カバカ」(王ノ意ナリ)、酋長及人民ハ英國政府ノ制定スル法律及規則ニ從ヒ且ツ忠實ニ其ノ施行ニ協力スヘク、英國政府ハ其ノ保護ノ下ニ於ケル「ウガンダ」土人ノ支配者ヲ「ウガンダ」ノ王ト認ムヘシ

一、何人カ「ウガンダ」王トナルモ英國皇女ノ承認ヲ經ルヲ要ス、又土人會議ニ依リテ選定セラルル者ハ英國政府ノ承認ヲ要ス

一、「カバカ」ハ議會又ハ其ノ他ノ機關ヲ通シ英國政府ノ承認スル方法ニ依リ「ウガンダ」ノ土人ヲ直接ニ支配スルコトヲ得ヘシ

一、土人法廷ハ「ウガンダ」土人以外ノ者ニ對シ管轄權ヲ有セズ

一、土人ノ法廷ハ土人ノ重罪犯ニ對シ審理權ヲ有スルモ死刑ノ宣告ハ英國代表者ノ承認ヲ得ル、

コトヲ要ス

一、土人ハ五ケ年以上ノ禁錮又ハ百磅以上ノ罰金ノ宣告ニ對シ「ウガンダ」王國內ニ於ケル英國法廷ニ上告スルコトヲ得ヘシ、又英國政府ニ於テ土人法廷ノ宣告カ人道ニ違背スト認ムル時ハ同政府ハ「カバカ」ニ對シテ其ノ再審ヲ忠告スヘク、「カバカ」ハ該宣告ヲ改ムルヲ要ス

一、「カバカ」ハ儀式ノ際九發ノ禮砲ヲ受クル權利ヲ有ス

一、土人ト非土人トノ係爭事件ハ民事タルト刑事タルトヲ問ハス英國法廷ノ管轄ニ屬ス

一、「ウガンダ」王國ヲ二十一ノ行政區又ハ郡ニ分チ、各郡ニ郡長ヲ置ク、但シ郡長ハ英國代表者ノ同意ヲ經テ「カバカ」之ヲ任命ス

一、各郡長ハ英國政府及「カバカ」ノ委任ニ依リ同郡內ニ居住スル土人ニ對シ裁判權、課稅權ヲ有シ、主要道路ヲ維持シ竝ニ土人ノ事件ヲ處理スル職務ヲ有ス

一、「カバカ」ハ英國代表者ノ承認ヲ得テ總理、司法長官、財務長官ノ三人ノ土人ノ補佐官ヲ任命スル事ヲ得ヘシ、右三人ノ官吏ハ「カバカ」ガ未成年ノ時ハ攝政ヲ構成スルモノトス

一、王國ノ議會ハ總理、司法長官、財務長官、各郡長及各郡ニ王ノ任命スル議員三名、竝ニ全

國ヨリ王ノ任命スル議員三名ヲ以テ組織ス、各郡長ハ差支ノ場合ニ代理人ヲシテ代表セシムルコトヲ得、但シ總理ヲ議會ノ議長、司法長官ヲ副議長トシ、兩人不在ノ場合ニハ財務長官ヲ議長トス

一、議會ハ「ウガンダ」國內ニ於ケル土人ノ行政ニ關スル一切ノ事件ヲ決議スル權ヲ有ス、但シ其ノ決議ハ「カバカ」ノ裁可ヲ要シ、「カバカ」ノ裁可ニハ英國代表者ノ承認ヲ要ス

一、各郡ニ土人ノ第一審裁判所ヲ置キ郡長ヲ以テ裁判官トス

一、王國ノ議會ハ控訴裁判權ヲ有シ、五磅以上ノ民事、又ハ一週間以上ノ禁錮ニ該當スル刑事ノ上告ヲ受理ス、然レトモ百磅以上ノ民事又ハ五ケ年以上ノ禁錮ニ該當スル事件ニ就テハ「カバカ」ノ親裁ヲ仰キ、其ノ裁決ハ英國代表者ノ承認ヲ受クル事ヲ要ス

一、郡長ハ道路維持ノ爲三家ニ一人ノ割合ニテ土人ヲ徵發スル事ヲ得、但シ其ノ日數ハ一ケ年ニ付一ケ月ヲ超ユル事ヲ得ス、又歐洲人ハ其ノ經營地カ沿道ニ在ル場合ニハ勞働ノ代リニ相當ノ寄附金ヲ納付スルヲ得ス

（他ノ諸王國トノ條約モ亦是ト大同小異ナリトス）

第八、財政

一九二六年ニ於ケル歳出及歳入決算ハ左ノ如シ（單位磅）

歳入	
關稅（「ケニヤ」、「ウガンダ」關稅總收入ノ三分ノ一分配セラル）	四〇九、〇〇〇
諸稅、免許及手數料	八二七、〇〇〇
郵便及電信料	四三、〇〇〇
其他	二一四、〇〇〇
合計	一、四九三、〇〇〇

歳出	
行政部費	一三〇、〇〇〇
土人費	七四、〇〇〇
警察費	六七、〇〇〇
衛生費	一三一、〇〇〇
教育費	四三、〇〇〇
運輸費	四四、〇〇〇
軍事費	六八、〇〇〇
郵便電信費	四七、〇〇〇
農業牧畜費	六〇、〇〇〇
土木費	一二四、〇〇〇
同臨時費	一九四、〇〇〇
其他	三一四、〇〇〇
合計	一、二九六、〇〇〇

第九、司法

司法ハ土人裁判ト非土人裁判トノ二ツニ分カタル

(一) 土人裁判

土人ノ裁判ハ土人裁判所ノ管轄ニ屬シ、同裁判所ハ之ヲ第一審裁判ト第二審裁判トニ分チ、第一審裁判所ハ之ヲ各郡ニ置キ其ノ裁判官ヲ郡長トシ當該地管轄ノ英國地方官ノ監督ヲ受ク、又第二審裁判ハ王國議會ノ管轄ニ屬スルモノトシ、「ブガンダ」王國ニ於テハ其ノ管轄權ヲ左ノ通リトス

一、第一審裁判所トシテノ郡裁判所ノ管轄權ハ左ノ如シ

五百志以下ノ民事

一ケ年以下ノ禁錮百五十志以下ノ罰金ニ該當スル刑事

一、第二審裁判所トシテノ議會ノ權限ハ左ノ如シ

郡裁判所ノ權限ニ屬セサル一切ノ件

百志以上ノ民事、一週間以上ノ禁錮ノ刑ニ該當スル郡裁判所ノ判決ニ對スル控訴

百磅以上ノ民事又ハ五ケ年以上ノ禁錮ニ該當スル刑事ニ就テハ國王ノ親裁ヲ仰クヲ要ス、但シ王ノ親裁ニハ英國總督ノ承認ヲ要ス

裁判ハ總テ土人ノ法律及習慣ニ從フモ英國ノ法律ニ違反スル事件ニ關シテハ該英國ノ法律ニ依ル

一、左ノ事件ハ一九〇五年ノ條約ニ依リ「ウガンダ」高等法院ニ上告スル事ヲ得

死刑、五ケ年以上ノ禁錮、百磅以上ノ罰金ノ宣告

百磅以上ノ民事

然レトモ上告事件ニ就テハ原判決ハ孰モ英國地方官ノ監督ヲ經タルモノナルニ依リ上告者ノ勝利ト成ル事ハ尠シト云フ

(二) 非土人裁判

非土人間及土人間ノ事件ニ對スル裁判ハ非土人裁判所ノ管轄ニ屬シ、同裁判所ハ高等法院、州裁判所、及地方裁判所ヨリ成ル

但シ裁判ハ民事ニ對シテハ當事者カ土人ノ場合ニハ正義及道德上差支ナキ限リ土人ノ法律及習慣ニ從フモ、列事ニ關シテハ印度刑法竝ニ「ウガンダ」政府制定ノ刑事訴訟法ノ規定ニ依ル

各裁判所ノ構成竝ニ權限ハ左ノ通リ

一、地方裁判所ハ地方長官及助役ニ依リテ構成セラル

但シ「カムバラ」、「ジンジャ」、「ムバレ」ニ於テハ特設ノ裁判官ヲ以テ之ニ充ツ

本裁判所ハ非土人ニ對シテハ二ケ年ノ禁錮、二千志以內ノ罰金ニ該當スル犯罪、土人ニ對シテハ全刑ニ對シ管轄權ヲ有ス

從來笞刑ヲ許シタルモ一九二五年ヨリ廢止セラル

本裁判所ハ土人裁判所ニ對シ監督權ヲ有シ其ノ裁判ヲ再審スル權ヲ有ス、又同裁判ニ對スル控訴ニ付管轄權ヲ有ス

一、州裁判所判事ハ州長官及助役、高等法院ハ特設ノ裁判官ヲ以テ之ニ充テ、各裁判所ハ孰モ

一下級裁判所ニ對シ控訴管轄權ヲ有ス

第一〇、教　育

(一)土人教育

東阿弗利加ニ於テ土人ニ對スル教育ノ最モ普及シ且ツ進歩セル處ハ「ウガンダ」ナリトス、然レトモ其ノ事業ハ殆ト總テ宗教家ノ手ニ依リテ行ハルルモノニシテ、政府ハ原則トシテ是等宗教家ノ活動ニ信賴シ之ニ若干ノ補助金ヲ支出シ居レリ、蓋シ最初此ノ國ニ入リ込ミ歐洲人ノ勢力ヲ扶植シタルモノハ英國及佛國ノ宗教家ニシテ、爾來彼等ハ土人ノ教育ニ對シテ甚大ナル力ヲ用ヒ以テ今日ニ至リタルモノニシテ、教育ハ恰モ宗教家ノ任務ナルカ如キ觀ヲ呈セリ、去レハ政府モ亦之ヲ以テ便宜ナリトシ是ト協力シ以テ土人啓發ノ目的ヲ達セン事ヲ期セリ、聞ク所ニ依レハ最近英國皇帝ヨリ是等宗教家中功勞ノ最モ顯著ナル數名ニ對シ敍勳ノ御沙汰アリタリト云フ、以テ宗教家活動ノ狀ヲ察スルニ足ルヘシ

今土人教育ノ現狀ヲ察スルニ足ルヘキ數個ノ統計表ヲ左ニ掲クヘシ

政府ノ教育費（單位磅）

年	教育費	政府ノ歲出	教育費ト歲出ノ割合
一九二二年	八、二三一	八二〇、三六五	一・〇
一九二三年	一二、九三七	九九九、七五〇	一・三
一九二四年	一七、五二一	一、二三九、七八九	一・四
一九二五年	二四、五九五	一、四七九、二八四	一・七
一九二六年	四二、六六七	一、三八九、六四一	三・七

就學兒童數

州名	就學年齡兒童數	就學兒童數	通學大人數	就學百分率
「アガンダ」州	一五五、六六九	五五、〇二三	九、四八六	三五・三
東部州	二四六、八二七	八〇、二四六	一七、三九一	三二・五
西部州	一一二、三一七	二九、三三〇	五、一七〇	二六・一
北部州	八二、七〇七	二二、七八四	一一、二七二	二七・五
合計	五九七、五二〇	一八七、三八三	四三、三一九	三一・〇

小學校及其生徒數

經營者	校數	生徒 大人 男子	生徒 大人 女子	生徒 大人 合計	教師 歐洲人	教師 土人
新教派	二、一九三	三一、九五二	六二、六四六	三六、三四九	一三〇、九四七	一三	三〇一五

書教派	二、〇四七	九、四四四	四五、六三一	三三、五六七	一八八、六四二	九五	二、七八九
宗教派	一五一	一、七二二	一、六五九	九三四	四、三一五	—	二六六
合計	四、三九一	四三、一一九	一〇九、九三六	七〇、八五〇	二二三、九〇四	一〇八	六、〇七〇

中等學校及師範學校、教員及生徒數

所在地	校數	中等學校生徒	師範學校生徒	生徒合計
「ブガンダ」州	九	四、四三七	一六三	四、六〇〇
東部州	八	一、六一二	五二	一、六六四
西部州	七	五四〇	—	五四〇
北部州	四	六一三	—	六一三
合計	二八	七、二〇二	二一五	七、四一七

專門學校ハ官立一、私立七、合計八校アリテ大工、煉瓦工、鐵工、鍛冶、「ブリキ」職、靴工、印刷、裁縫、電信、醫師、測量等ノ手工教育ヲ與ヘ又ハ教師ヲ養成スルモノニシテ、生徒ノ數官立學校ニハ七五人、私立學校ニハ二四六人アリ、右ノ內官立學校ハ「マケレレ」專門學校ト稱シ其ノ內容極メテ完備セリ、但シ一ケ年ノ學費下宿生二七〇志及三〇〇志、通學生六〇志ニシテ自費ト官費トアリ、其ノ生徒數ノ割合ハ左ノ如シ

	自費	一部官費	全部官費	合計
	四五	五〇	二	九七

「ブカンダ」土人中ニハ右ノ如キ職業專門ノ教育ニ滿足セス、一般的高等教育ノ必要ナル事ヲ主張スル者アルモ、政府ハ之ヲ以テ時期尙早ナリトセリ

(二) 歐洲人教育

歐洲人ノ兒童ノ教育ニ就テハ政府ニ於テ未タ何等ノ設備ヲ爲サス、從テ歐洲人ハ其ノ兒童カ學齡ニ達スル時ハ之ヲ「ケニヤ」ニ於ケル歐洲人學校ノ寄宿舍ニ委託シ通學セシメ居レリ

(三) 印度人教育

印度人ニ對シテハ目下官立學校一、私立學校六、合計七校アリ生徒ノ數左ノ如シ

所在地	官立	私立	生徒
「ブガンダ」	一	三	二五七
東部州	—	三	一四〇
合計	一	六	三九七

但シ私立學校ニ對シテハ政府ヨリ補助金ヲ交附ス

第一一、土地制度

「ウガンダ」ニテハ土地ニ關スル權利ハ一九〇〇年ノ「ウガンダ」條約、一九〇三年ノ皇領條例竝ニ其ノ施行規則及一九〇八年、一九〇九年ノ「ブガンダ」土地法ニ依リテ支配セラルルモノニシテ、右ニ依レハ土人ノ外ハ何人モ土地ノ所有ヲ許サレサルモ、皇領地又ハ土人ノ土地ヲ九十九ケ年間賃借スル事ヲ得ヘシ、但シ皇領地ニ關シテハ借地ハ一千英加ヲ限リトシ三ケ年以内ニ其ノ十分ノ一ヲ開墾シ、又一ハ英加ニ付十志ノ投資能力アリト認メラルルニアラサレハ許可セラレス、而シテ右ノ借地權ノ獲得ハ一英加ニ付普通七志八片乃至八志ニシテ、毎年ノ借地料ハ一志トス、尤モ右ノ借地料ハ十分ノ一、開墾ヲ終ル迄ハ賣價ノ百分ノ五トス

又借地人ハ該土地内ニ居住スル事ヲ要セサルモ、購入後十二ケ月以内ニ之ヲ占有シ且ツ法律ノ規定ニ從ヒ之ヲ開墾スルヲ要ス、若シ之ニ違フ時ハ該借地權ハ沒收セラルヘシ

地中ノ金屬、寶石、鑛油、公用ノ爲メニ要スル建築用石、水、木材及通交權ハ皇領ニ屬ス、但シ材木ハ農園ノ境界其ノ他ノ使用ノ爲メニ之ヲ伐切スル事ヲ得、又借地内ニ土人カ居住スル時ハ該土人カ立退カサル間ハ同借地權ハ成立セス

目下歐洲人ノ利用可能ノ土地ハ「ブガンダ」ニ一、六四五平方哩、東部州ニ六五〇平方哩、北部州ニ二五〇平方哩、西部州ニ二〇〇平方哩アリト見積ラル

土人ノ所有地ヲ非土人ニ讓渡サントスル場合ニハ總督ノ許可書ヲ求メシメ一旦之ヲ皇領地ニ編入シ政府ヨリ之ヲ該土人ニ移讓スルモノトス、但シ政府ノ政策ハ或土地ノ不充分ナル地方ニ屬シテハ絶對否許可主義ヲ維持シ其ノ他ノ地方ニ對シテモ土地ノ五分ノ一ヲ非土人ニ讓渡スルコトハ斷然許可セサル方針ナリト云フ

第一二、農業

(一) 一般狀況

「ウガンダ」ハ地味肥沃ニシテ水利ノ便極メテ多キ爲メ農業ハ古來能ク發達セリ、然レトモ近年ニ於ケル「ウガンダ」ノ農業ノ特色トスル所ハ棉ノ栽培ノ盛ナル事ニシテ、輸出品ノ約九割半ハ棉花及棉實ナリトス、蓋シ棉花ノ栽培ハ一九〇九年以來ノ事ニシテ、「ウガンダ」ニ取リテハ全然新事業ナリトス

今重ナル農產物ノ種類及其ノ耕作面積ヲ示セハ左ノ如シ（單位千英加）

品名／州別	「ブガンダ」州	東部州	北部州	西部州	合計
棉花	一七三	三八四	三二	一・六	五九〇・六
珈琲	一〇	二	三	四	一九
「ゴム」	一一	—	—	—	一一
薩摩芋	二〇九	七九	四七	七〇	四〇五
「バナナ」	六六一	一〇九	五	一〇二	八七七
黍	二一	四〇三	一八九	一三八	七五一
甘藷	一〇	〇・五	—	〇・五	一一
玉蜀黍	一四	六	一	一八	三九
豆	二四	三六	三〇	五二	一四二
落花生	一〇	三二	六	二	五〇

即チ耕作面積ヨリ云フ時ハ「ウガンダ」ニ於テ最モ重要ナル農業ハ「バナナ」、黍、棉花及薩摩芋ノ栽培ニシテ右ノ内棉花以外ノモノハ全然土地ノ食糧ニ供セラレ棉花ハ政府ノ命令ニ依リ所謂經濟物資トシテ生産セラレ海外ニ輸出セラル

(二) 棉花

棉花ハ當國ニ於ケル生産品ノ大宗ニシテ貿易ノ均衡ハ主トシテ本品ノ輸出ニ依リテ支ヘラル、從ッテ其ノ豐凶如何ハ直ニ土人ノ購買力ニ影響ヲ及ホスモノニシテ輸入業者ノ最モ注意ヲ要スル所ナルノミナラス、本邦ハ本品ノ輸入國トシテ極メテ重要ナル關係ヲ有ス、以下其ノ生産、買付、輸出手續等ニ付略述スヘシ

(イ) 概況

當國ニ於ケル棉花ノ栽培ハ一九〇九年米國ヨリ「アップランド」種ヲ移植シタルニ始リタルモノニシテ、或地方ハ土地餘リニ高キ爲メ熱度充分ナラス、又或地方ハ雨量充分ナラサル爲メ干燥ニ過キ好良ノ成績ヲ擧クル事能ハサルモ、大抵ノ處ハ孰モ良ク棉花ノ栽培ニ適ス、殊ニ「ブガンダ」州及東部州ノ大部分ヲ然リトス

政府ハ棉ノ生産ヲ充分ナラシムル爲メ土人ニ對シ棉ノ耕作ヲ强制シ、各土人ハ必ス自家ノ農園ニ何程カノ棉ヲ栽培セサルヘカラサル事トナシ、同時ニ其ノ耕作法ヲ指導シ優良ナル種子ヲ供給シ、鋭意其ノ增殖ト共ニ品種ノ改良ニ努メ居レリ

(ロ) 栽培面積及輸出額

一九二六年ニ於ケル綿ノ地方別耕作英加ハ左ノ如シ

「ブガンダ」州	一〇三、〇〇〇
「メンゴー」地方	二五、〇〇〇
「エンテベ」地方	二〇、〇〇〇
「マサカ」	二五、〇〇〇
「ムベンデ」	一七三、〇〇〇
合計	
東部州	
「ブソガ」地方	八八、五〇三
「ブダマ」地方	三五、七五一
「ブリッエレ」	五三、一八七
「ブキシュ」	四五、九〇七
「テソ」	九九、三二九
「ランゴ」	六一、六九七
合計	三八四、三七四
北部州	
「ブンヨロ」地方	一三、九〇〇
「アル」地方	九、九三〇
「チュア」地方	七、四〇五
「ウエスト・ナイル」地方	五〇〇
合計	三一、七三五
西部州	
「トロ」地方	一、五三五
「ブンヨレ」地方	一〇〇
合計	一、六三五
總計	五九〇、七四四

但シ一九二三年ヨリ一九二七年迄五ヶ年間ノ輸出額ハ左ノ如シ（單位千磅）

一九二三年	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年
二、〇二七	三、四八七	四、六八六	三、〇五二	一、六九一

一九二七年ノ輸出ノ減少ハ天候不良ノ爲メ非常ナル不作ニ遭遇シタルト及價格下落シタルトニ依ル、但シ輸出ニ就テハ「ケニヤ」ノ外國貿易ノ部ニ於テ述ヘタレハ參照アリタシ

(ハ) 耕作者

玆ニ棉花ニ就テ特筆スヘキ事ハ本品耕作者カ全然土人ニ限ラルル事ニシテ歐洲人ノ手ニ依ル「プランテイション」式ノ農園存在セス、土人ハ孰モ自家ノ周圍ニ在ル小畑内ニ於テ適宜ニ栽培ス

ルモノニシテ、其ノ大サハ半英加位ヲ普通トスルモ、小ナルハ四分ノ一英加ヨリ大ナルハ二十五英加位ニ達スルモノナキニアラス、從來ノ當國生產ノ最高記錄ハ一九二五年ノ十八萬俵ニシテ、今後開墾ノ增加竝ニ栽培法ノ進步ニ伴ヒ年五十萬俵迄ハ增加ノ可能性アリト云フ

(ニ) 日本人耕作ノ可能性

「ヴガンダ」ニ於ケル英國人ハ珈琲ノ栽培ニ從事シ其ノ耕作地一六、三二〇英加ニ達スルモ棉ニ對シテハ未タ計畫ヲ爲ス者ナシ、余ハ同國農務局長ニ就キ「プランテイション」式棉花栽培ノ可否ニ關シ同官ノ意見ヲ尋ネタルニ同官ハ右ニ對シ目下ノ相場ニテハ土人ノ如ク副業的方法ニヨル外ハ到底成功ノ見極ナシトテ極メテ消極的意見ヲ述ヘタルカ、幸ヒ當國「カムバラ」附近ニ於テ多年農業ヲ營ム山邊義昭ト云フ人アリ、同氏ハ東京生ニシテ嘗テ駒場農科大學ニ在リ後轉シテ米國ニ遊學シ、同國大學ニテ農學ヲ專修シタル由ナルノミナラス、當國ノ農業ニ多大ノ經驗ヲ有スルニ依リ、同氏ニモ右ト同樣ノ質問ヲ爲シタルニ、同氏ハ農務局長ト意見ヲ異ニシ盛ニ棉花栽培ノ有利ナル事ヲ說キ、現ニ「カムバラ」附近ニ於テ三千英加ノ好地所ヲ發見シタルニ依リ、相當ノ資本家ト共同シ棉花及煙草ヲ栽培シ度キ希望ナリトテ其ノ意見書ト共ニ栽培明細書ヲ送リ越サレタリ、右ハ極メテ有益ナルモノニシテ多大ノ參考トナルヘキニ付左ニ摘錄スヘシ、有志資本家ノ考慮ヲ望ム

「ウガンダ」ハ棉花ノ名產地ナルモ土人ハ元來耕作ヲ好マス、他ノ地方ヨリ裸體ノ黑人ヲ雇入レ之ニ萬事ヲ任カシ、自已ハ殆ト之ニ關係セサル位ニテ品質又ハ耕作法ノ改良ノ如キ事ニハ殆ト無頓着ナリ、又政府ハ土人ニ對シ耕作ヲ指導スルモ到底行屆カサルノミナラス、土人自ラ農業ニ熱心ナラサルニ依リ其ノ效果極メテ乏シ、只當地ノ地味及氣候カ最モ棉作ニ適スルニ依リ、耕作法原始的ナルニ拘ラス尙善ク一英加ヨリ千二百片ノ收穫ヲ擧ケツツアル次第ナレハ、若シ吾等カ自ラ經營ノ任ニ當リ大規模ノ耕作ヲ爲ス時ハ容易ニ巨利ヲ博スル事ヲ得ヘシ、且ツ「ウガンダ」ハ棉花耕作ニ於テ有望ナルノミナラス食用作物及煙草ノ栽培ニモ亦甚タ適セリ、幸ニシテ英國官憲ハ常ニ吾等ニ對シテ好意ヲ表スルニ依リ、事業ノ經營ニ好都合ナルノミナラス、土人ノ勞力ハ非常ニ低廉ニシテ（苦力一人一ケ月十二志卽チ邦貨六圓）且ツ供給豐ナルニ依リ、勞力ノ爲メニ要スル經費尠シ、若シ日本人カ農業ヲ經營スルトセハ英國人ト同樣ニ政府ヨリ九十九年ノ借地ヲ爲ス事ヲ得ヘク、又土人ヨリ土地ヲ買入ル事モ自由ナリトス、且ツ此ノ地方ニ於ケル歐洲人ハ多クハ軍人上リニシテ極メテ農業ノ智識ニ乏シ、是レ彼等カ棉花栽培ニ着手セザル所以ナリ、余ハ玆ニ五ケ年ノ經驗ニ依リ栽培明細書ヲ作製シ各位ノ御淸鑑ヲ仰ク

一、栽　培　地　「ウガンダ」國「カンパラ」市外山邊農場耕地內
一、栽　培　種　目　棉花（米國陸地棉改良種）
一、栽　培　面　積　一英町
一、地　質　腐植壤土
一、氣　溫　平均華氏六十七度
一、發育期ニ受ケタル雨量　十三「インチ」
一、植付本數、一萬四千七百本　畦三呎間一呎
一、收穫英貨二百八十志十六仙　一等棉　一千二百六十英斤　二等棉　二百五十二英斤
一、栽培費英貨百四十二志五十仙也

內　譯

一、英貨五志五十仙　草刈十一人
一、同　二十一志　耕起四十二人
一、同　二十一志　土碎四十二人
一、同　七志五十仙　種蒔十五人
一、同　十　三　志　中耕二十六人
一、同　十　三　志　同
一、同　十　三　志　同
一、同　一　志　切二人
一、同　四十志五十仙　採取棉花八十一人
一、同　二　志　借地料
一、同　五　志　農具損料及管理雜費

以上ハ五ヶ年間實驗平均ニ依ル

(ホ) 播種、開花、收穫時期

播種、開花及收穫時期ハ地方ニ依リテ同シカラサルモ、大體ニ於テハ降雨ノ關係上東部ヨリ始リ西部ニ及フモノニシテ、其ノ大要ハ左ノ如シ

播種時期	
北　部　州	五月ヨリ九月
東　部　州	五月ヨリ七月
「ブガンダ」州	六月ヨリ九月
西　部　州	九月ヨリ十月
開花時期	
北　部　州	十月ヨリ十二月
東　部　州	十月ヨリ十二月

「ブガンダ」州　十二月ヨリ一月
四部州　三月ヨリ四月

収穫時期

北部州　十二月ヨリ二月
東部州　十二月ヨリ二月
「ブガンダ」州　二月ヨリ三月
四部州　四月ヨリ二月

(ヘ) 品質

「ウガンダ」棉花ノ品質ハ年ニ依リ又産地ニ依リテ異ナルモ、概シテ一吋乃至一吋十六分ノ三ノ「ステープル」ヲ有シ、米棉「ミドリング」ノ上位ニ在ルノミナラス、其ノ出廻期カ恰モ米棉ト交代スルニ依リ供給増加ノ場合ニハ之ヲ米棉ノ代用トシテ使用スルノ便アリ

最近聞ク所ニ依レハ政府ハ新種第十七號ヲ試植ノ結果之ヲ「ウガンダ」ニ好適ナリト認メ、「ブソガ」地方全體ニ同種子ヲ分配シ試植セシムル事トナシタル由ナレハ、果シテ成績良好ナル場合ニハ遠カラス「ウガンダ」棉ハ同種類ニ改良セラルルニ至ルヘシ

「ウガンダ」政府ハ實棉ヲ分ツテ左ノ三種ニ區別セリ

一、「ソード・ロー・コットン・ステイン」、葉埃、蕚埃其ノ他雜物ノ混入セサルモノ
二、「オーヂナリー・ロー・コットン」少シク雜物ノ混入スルモノ
三、上記以外ノモノ

又繰棉ハ左ノ四種ニ分カル

一、特等品　「ローラーヴン」ニテ操リタリ纖維一、八分ノ一吋以上ニシテ強力アリ、不純物ノ混入セサルモノ
二、一等品　普通ノ品質ニシテ軸葉等少シク混入スルモ他ノ雜物ヲ混セサルモノ
三、二等品　可ナリ良質ニシテ少シ軸、葉ヲ混シ多少ノ着色アルモ他ノ雜物ヲ混セサルモノ
四、三等品　右以外ノモノ

然レトモ實際市場ニ於テハ左ノ種類ニ分タル

實棉
A種　雜物ヲ含マサルモノ
B種　右以外ノモノ

繰棉
A R　實棉Aヲ「ローラーヴン」ニテ操リ上ケタルモノ
A S　同上「ソーヴン」ニテ操上ケタルモノ、但シ「ウガンダ」ニハ「ソーヴン」少シ
B R　實棉Bヲ「ローラーヴン」ニテ操上ケタルモノ
B S　同上「ソーヴン」ニテ操リ上ケタルモノ、但シ「ウガンダ」ニハ「ソーヴン」少シ

(ト) 原棉買入方法

棉花ノ收穫ヵ時ト地方トニ依リテ異ル事ハ前ニ說明シタル通リナルカ、之カ買附ノ開始ハ政府ニ於テ一定ノ日ヲ定ムルモノニシテ、多クハ一月一日頃ナリトス、從ツテ「カバス」卽チ實棉ハ右ノ期日前先物ノ賣約ヲ爲ス事能ハサルモ、「リント」卽繰棉ノ先物豫約ハ差支ナシ、而シ商人カ棉花ノ買附ヲ爲スハ繰棉工場、公設市場又ハ市營買入所ニ於テ爲スモノナルカ、東部前ニ於テハ繰棉工場又ハ公設市場以外ノ場所ニ於テ爲ス事ヲ禁シ、「ブガンダ」州ニ於テハ繰棉工場、公設市場、又ハ私設買入所ノ內孰レニ於テ買入ルルモ差支ナシ

今是等ノ買付機關ニ就テ左ニ說明スヘシ

1 繰棉工場

農務局ノ報告ニ依レハ一九二六年ニ於ケル繰棉工場ハ一七六ケ所繰棉機械ハ「ローラージン」一六七〇個、「ソージン」一〇九、合計一、七七九個ニシテ、其ノ內譯ハ左ノ如シ

地方	工場數	「ローラージン」	「ソージン」	「ジン」合計
北部州	一〇	八四	四	八八
東部州	九九	九二三	九五	一〇一八
「ブガンダ」州	六五	六五七	八	六六五
西部州	二	一七六	六	二
合計		一六七〇	一〇九	一七七九

右ノ工場經營者ノ約三分ノ二ハ歐洲人ニシテ、他ハ印度人ニ屬シ日本人經營ノモノハ七個所アリ、孰レモ一九二六年日本棉花株式會社カ印度人ヨリ買收シタルモノナリトス、但シ歐洲人經營ノモノハ印度人ノ夫ニ比シ規模遙ニ大ニシテ、「ソージン」ハ多クハ英國人ノ所有ニ屬ス、但シ政府ハ現在ノ繰棉工場ヲ中心トシ十哩以內ノ地ニ同一設備ヲ爲ス事ヲ許サス

2 中央市場

中央市場制度ハ東部州ニ於テ行ハルルモノニシテ、政府ハ棉花栽培地ノ中心ニ公設倉庫ヲ設ケ之ヲ「セントラルマーケット」ト稱シ、買付季節中棉花商ヲシテ每日茲ニ集合シ政府監督ノ下ニ買入値段ヲ定メテ之ヲ公表セシメ土人ヨリ實棉ヲ買入レシムルモノニシテ、繰棉工場ノミニテハ原棉ノ買入ニ不便且不充分ナルニ依リ、其ノ缺點ヲ補フト同時ニ値段ニ關スル政府ノ取締ノ目的ヲ達セントスルモノナリ

3 私設買入所

私設買入所ハ所謂「ストアー」ト稱スルモノニシテ、「ブガンダ」州ニ於テ行ハルルモノナルカ、

東部州ニ於ケル市場ノ代リニ繰棉工場所有者又ハ仲買商カ政府ノ認可ヲ得テ之ヲ設立スルモノニシテ、政府ハ十哩以内ノ地ニ二個以上ノ買入所設立ヲ許サスト云フ

以上何レノ方法ニ依ルヲ問ハス結局原棉ハ繰棉工場ニ集中セラレ、此所ニテ「リント」卽チ繰棉トセラレ、之ヲ一立方呎二五封度ノモノニ壓搾シ容積十六立呎重量四百封ノ俵ニ荷造ス（重量五俵半ニテ一噸二〇Cwt、容積二俵半一噸四〇立方呎）

尙棉花ノ買入値段ハ一旦公定セラレタルモノハ其ノ日中更ニ之ヲ引上クル事ハ差支ナキモ引下ハ之ヲ許サス

「ウガンダ」棉買入時期ニ當リ日本人中現場ニ於テ直買ヲ爲ス者ハ日本棉花株式會社、東洋棉花株式會社、江商株式會社ノ三會社ニシテ、第一ノ會社ハ在「モンバサ」支店ヨリ、又第二第三ノ會社ハ在孟買支店ヨリ夫々店員ヲ派遣スルモノナルカ、東洋棉花及江商ハ印度人ヲ「エジェント」トシ、其ノ所有スル繰棉工場ヲ根據トセリ

斯クノ如クニシテ日本ノ各會社ハ右ノ直買ヲ爲スト共ニ印度人ヨリモ盛ニ買收スルモノニシテ、「ウガンダ」產棉ノ約三分ノ一乃至四分ノ一ハ本邦ニ輸出セラレツツアル有樣ナルカ、右ニ對シ「ウガンダ」政府ハ何等妨害ヲ加フルカ如キ事ナキモ、「マンチェスター」方面ニ於テハ英帝國棉業奬勵竝ニ保護ノ趣旨ニ反スルモノナリトテ苦情ヲ唱フ者アリトノ事ナレハ、東阿ニ於ケル本邦商人ノ將來地位ヲ確保スル爲メニハ成ルヘク速ニ繰棉工場ヲ新設又ハ買收シ以テ其ノ地盤ヲ固ムル事最モ必要ナリト信セラル

（チ）繰棉買入方法

繰棉買入ハ東部州ニ於テハ「ジンジャ」、「ブガンダ」州ニ於テハ「カンバラ」ヲ中心市場トス、但シ原棉ハ政府ニ於テ賣買開始ノ日ヲ公定スルモ繰棉ニ就テハ之ヲ自由トス、從ツテ原棉取引開始前ニ於テ先物ノ賣買ヲ行フ事決シテ珍シカラス、其ノ條件ハ「ジンジャ」、「カムバラ」又ハ「ムジャンジ」棧橋渡一封度何程トシ、代金ノ支拂ハ鐵道ノ荷受證書引換トス、但シ其ノ取引ハ多ク仲買人ヲ介シテ行ハレ其ノ手數料ハ賣手持2%トス、品質ニ付苦情ヲ生シタル時ハ當事者相方ヨリ一人宛ノ仲裁人ヲ選ヒ其ノ裁斷ニ一任スル習慣ナリ

（リ）積出

東部地方ハ收穫早キニ依リ積出モ亦早ク開始セラレ普通一月末ヨリ五月ニ及ヒ、「ブガンダ」地方ハ夫ヨリ稍々遲レ二月末ヨリ八月ニ及フ、從ツテ三月ヨリ五月ニ至ル間ハ兩地方ノ棉花一時ニ輻輳シ出荷最モ盛ナリ、但シ內地ノ輸送ハ水路ノ便多キト且ツ自動車道路發達セルトニ依リ極メ

テ圓滑ニ行ハレ、從來ハ「キヲガ」湖附近ノモノハ一旦「ナマサガリ」ニ集リタル上、更ニ「ブソガ」鐵道ニ依リテ「ジンジャ」ニ送ラレ、又其ノ他ノ地方ノモノハ便宜ニ從ヒ或ハ「ジンジャ」ニ、或ハ「ムジヤソジ」ニ、或ハ又「カムバラ」ノ港「ポートベル」ニ集リ、夫ヨリ「ヴィクトリア」湖上汽船ニヨリテ「キスム」ニ送ラレ、同地ヨリ「ウガンダ」鐵道ニ依リ「モムバサ」ニ輸送セラレタルモ、一九二八年一月ヨリ「ウアシン・ギシュー」支線延長完成シ、「ヴソガ」鐵道ノ終點驛「ジンジャ」ト「モムバサ」ト直通スルニ至リタルヲ以テ、從來湖上汽船ニ依リタル貨物ノ內「ジンジャ」驛以東ニ出ツル事ヲ便利トスルモノハ總テ右ノ直通線ヲ利用スル事トナレリ

棉花ノ輸送運賃ハ左ノ如シ

「ウガンダ」鐵道運賃（一立方呎ニ付二五封度ニ壓搾セラレタル繰綿一〇〇封度ヲ單位トス）	二志六〇仙
「キスム」、「キリンジニ」間	三志五八仙
「ジンジャ」、「キリンジニ」間（湖上經由）	三志五八仙
「ポートベル」同	三志九〇仙
「ブソガ」鐵道各驛	
船積運賃（「モムバサ」ヨリ四〇立方呎噸ニ付）	
日本行（大阪商船會社）	三二志五〇仙
孟買行（「ビー、アイ」）	二〇志〇〇仙　割戻一割
歐洲各港（各社均一）	四五志〇〇仙
內地自動車運賃一哩一噸ニ付	一志半
「キリンジニ」港ニ於ケル積込諸費一噸ニ付七志半、上屋藏置期間ハ三週間、但シ一週間ニ短縮セントスル議アリ	

（ヌ）棉花輸出稅

「ウガンダ」ニ於テハ一九一九年ノ法律ニ依リ棉業開發ノ資金ニ充ツル爲メ棉花ニ對シ輸出稅ヲ設ケ、其ノ稅率ハ一九二六年末迄ハ一封度ニ付六仙ノ均一規定ナリシモ、一九二七年一月ヨリ之ヲ左記ノ通リノ累進率ニ改正セリ、但シ新稅率ハ前年十二月ノ「リバプール」棉花取引所ノ最終立會月タリ十四日十五日又ハ十六日ノ米棉「ミッドリング」ノ六月先物ノ締切價格ヲ基準トシ累進的ニ課稅セルモノナリトス

締切價格	輸出稅
一封度ニ付六斤以下	無稅

同　六斤以上七斤　二仙
同　七斤以上八斤　三仙
同　八斤以上九斤　四仙
同　九斤以上十斤　五仙
同　十斤以上十三斤　六仙
同　十三斤以上十四斤　七仙
同　十四斤以上十五斤　八仙
同　十五斤以上　九仙

即一九二七年ハ棉花下落ノ爲メ稅金一封度ニ付キ二仙ニシテ之ニ依リテ政府ノ得タル收入ハ左ノ如シ

一九二二年	六四、〇三四磅	一九二三年　一一一、三八五磅
一九二四年	一五八、六一五	一九二五年　二一六、九八三
一九二六年	一九九、八九七	

(三)　棉花以外ノ主要農產品

(イ)　珈琲

「ウガンダ」ニ於ケル歐洲人ノ耕作ハ珈琲ト「ゴム」トノミニシテ、珈琲ハ全耕地一萬九千英加ノ內土人ノ耕地ハ三千英加ニ止リ、他ハ總テ歐洲人ノ經營ニ屬セリ、但シ其ノ大多數ハ「ロバスタ」種ニシテ、他ハ僅少ノ「アラビカ」種トス、蓋シ海拔四、五〇〇呎以下ノ處ニ於テハ「アラビカ」ハ克ク成育セサルニ由ル

(ロ)　「ゴム」

「ゴム」ハ歐洲人ノ栽培スル所ニシテ、一時價格下落ノ爲メ非常ニ悲觀セラレタルモ、一九二五年價格回復ノ爲メ稍愁眉ヲ開ケリ

(ハ)　甘蔗

甘蔗ハ國內至ル處ニ於テ栽培ニ適シ今後有望ト見做サル、目下「カムバラ」附近ニ於テ印度人「ナンジ・カリダス」ノ經營セル耕地ハ約千五百英加ニシテ其ノ製糖工場ハ一ケ年約六千乃至七千噸ノ甘蔗ヲ消費スト云フ

(ニ)　「バナナ」及黍

「バナナ」ハ「ウガンダ」土人ノ常食ニシテ、黍ハ東部地方ノ土人ノ常食トスル所ナリ、即チ全國ニ於テ一ハ約八十八萬英加他ハ七十五萬英加ヲ栽培シ、棉花ノ五十九萬英加ニ對シ遙ニ優勢ノ地位ヲ占ム

(ホ) 薩摩芋

薩摩芋モ亦土人ノ主要食料品ノ一ニシテ、耕地面積四十萬英加餘ニ達ス

(四) 「ウガンダ」ニ於ケル適作品

前記「カムバラ」在留山邊義昭氏ハ當國ニ於ケル適作農產物ノ耕作成績ナリトテ、其ノ要領書ヲ送リ越サレタルニ依リ其ノ寫ヲ左ニ掲ク

一、薄荷 一英町ニ赤丸種ヲ栽培セシニ其ノ發育良好ニシテ年六回ノ收穫ヲナセリ、品質ハ内地產ノ如ク其ノ香味辛烈粗險ノモノテナク北米品ニ類似シ稍々優良ノモノヲ得タリ其ノ收穫ハ一萬二千磅テ能率ハ略六十%テアル(三ヶ年間ノ平均)

病虫害ナシ

一、除虫菊 一英町ニ赤花種ヲ栽培セシニ其ノ發育良好ニシテ移植後二年ニシテ其ノ收穫乾花五百四十二封度(英作)ヲ得タリ(三年間平均)

一、茴香 年々一英町ニ付三百五十磅乃至三百八十封度ノ收穫ヲナシツツアル、毛肥料、年四回ノ除草テアル

一、薑 一英町ニ種薑一千五百封度ヲ栽培セシニ其ノ收穫一萬六千餘封度ヲ得タリ(三ヶ年間ノ平均)

一、大麻 一英町ヲ栽培セシニ其ノ發育良好ニシテ製芋七百五十封度ヲ收穫セリ(五ヶ年間平均)

一、小麥 當國ノ氣溫、土性ニ適シ其ノ發育良好ニシテ加フルニ病虫害ノ損失ヲ見ス、五ヶ年間通常小麥種ヲ栽培セシニ其ノ收穫平均一千六百五十封度ノ收穫ヲナセリ

一、陸稻 發育良好ニシテ一英町ノ收穫一千九百封度ヲ收メタリ

一、粟 蜀 發育良好 一英町ノ收穫八百二十封度

一、蜀黍 所々野生アリ 一英町ノ收穫一千三百封度

一、玉黍 發育良好 一英町ノ收穫二千一百封度

一、大豆 發育良好 一英町ノ收穫八百五十封度

一、小豆 發育良好 一英町ノ收穫七百八十封度

一、豌豆 發育良好 一英町ノ收穫六百餘封度

一、甘藷ハ土人ノ常食トシテ汎ク栽培セラレ其ノ收穫一英町一回一萬千五百封度ニシテ年三回ノ收穫カ出來ル病害ナク蝕害トシテハ「エピガラ」蛾ノ幼虫ヤ小蛾ノ幼虫ノ大害(乾期ニ)アル事モアル

一、爪哇薯土人間ニモ栽培セラレ發育良好ニシテ收穫九千二百封度ヲ得ル虫害ナシ病害トシテ立枯病ニカカル事アリ

一、桑樹ハ所々ニ野生アリ四季採桑カ出來ル當國ノ氣溫ハ養蠶ニ適シテヲルカラ有望ノモノト思フカ余ニ實驗ナシ

一、茶 一英人カ試驗的ニ經營シテ居ルカ成績良好テ四季採葉カ出來ルシ勞賃低廉テアルカラ將來有望ナラン

一、煙草ハ五ヶ年間栽培及研究ヲ重ネテ居ルカ其ノ發育良好テ先ツ當東「アフリカ」洲ノ最適作ト認ムル、余ハ「アメリカン」黃色種「ハバナ」種ヲ栽培シ年々「アアン」ノ煙草工場ヘ輸出シテ居ルカ將來有望ノモノト思フ一英町ノ收獲ハ一千二百封度内外テ病虫害ハ見ナイ栽培費トシテハ僅カニ一英町一百九十志テアル

一、草綿 一英町ノ收獲一千二百三十封度内外ニシテ栽培費ハ毎年一英町ニ付百三四十志内外テアル(栽培明細書ハ前ニ示セシ通リ)

一、更ニ煙草ノ實地栽培明細書ヲ左ニ掲ク

實地煙草栽培明細書

一、栽培地 英領東「アフリカ」洲「ウガンダ」國「カンバラ」市郊外、山邊農場耕地内

一、栽培種目　煙草（米國黃色種、「ハバナ」種）
一、栽培面積　一英町
一、地質　粘質壤土
一、氣溫　平均華氏六十七度
一、發育期ニ於ケル雨量十一「インチ」
一、植付本數、七千七百本　畦三尺間二尺
一、收穫英貨一千六百八十志　收穫乾燥煙草一千一百二十英斤
一、栽培費英貨一百八十九志五十仙也

內譯

一、英貨五志五十仙	草刈十一人	
一、同　二十一志	耕起四十二人	
一、同　二十一志	土碎四十二人	
一、同　三十八志五十仙	畦造リ七十七人	
一、同　十志	移植二十人	
一、同　十五志五十仙	中耕三十一人	
一、同　十五志五十仙	中耕三十一人	
一、同　八志	切及手入十六人	
一、同　四十二志五十仙	刈取及乾燥八十五人	

一、同　二志　借地料
一、同　十志　農具及管理雜費
以上ハ五ヶ年間ノ實驗平均

第一三、牧畜、森林、鑛業

當國ニ於ケル家畜ノ種類及數ヲ州別ニシテ示セハ左ノ如シ（單位一千頭）

種類／州別	「ブガンダ」州	東部州	北部州	西部州	合計
牛	一六一	七九八	一一六	二六二	一、三三七
羊	四八	五八七	六二	一六九	八六六
山羊	三二八	四六七	九五	三四四	一、二三四
驢馬	—	九	—	—	九
合計	五三七	一、八六一	二七三	七七五	三、四四六

一九二六年ニ於ケル牛革ノ輸出ハ一、六四二、六〇〇封度此ノ價二七、三五七磅、羊及山羊毛皮一九、〇八一、二五〇封度此ノ價五、一七三磅ニ達セリ

當國ニハ森林極メテ少シ、一九二六年ノ青書ニ依レハ常盤樹地帶合計百五十萬英加ニシテ其ノ內伐木許可濟ノモノ約十一萬三十英加ナリト云フ

當國ニハ鑛產物ノ生產ナシ、但シ近年西部州ニ於テ錫鑛ノ發見アリ、其ノ區域極メテ廣大ニテ今後有望ナリトノ事ナルモ、未タ採掘ノ域ニ達セス

石油ニ關シテハ從來西方奥地ノ「アルバート」湖及「エドワード」湖方面ニ於テ多少ノ「インヂケーション」アリト云ハルルモ未タ試掘シタル事ナシ、依ツテ政府ハ最近「アングロ・パーシャン」石油會社ヲシテ之ヲ調査セシム事トシ、同會社ハ既ニ調査委員ヲ派遣シタル由ナルモ未タ其ノ結果ヲ知ラス

鐵ニ關シテハ從來土人中ニ極メテ幼稚ナル採掘ヲ爲スモノアリトノ事ナルモ其ノ實狀明カナラス

第一四、交　通

(一)　鐵　道

(イ)「ブソガ」鐵道　六十一哩

「ヴィクトリア」湖畔「ジンジャ」ヨリ「ナイル」河ノ東岸ニ沿フテ北走シ「キオガ」湖畔ノ「ナマサガリ」ニ達スルモノニシテ、一九二八年一月落成シタル「ウガンダ」鐵道ノ支線「ウアシンギシウ」線ト「ブソガ」鐵道ノ中間驛「ムブルムニ」ニ於テ之ト連絡シタル結果、本線ハ「ウガンダ」鐵道本線ヲ通シ「モムバサ」ニ直通スル事トナレリ

(ロ)「カムバラ」鐵道　延長六哩

「カムバラ」ヨリ「ヴィクトリア」湖畔ノ「ポートベル」ニ至ルモノニシテ、「カムバラ」ト「ケニヤ」トノ交通ノ要路ニ當ル

(二)　水　路

(イ)「ヴィクトリア」湖

其ノ大要ハ「ケニヤ」交通ノ部ニ於テ說明シタルニ依リ略ス

(ロ)「キヲガ」湖

「ナマサガリ」ヲ起點トシテ東廻線、西廻線、「ナイル」線ノ三航路ヲ設ケ最初ノ二線ハ毎週一回、最後ノ一線ハ二週間ニ一回出帆シ、貨物及旅客ノ運搬ヲ爲ス

(ハ)「アルバート」湖

湖水ノ東北岸「ブチアバ」ヲ起點トシ「ナイル」河ヲ下航スルモノト、及東岸ノ「ブティアバ」ヲ起點トシ對岸白領「コンゴー」側ニ航行スルモノトニ航路ヲ設ケ、二週間ニ壹回出帆シ、貨物及旅客ノ運搬ヲ爲ス

(三) 道路

「ウガンダ」ハ東阿弗利加ニ於テ最モ好良ナル道路ヲ有シ自動車自轉車ノ往來頻繁ナリ、蓋シ棉花ノ運搬ヲ容易ナラシムル事ヲ目的トスルモノニシテ、其ノ延長左ノ如シ

「ブガンダ」州	第一級	三七七哩
	第二級	一七五哩
	第三級	五二哩
	合計	六〇四哩
西部州	第一級	八一哩
	第三級	一三〇哩
	合計	二一一哩
北部州	第一級	一〇九哩
	第二級	四八哩
	第三級	一二哩
	合計	一六九哩
東部州	第一級	三四九哩
	第二級	一一四哩
	第三級	四八哩
	合計	五一一哩
總計		一、四九五哩

此ノ建設費合計二五六、七八〇磅ヲ要セリ

右道路ニ於テ政府ハ貨物自動車ヲ運轉ス、但シ道路ノ好良ナルニ拘ラス揮發油高價ナル爲メ運搬費極メテ高價ニシテ五噸積貨物自動車運轉費一噸一哩ニ付二志ヲ要スルヲ以テ、棉花栽培地ヨリ鐵道驛又ハ湖港迄ノ經濟的最短距離ハ約六〇哩ヲ限度トスト云フ

之ヲ要スルニ內地ノ交通ハ年々發達シツツアルモ、貨物ノ輸入及輸出ハ孰モ遠隔ノ地方ヲ運搬セサルヘカラサルニ依リ運賃ノ高價トナルハ已ムヲ得ス、然レトモ「ウガンダ」鐵道ノ經營ハ逐年改良セラレツツアルノミナラス最近「ウアシンギシウ」鐵道支線ノ開通ト共ニ從來ノ如ク「ヴィクトリア」湖上ヲ迂回スル必要ナキニ至リタルニ依リ、將來產業ノ發達ト共ニ漸次運賃率ノ緩和ヲ見ルニ至ルヘシ

第一五、金融

(一)通貨

「ケニヤ」ト同一貨幣ヲ使用ス

(二)銀行

The National Bank of India, Ltd.

資本金　二、〇〇〇、〇〇〇磅

本店　倫敦

支店　「カムバラ」、「ジンジャ」、「ナマサガリ」

The Standard Bank of South Africa, Ltd.

資本金　二、二二九、一六五磅

本店　倫敦

支店　「カムバラ」、「ジンジャ」

第一六、度量衡

英本國ノ度量衡ヲ用ユ

第一七、關稅制度

「ウガンダ」ハ元獨立ノ關稅制度ヲ有シタルモ、一九一七年四月「ケニヤ」ト關稅同盟ヲ結ヒ爾來同一關稅ヲ採用スル事トナレリ、但シ現行關稅法ハ一九二三年ノ制定ニ係ルモノニシテ、其ノ要領ハ「ケニヤ」關稅制度ノ部ニ於テ說明シ置キタレバ參照アリタシ

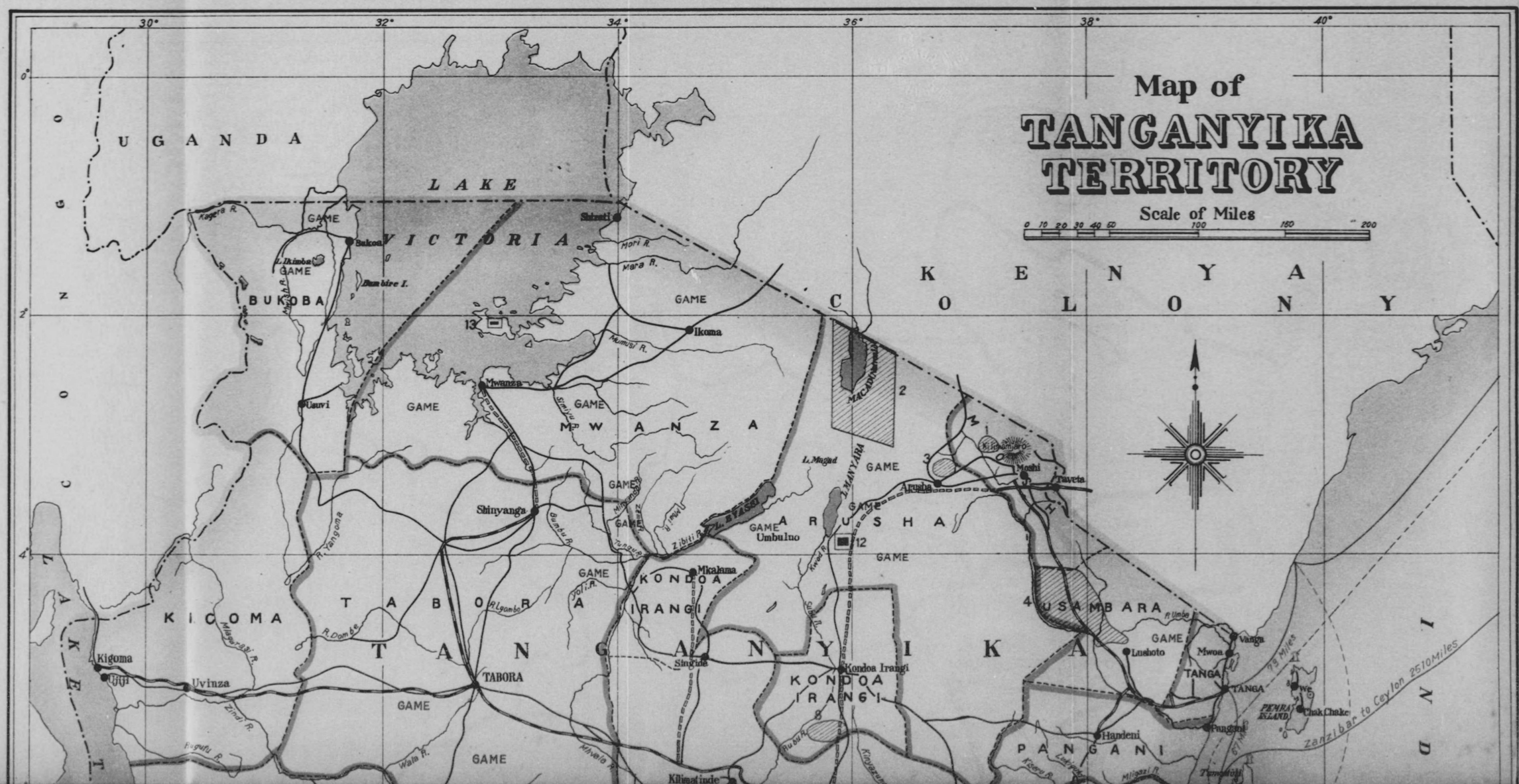
第一八、移民規則

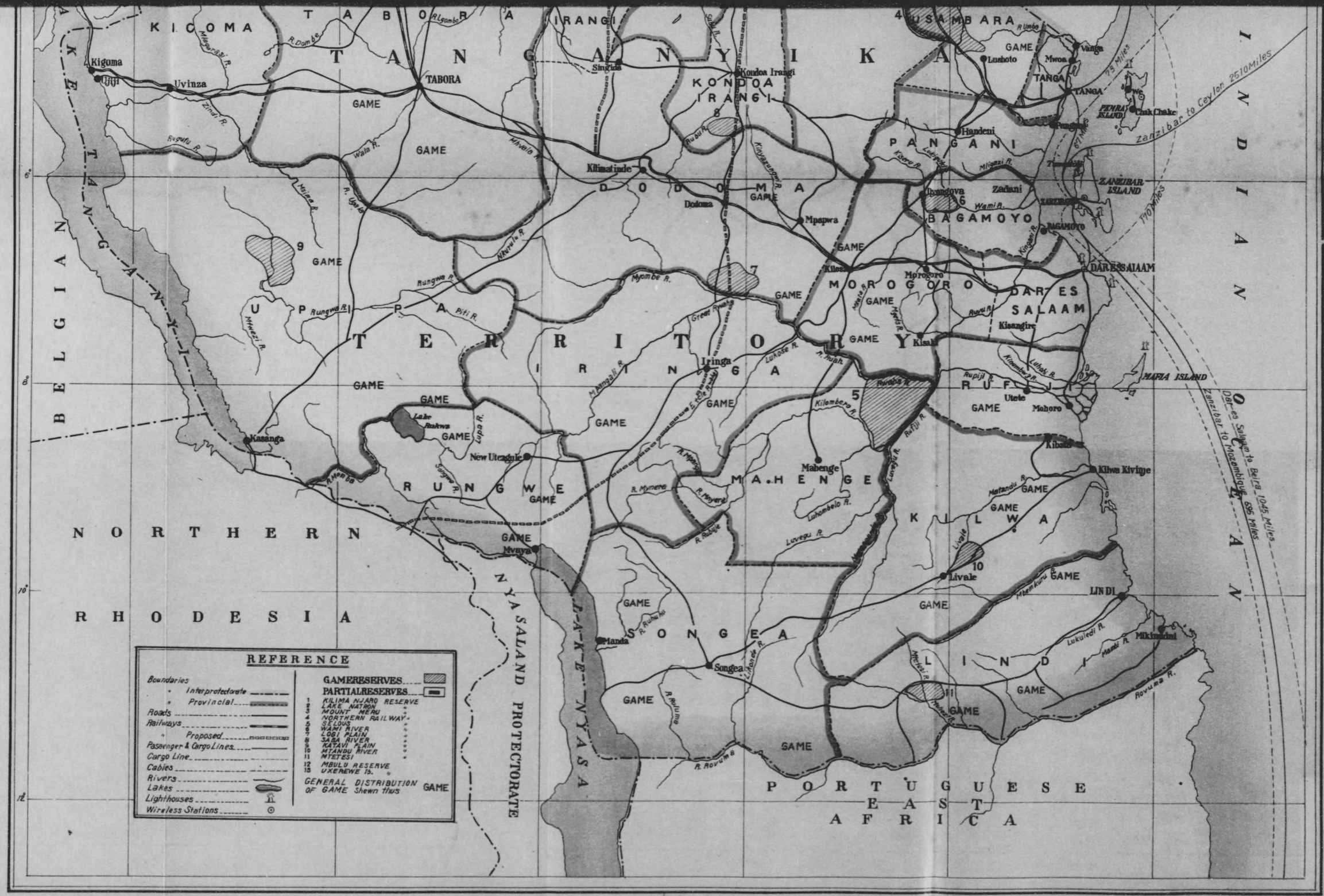
「ウガンダ」ノ移民法ハ「ケニヤ」ノ移民法ト其ノ內容ヲ同フシ、「ケニヤ」ヨリ入國スル者ニ對シテハ何等手續ヲ要セサルカ如ク係官ノ取締ナシ、「タンガニカ」方面ヨリノ入國ニ就テモ同樣ナル模樣ナリ、「ケニヤ」ノ移民ノ部參照アリタシ

第一九、外國貿易

外國貿易ハ「ケニヤ」外國貿易ノ部ニ於テ一括說明シタルニ依リ略ス

「タンガニカ」委任統治地事情


Map of
TANGANYIKA
TERRITORY
Scale of Miles
0 10 20 30 40 50 100 150 200
30°
32°
34°
36°
38°
40°
0°
2°
4°
UGANDA
LAKE
VICTORIA
KENYA
COLONY
BUKOBA
GAME
Bukoba
Bumbire I.
Kagera R.
L. Ikimba
Musira R.
Mara R.
Mori R.
Shirati
Ikoma
Mwanza
Uzuvi
MWANZA
Shinyanga
Bubu R.
Tinguma R.
Mbarangandu R.
Zibili R.
L. BASSO
Umbulno
L. Magad
L. MANYARA
Arusha
Moshi
Taveta
Kilimanjaro
MACDONALD
ARUSHA
Kwa R.
Mkalama
KONDOA
IRANGI
Singida
Kondoa Irangi
Ugalla R.
Dom'e R.
Mlagarasi R.
KIGOMA
Kigoma
Ujiji
Uvinza
TABORA
Zindi R.
Fugutu R.
Wala R.
Mihale R.
Kilimatinde
Rubu R.
Kinyasungwe
Kisigo R.
Lukigura
Mligazi R.
Tamarindi
PANGANI
Handeni
USAMBARA
Lushoto
Mwoa
Vanga
TANGA
Pangani
PEMBA ISLAND
Chak Chake
79 Miles
67 Miles
Zanzibar to Ceylon 2510 Miles
INDIA
LAKE TANGANYIKA
Uzumbe R.
Ruvu R.
Kisigo R.
Mligazi R.


KIGOMA
TABORA
TANGANYIKA
IRANGI
KONDOA IRANGI
USAMBARA
PANGANI
DODOMA
BAGAMOYO
MOROGORO
DARES SALAAM
RUFIJI
MAHENGE
KILWA
LINDI
SONGEA
RUNGWE
UPPA
TERRITORY
BELGIAN CONGO
NORTHERN RHODESIA
NYASALAND PROTECTORATE
LAKE NYASA
PORTUGUESE EAST AFRICA
INDIAN OCEAN
Kigoma
Ujiji
Uvinza
Singida
Kondoa Irangi
Lushoto
Vanga
Mwoa
TANGA
PEMBA ISLAND
Chak Chake
Handeni
Kisarawe
Mikindani
Zanzibar to Ceylon 2510 Miles
73 Miles
67 Miles
110 Miles
ZANZIBAR ISLAND
Zadani
Kwandova
Kilosa
Morogoro
Kisangire
Kisaki
DARESSALAAM
MAFIA ISLAND
Utete
Mohoro
Kibata
Kilwa Kivinje
Livale
LINDI
Mikindani
Mpapwa
Dodoma
Kilimatinde
Iringa
Mabenge
Kasanga
New Utengule
Lake Rukwa
Mpanda
Songea
Manda
Mbeya
Tabora
Zanzibar to Mozambique 635 Miles
Dar-es-Salaam to Beira 1045 Miles
REFERENCE
Boundaries
Interprotectorate
Provincial
Roads
Railways
Proposed
Passenger & Cargo Lines
Cargo Line
Cables
Rivers
Lakes
Lighthouses
Wireless Stations
GAMERESERVES
PARTIALRESERVES
1 KILIMA NJARO RESERVE
2 LAKE NATRON "
3 MOUNT MERU "
4 NORTHERN RAILWAY "
5 SELOUS "
6 WAMI RIVER "
7 LOGI PLAIN "
8 SABA RIVER "
9 KATAVI PLAIN "
10 MTANDU RIVER "
11 NITETESI "
12 MBULU RESERVE
13 UXEREWE 15. "
GENERAL DISTRIBUTION OF GAME Shewn thus GAME

「ダレサラーム」港埠頭ノ狀況　入港船ハ總テ沖係リトス

同上　陸地ヨリ港口ヲ望ム

「ダレサラーム」市「アラブ」街ノ光景
日本綿花株式會社出張所左側中央中ニ在リ　是等ノ建物ハ戰時中敵ハ財産トシテ賣却セラレ印度人ノ巨商之ヲ買收ス

同　上「アケシア」街ノ光景
住宅地ニシテ獨逸時代ニ建設セラル　並木ハ「アケシア」樹

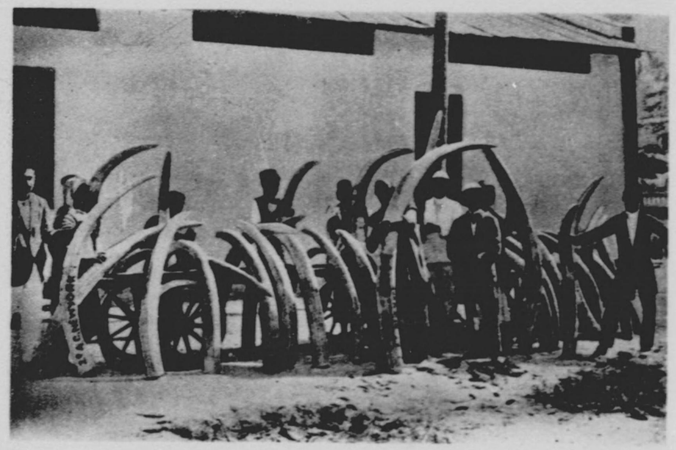
「ダレサラーム」市ニ於ケル土人街

「サ イ ザ ル」耕 地

「タンガ」地方ニ於ケル印度人巨商「エスマルジー・ジーワンジー」氏ノ經營セルモノナリ

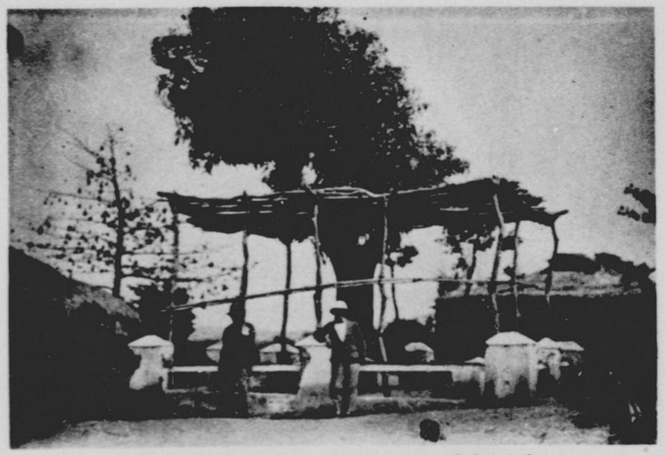
「サイザル」乾燥ノ狀況
「タンガ」地方ニ於ケル印度人巨商「エスマルジー・ジーワンジー」氏ノ
經營セルモノナリ

「ダレサラーム」市ニ於ケル輸出象牙荷造ノ光景



「ダレサラーム」市ニ於ケル輸出象牙檢査ノ光景

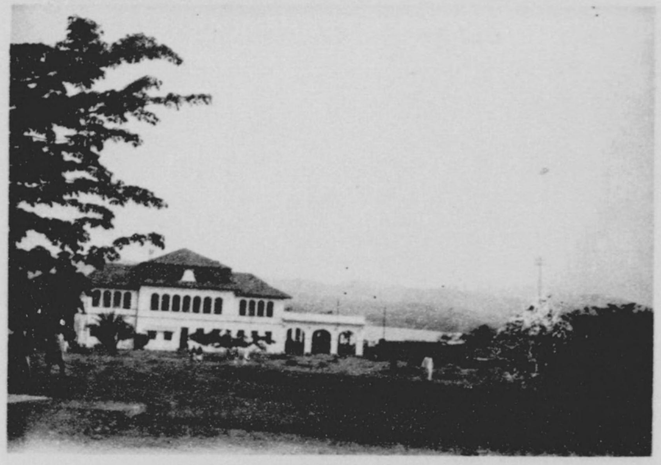
「キリマンジャロ」山ノ雄姿
圖ハ海拔一九七一〇呎ノ最高峯「キボー」ノ白雪ヲ頂ク狀



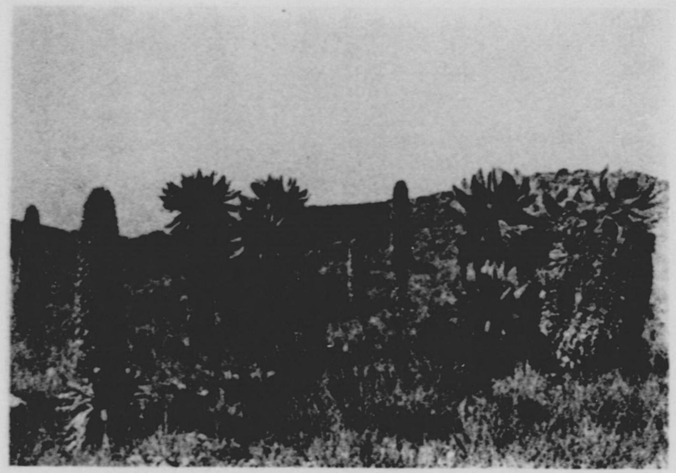
「リヴインゲストーン」及「スタンレー」會合紀念碑
二雄會合ノ地ハ綠滴ル「マンゴー」樹下　今ハ之ニ柵チ圍ラシ記念碑
碑チ建テ「リヴインゲストーン・スタンレー」一八七一ト刻セリ

名所「ウジジ」ノ里
此ハ二大探險家「リヴインゲストーン」及「スタンレー」會合ノ地　當
時ノ遺跡「マンゴー」樹今尙存セリ

「タンガニカ」湖畔ノ「キゴマ」
「ダレサラーム」ヨリ約八百哩ノ奥地「キゴマ」ノ光景、湖水ノ彼方ハ白耳義領「コンゴー」トス



「キゴマ」鐵道停車場
「タンガニカ」東阿中央鐵道ノ終點驛ニシテ「タンガニカ」湖畔ニアリ



「ギリマンジヤロ」高峯上ニ於ケル高山植物

「タンガニカ」委任統治地事情

第一、位置及面積

「タンガニカ」委任統治地ハ南緯一度ヨリ同十一度半及東經約二十九度ヨリ同約四十度ノ間ニ横ハリ、北ハ「ケニヤ」、「ヴィクトリア」湖及「ウガンダ」、西ハ白領「コンゴー」及「タンガニカ」湖、南ハ北「ローデシヤ」、「ニヤサ」湖、葡領東阿ニ接シ、東ハ印度洋ニ面シテ其ノ海岸線「ウムバ」河ヨリ「ロブマ」河迄約五百哩ニ亙リ、其ノ面積ハ水面二〇、〇〇〇平方哩、陸地三五三、四九四平方哩合計三七三、四九四平方哩ニシテ我領土ノ約一倍半ニ當ル

第二、地勢

地勢ハ大體ニ於テ「ケニヤ」ニ類似シ、海岸ヨリ西方ニ赴クニ從ヒ次第ニ隆起シ約百哩ニシテ「ウサガラ」山脈トナル、同山脈ハ海岸ニ並行スル沿岸山脈ニシテ、其ノ最高峯ハ海拔六、五〇〇呎ニ達ス、此ノ山脈以西ハ總テ大高原ニシテ海拔三千呎乃至四千五百呎ノ地高ヲ維持シ、西方ニ於